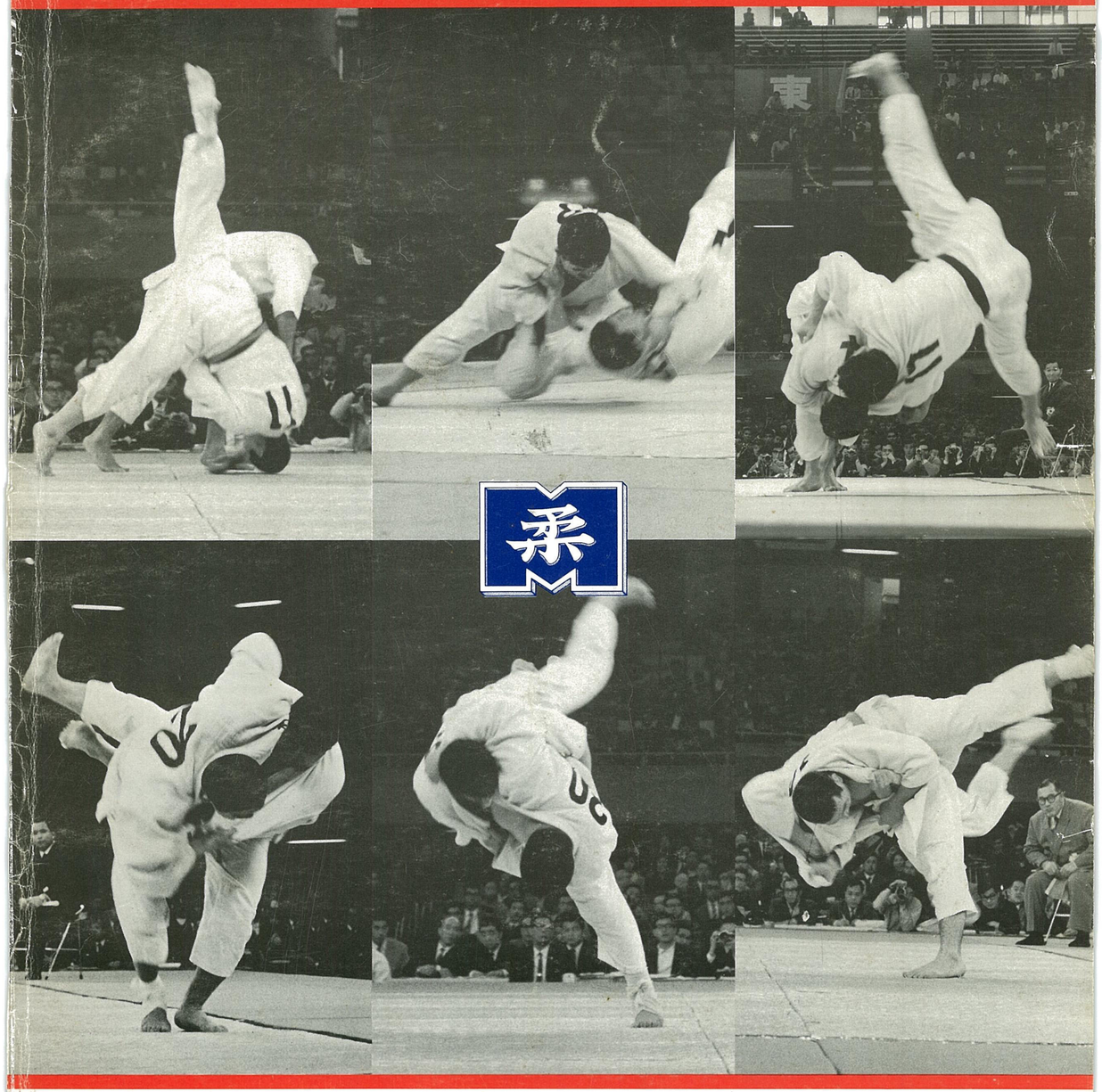
明治大学柔道部明柔会会報



MEIJI UNV. JUDO CLUB PERIODICALS

明柔 85,L

写真集　闘志の春秋



創部80周年記念号

祝 創部八〇周年



明治大学駿河台本館

明治大学校歌

(一)
白雲なびく駿河台　眉秀でたる若人が
撞くや時代の暁の鐘　文化の潮みちびきて
遂げし維新の栄になふ　明治その名ぞ吾等が母校
明治その名ぞ吾等が母校

(二)
権利自由の揺籃の　歴史は古く今もなほ
強き光に輝けり　獨立自治の旗翻し
高き理想の道を行く　我等が健児の意気をば知るや
我等が健児の意気をば知るや

(三)
霊峰不二を仰ぎつゝ　刻苦研鑽他念なき
我等に燃ゆる希望あり　いでや東亜の一角に
時代の夢を破るべく　正義の鐘を打ちて鳴らさむ
正義の鐘を打ちて鳴らさむ

序にかえて



部長　百瀬　恵夫

明治大学柔道部の輝ける歴史は、明治大学体育会の歴史そのものでもある。創部八十周年を記念するに当たり、わが柔道部の歴史を写真集「闘志の春秋」によって、ここに再現することができた。誠に意義深いものがあり、編集に当られた諸先輩並びに快く資料を提供された関係者各位に対して深甚なる感謝を申し上げる次第である。

歴史と伝統の重厚さは、先人の努力と研讃の蓄積に他ならない。その歴史を文章(文字)で残すことは、精神や思想を伝えることができ、知性に訴えるものがある。又写真は、往時の姿をそのままに再現し、視覚を通して感性に訴えるものがある。いずれも、歴史を後世に伝える術として重要である。

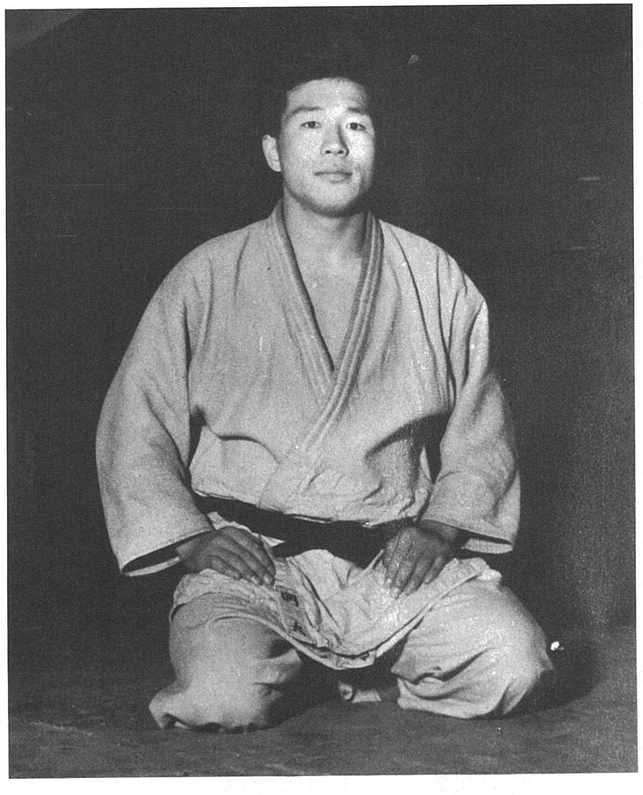
この写真集は、柔の道一筋に精進した明大健児の魂を余すところなく写し出したものであり、汗と涙で青春を埋め尽した柔道人の記録として、永く光彩を放つに違いない。

高らかに暁の鐘
金子泰興復活第一回学生選手権を制す

占領政策の下で活動を禁じられていた学生柔道が二六年復活した。同年「全日本学生柔道連盟」が結成され、十月、大阪野球場に仮設の試合場を設け復活第一回の（戦中からの通算では第三回）全日本学生柔道選手権大会と学生東西対抗戦が開催された。この記念すべき選手権大会に於いて明大主将金子泰興は同門の、大野忠博を決勝で下し輝く優勝を遂げた。

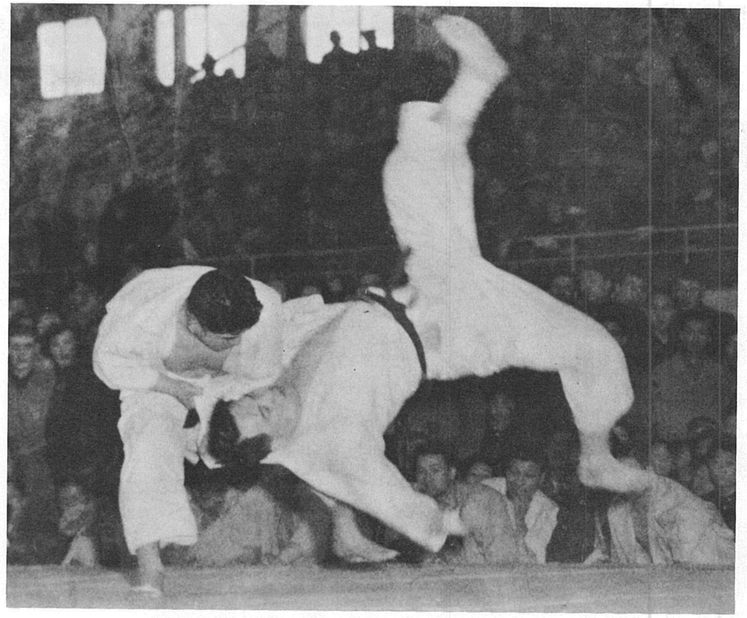
（出場選手六四名）





▶**大野忠博　二七年度**
―東京都　2三重県警　3桑名市
㊨講道館大道場にて（二七年）

▲**金子泰興　二六年度　主将**
―熊本県（出身）2ダイエイ金属㈱（勤務先）3岡山市（現住所）
㊨富士鉄（新日鉄）時代の金子（二九年）



門屋賢悟　二七年度
―岩手県　2整骨院経営　3札幌市
白帯で入部、四段で卒業のキャリアを持つ。
㊨門屋―背負投―阿部選手（北海道選手権）

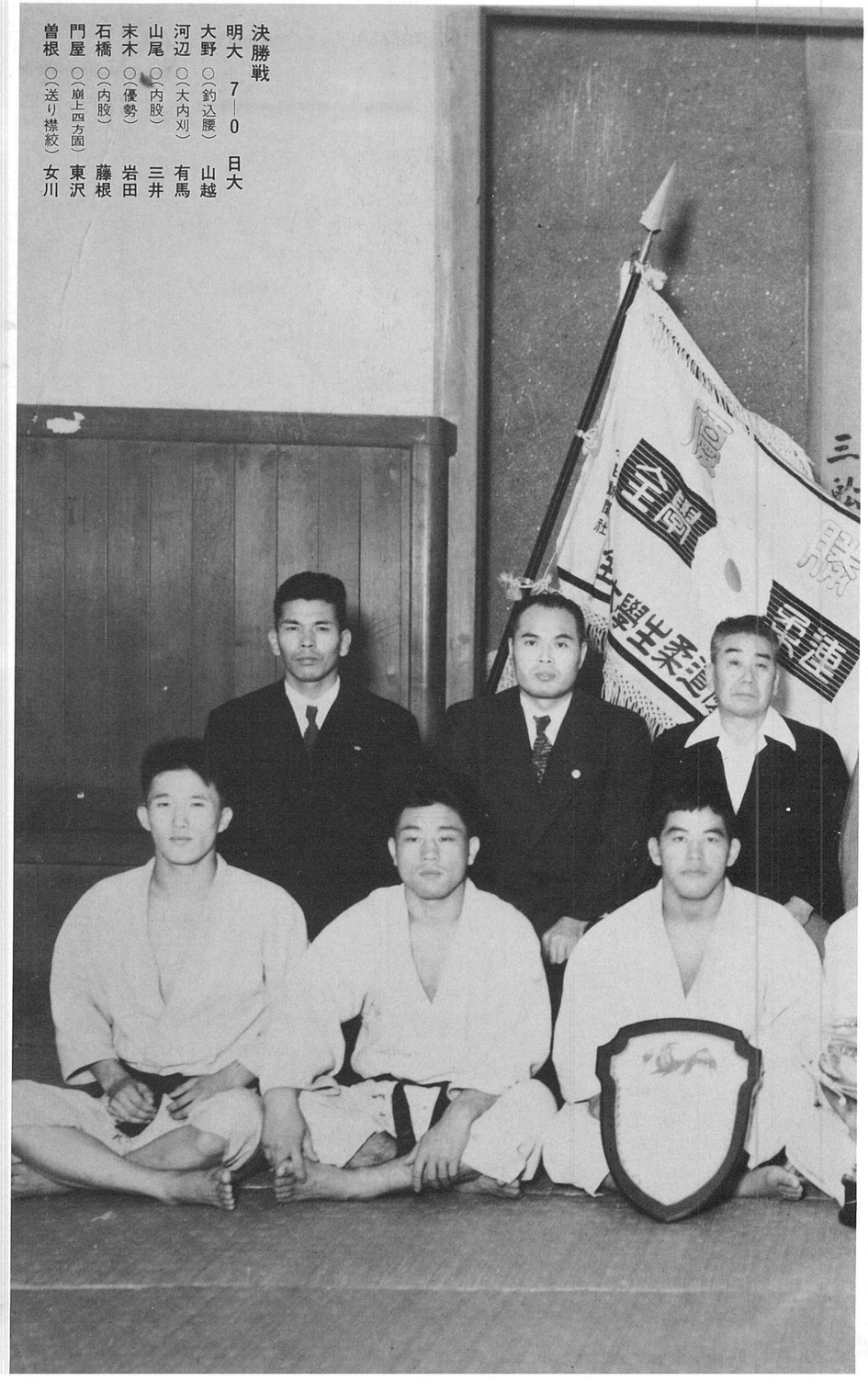


㊨復活第一回学生東西対抗戦に出場した明大勢、大阪球場特設試合場　26・10

優勝

26年の全日本学生選手権大会と学生東西対抗戦開催について翌27年には団体対抗戦が「全日本学生柔道優勝大会」としてスタートした。明大柔道部は前年の金子の個人戦優勝に続きこの大会にも勝利をおさめ明大柔道躍進の幕あけとした。

決勝戦
明大 7—0 日大
大野 ○（釣込腰） 山越
河辺 ○（大内刈） 有馬
山尾 ○（内股） 三井
末木 ○（優勢） 岩田
石橋 ○（内股） 藤根
門屋 ○（崩上四方固） 東沢
曽根 ○（送り襟絞） 女川

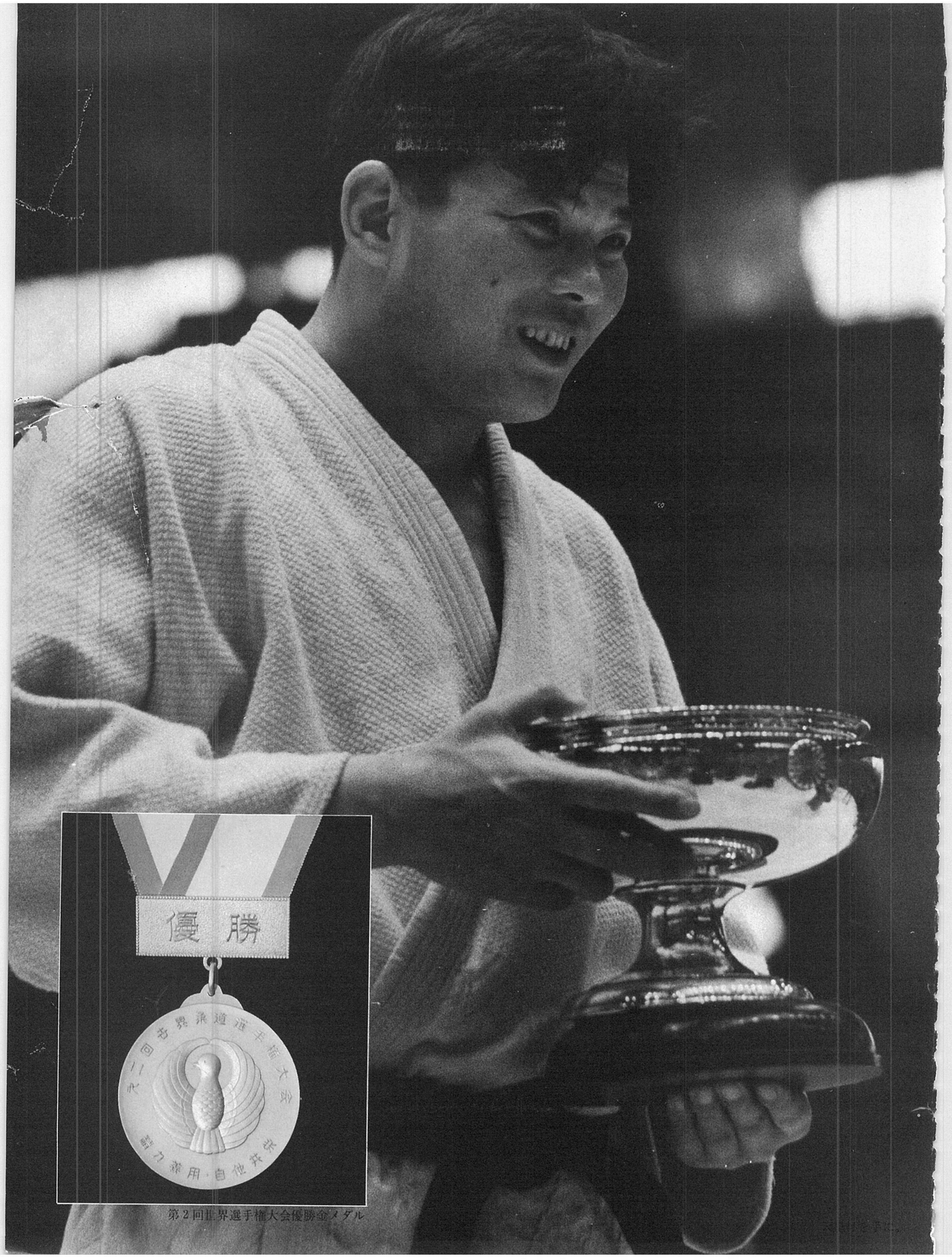


昭和20	山肩	敏美
21	菊地	耕二
21	井手	力
21	吉永	富義
19 22	日垣	芳春
19 23	古賀	愛人
23	青木	清正
23	山崎	昌徳
23	橘高	良実
23	宮下	悦男
23	近藤	一
19 23	石神久	寿三
23	細井	茂
20 24	堀口	武
24	金谷	久
24	宮崎	博通
24	水野留	次郎
25	伊藤	信夫
25	隠居	忠夫
22 25	中山	四郎
25	種井	育三
22 25	小川	照春
25	相田	正明
22 25	長山	大乗
26	金子	泰興
23 26	神田	和夫
23 26	池田	昭二
23 26	小野寺	文雄
27	曽根	康治
27	須藤	重男
25 27	門屋	賢悟
27	大野	忠博
25 27	永井	藤成
25 27	伊沢	潔
25 27	三宅	秀男
25 27	神田	幸典
27	山田	浩三
27	原	弘二郎
25 27	菅原	雄二
27	宮下	光男

（27．9．14於蔵前国技館）

第一回全日本学生柔道優勝大会





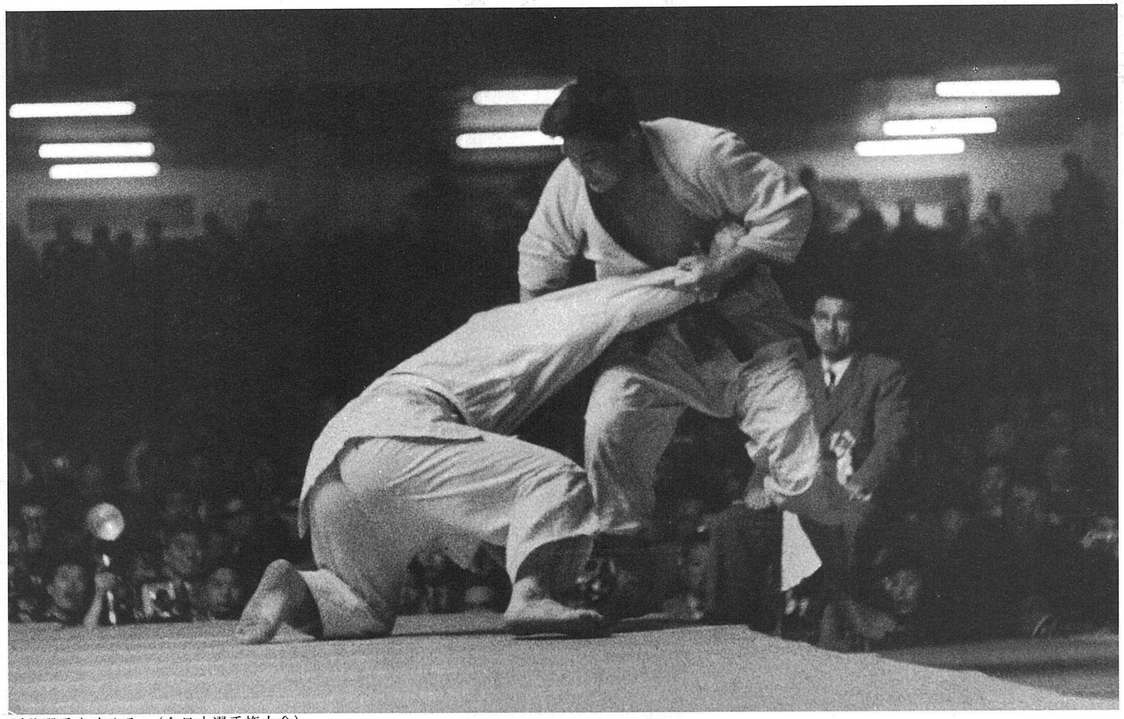
第２回世界選手権大会優勝金メダル

明柔の旗手、曽根康治

曽根康治　27年度　主将

Ｉ埼玉県　57年没

優勝、世界選手権大会（33年）、全日本選手権大会（33年）、全日本学生選手権大会（27年）。明大柔道部監督（37年―42年）



夏井選手を攻める。（全日本選手権大会）



曽根―大外刈一本―小田選手（同上）

連覇

大学柔道は復活3年目にして連盟加盟校が百校をこえ、ほぼ現在と同数となった。うち選抜された18校によるトーナメントの会場となった東京蔵前国技館は1万人を越す大観衆の声援にわいた。



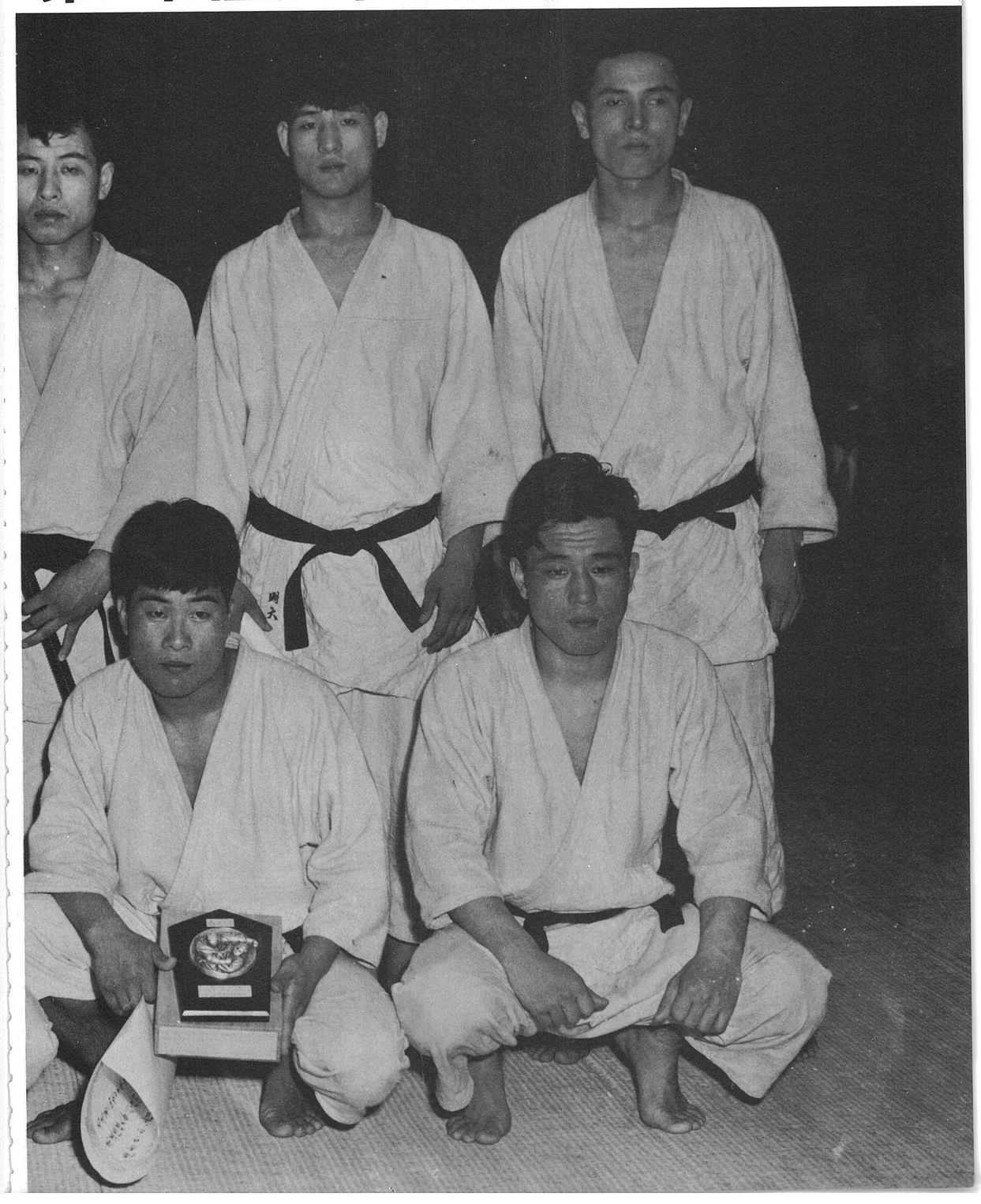
昭和28　末木　茂
28　小林　久繁
28　高橋　良輔
29　山尾　英三
29　押切　義春
29　渡辺　政雄
29　渡辺　欣嗣
29　河辺　一彦
29　岩崎　勇
29　工藤　欣一
29　安藤　健三
29　今　松夫
29　長谷川敏夫

決勝戦

明大	3―0	日大		
渡辺(政)	○(体落)	川内		
渡辺(欣)	(引分)	斎藤		
中野	(引分)	磯川		
山尾	○(返し技)	三井		
石橋	(引分)	石田		
河辺	(引分)	藤根		
末木	○(大外刈)	女川		

(28．7．5於蔵前国技館)

第二回全日本学生柔道優勝大会







▲渡辺政雄　二九年度
ｌ東京都　2日本鋼管㈱　3横浜市
三六年から二年間講道館派遣の柔道使節として西ドイツに滞在し指導にあたる。
㈼　渡辺―内股一本―松橋（小樽商大）全日本学生選手権大会

▶渡辺欣嗣　二九年度
ｌ東京都　2渡辺欣勝堂　3東京都
学生東西対抗戦（二七年）に於る七人抜きは同大会の記録として現在も保たれている。
㈼戦後初の学生柔道海外派遣メンバーとして羽田を出発する渡辺欣嗣。左右は見送りの今松夫と渡辺政雄（三者同期生）



末木、学生チャンピオンに

28年の学生選手権大会は末木茂が後輩の渡辺政雄と決勝を争い、大外落に下して優勝した。
(このタイトルは、第１回の金子以来、曽根、末木と続けて優勝、翌29年も石橋が勝ち明大勢が４年連続して獲得した。)

末木茂　28年度　主将
ｌ東京都　48年没
(写)末木―大外落―渡辺（全日本学生選手権大会決勝戦)。

抜群の稽古量と強いチームワークで勝利を重ねていったこの年代を
後の四連勝の時代とともに黄金時代と呼んでさしつかえないだろう。

三連覇



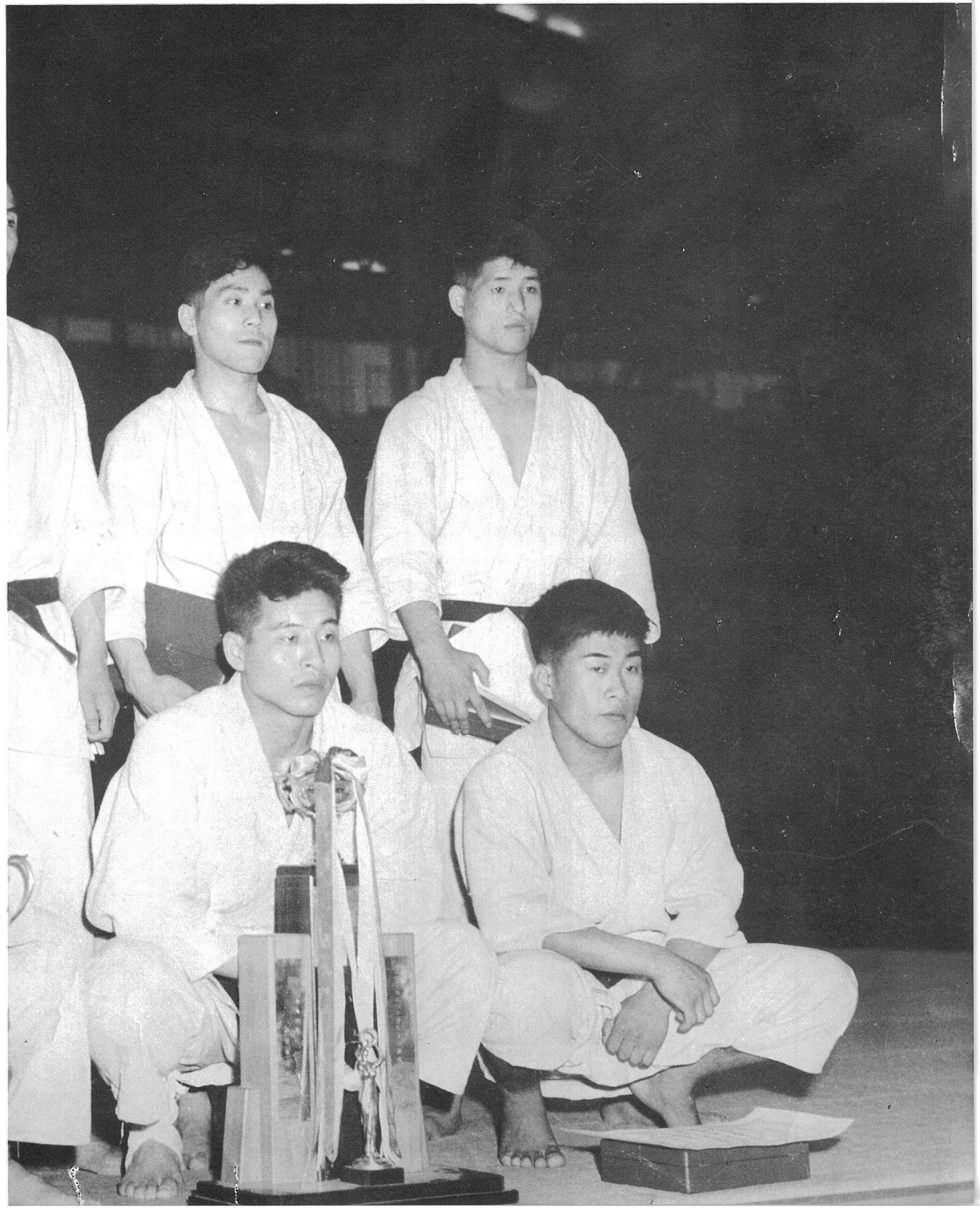
昭和30　石橋毅次郎
30　中野　竜登
30　小林　昇
30　重信　安泰
30　松岡　義隆
30　長田　万蔵
30　松下　邦雄
30　平田　博俊
30　高田　喜之
30　小野　実
30　塩見　泰之
30　桑田　武司
30　伊藤　義一
30　林　徳美
30　大池　小鉄
30　松岡　篤
30　屋嘉　弘一
31　安達　秀則
31　小林　基甫
31　鈴木　章継
31　浅野　鉄郎
31　山崎富士雄
31　高村（田松光）秀翁
31　丸山　彰治
31　磯　有志郎
31　本間　竜吉
31　佐藤　満蔵
31　新井　重之
31　五島　光
31　波多江健一
31　杉山　澄雄
31　瀧本　満治

決勝戦

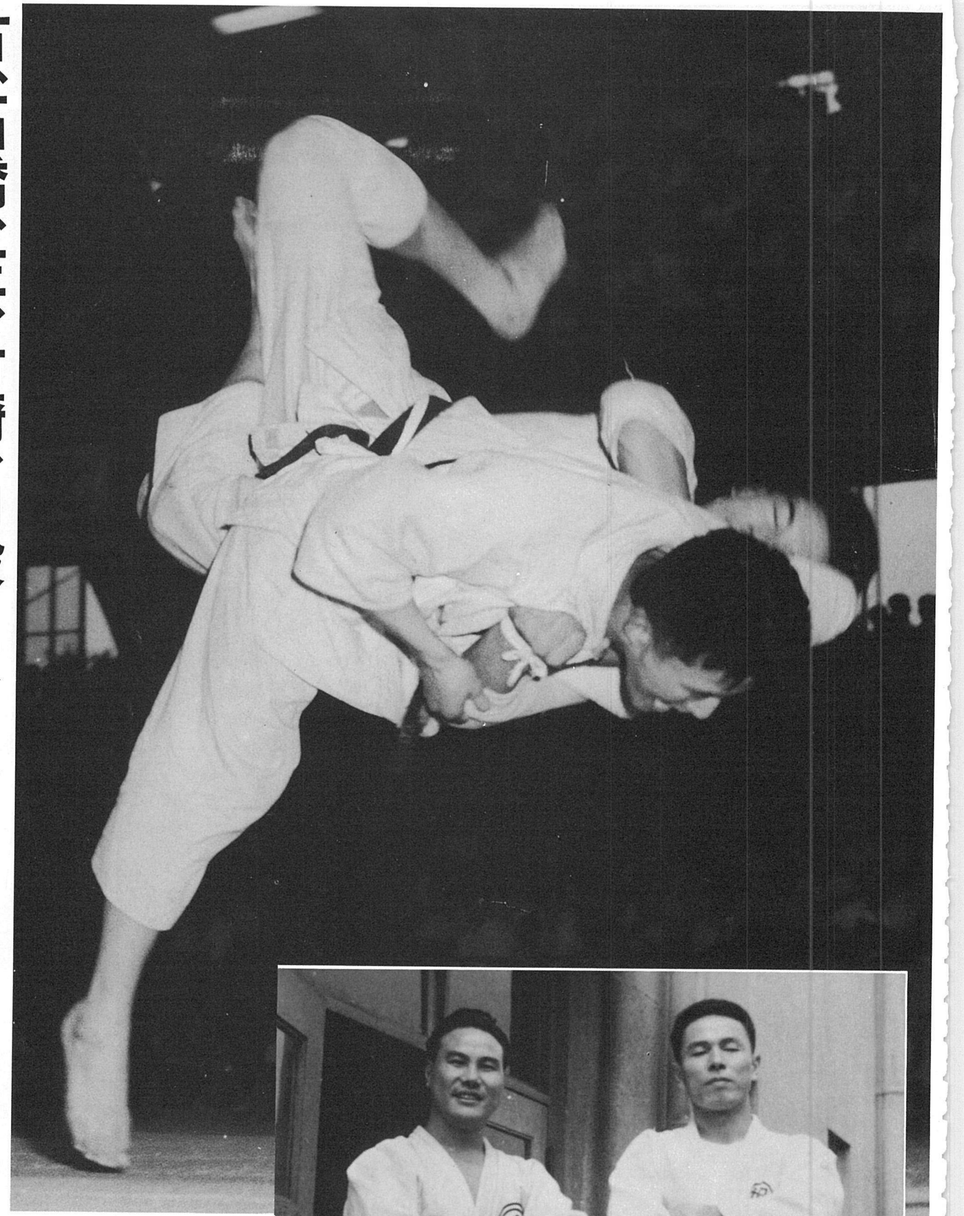
明大	5―0	日大
岩崎	○（内股）	斎藤
河辺	（引分）	加辺
渡辺（欣）	○（合せ技）	松下
中野	○（優勢）	岡本
石橋	○（優勢）	三井
渡辺（政）	（引分）	斎藤
山尾	○（内股）	石田

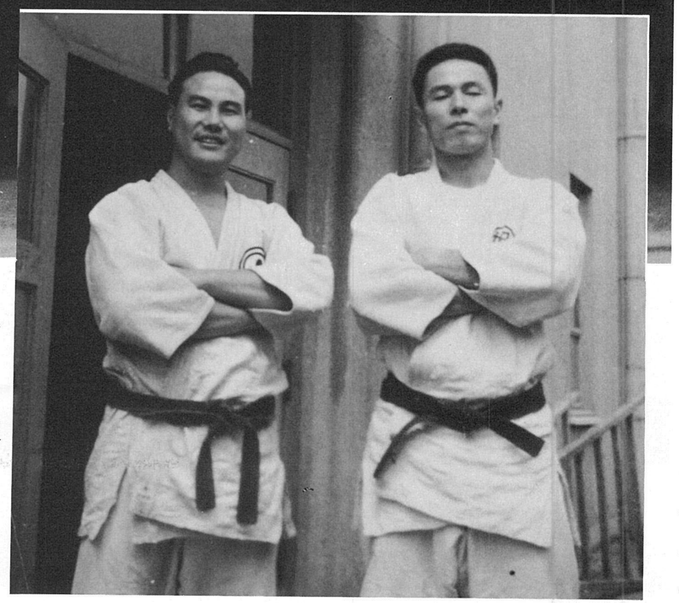
（29．7．4 於東京体育館）

第三回全日本学生柔道優勝大会



右、石橋、左、岩崎、内股コンビ





◀ 岩崎　勇　29年度
Ⅰ福岡県　2旭サンバーグ㈱　3福岡市
(写)左内股一本　対斎藤選手（日大）全日本学生優勝大会決勝

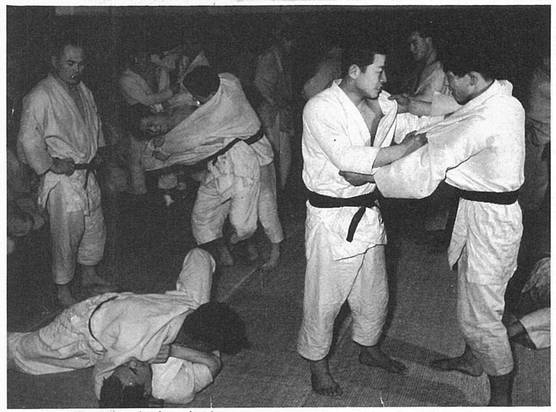
▶ 小林　昇　30年度
Ⅰ長野県　60年没
(写)向って右中野、左小林　実業団大会

▶ 中野竜登　30年度
Ⅰ福岡県　2㈱日栄　3東京都

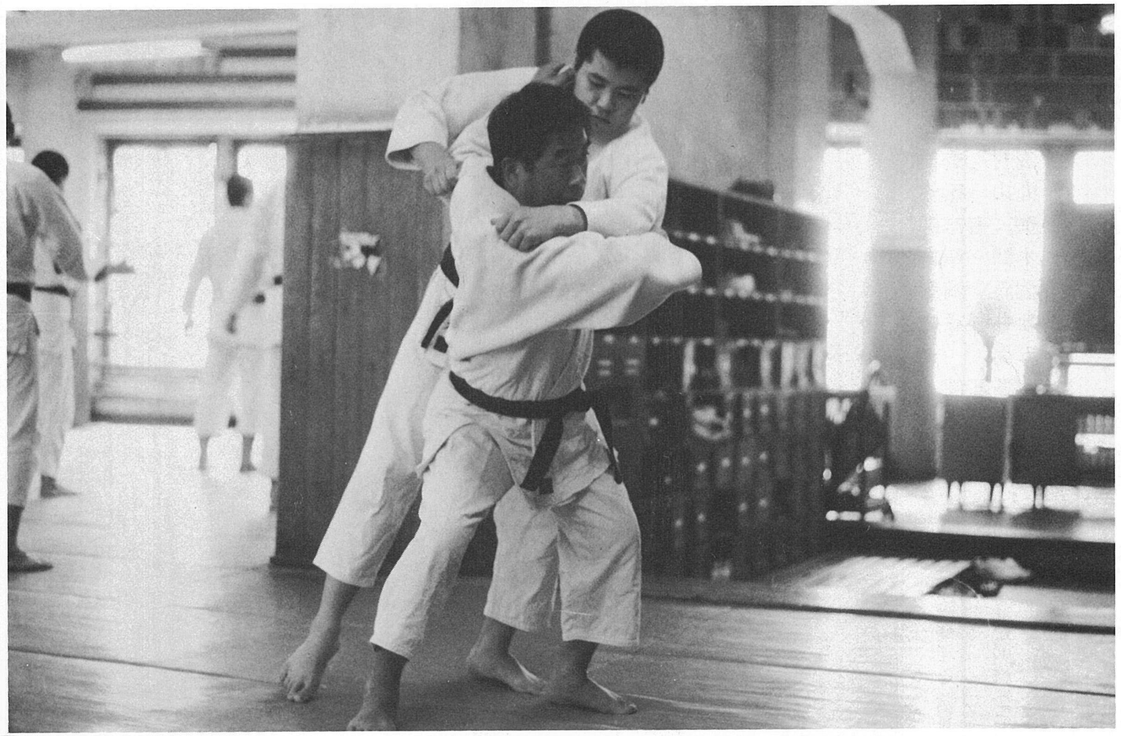
石橋優勝
29年学生選手権大会



石橋毅次郎　30年度　主将
Ⅰ福岡県　2西日本相銀　3福岡市　全日本学生選手権大会優勝（29年）
(写)全日本選手権大会で同門の渡辺(政)と戦う石橋（32年）



山尾英三　29年度　主将
Ⅰ広島県　2三菱レーヨン㈱　3大竹市
(写)猛練習の先頭に立つ山尾（向って左、29年明大地下道場）



河辺一彦　29年度
Ⅰ福岡県　2法務省　3東京都、講道館指導員
(写)明大道場で後輩を指導する現在の河辺

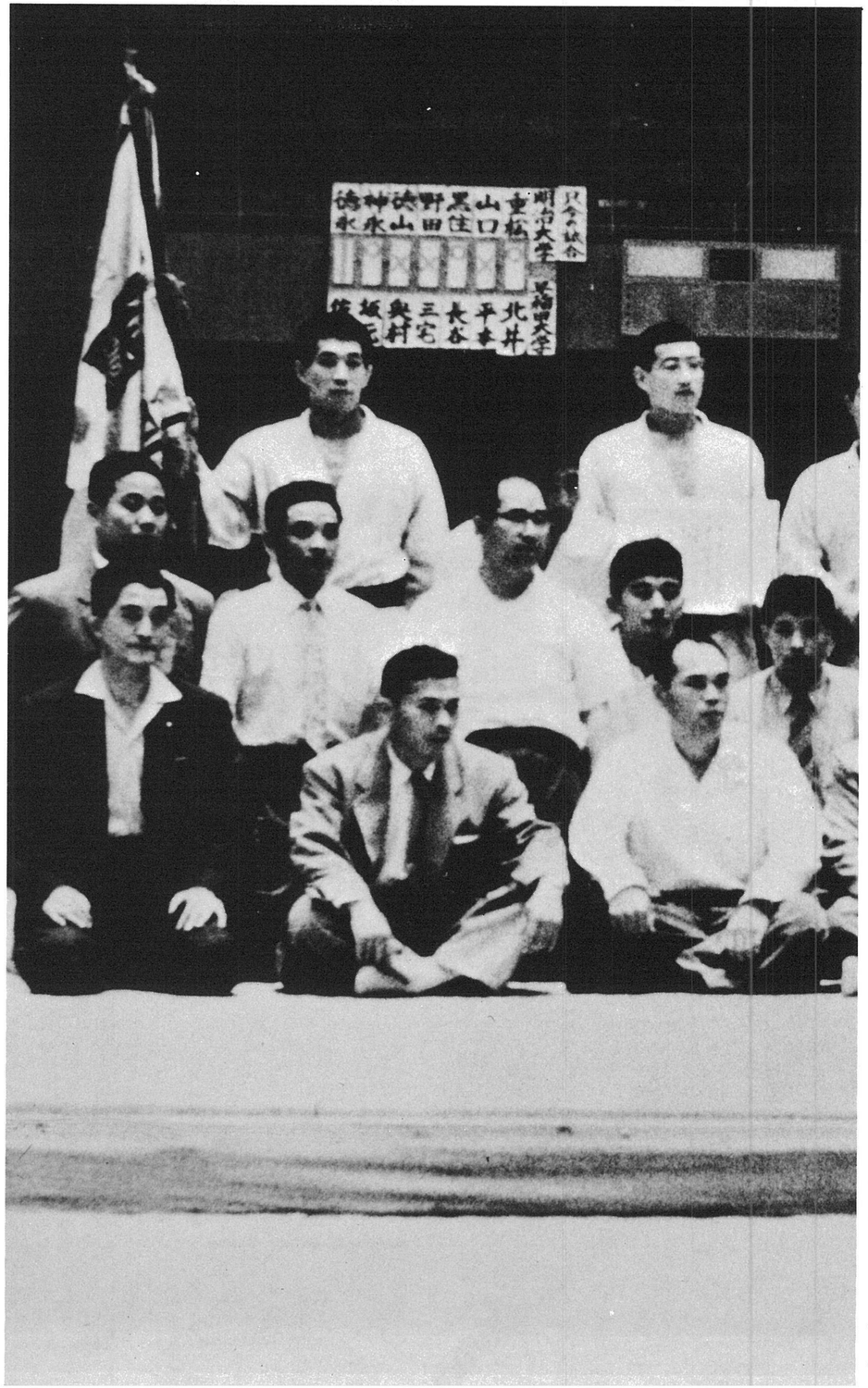
第六回全日本学生柔道優勝大会

（32．7．7於東京体育館）



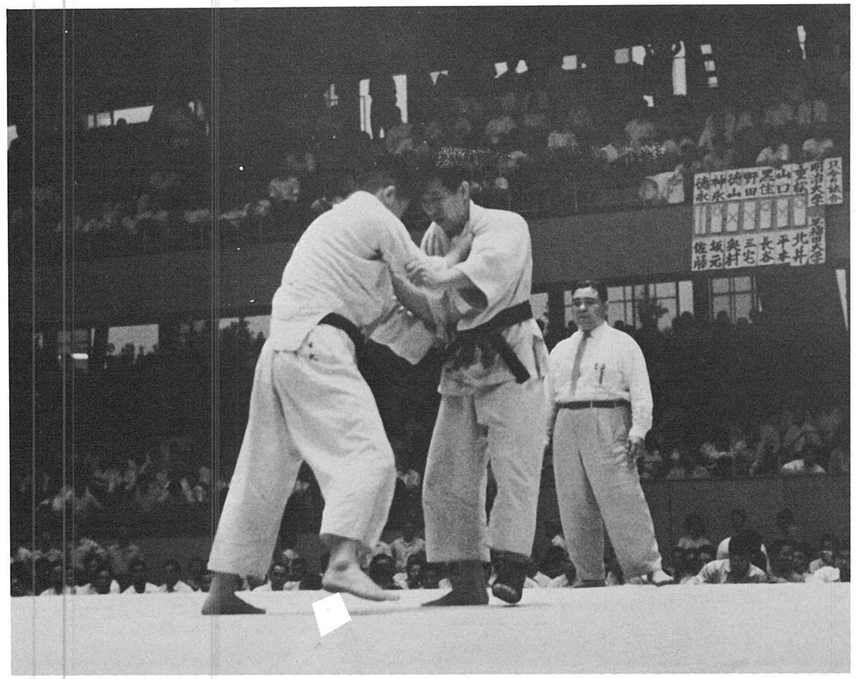
優勝

試合内容から見て現在の審判規定ならば真違いなく成し得た四連覇であったが、惜敗した30年、連勝が断たれて緊張の糸が切れ準決勝にすらのぞめなかった31年、明大柔道部に危機感がみなぎった、優勝奪回をかけて行ったこの年の夏合宿の猛列さは今も話題となる。



昭和32　永井　佑治
32　徳永　三幸
32　町山　光良
32　野田健次郎
32　兼定　正明
32　長谷川博行
32　坂井　良司
32　池田　仁大
32　酒井　正雄
32　牧　恵
32　藤井　洋二
32　斉藤夫美雄
32　塚本　勝人
32　久永　峻
32　立元　昌
32　石崎　靖彦
32　中田　健次
32　鶴田三千年
32　鵜沢（田屋田）俊康
32　斉藤　信明
32　宇野　茂夫
32　黒川　茂
32　新谷（旧川副）進
32　伊藤賢次郎

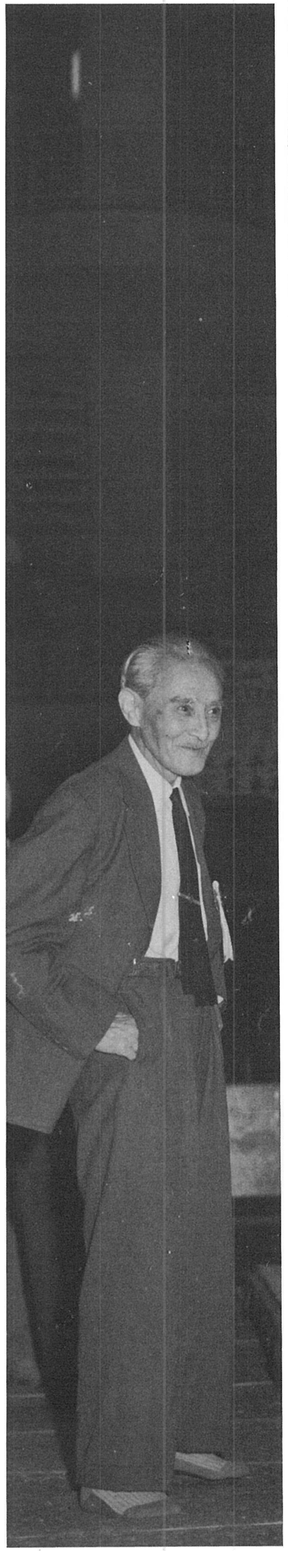
決	勝	戦	明大	3―0	早大
徳永（引分）	神永○（内股）	坂元	重松○（大外刈）		北井
佐藤（引分）	徳山（引分）	奥村	山口（引分）		平本
	野田（引分）	三宅	黒住○（合せ技）		長谷



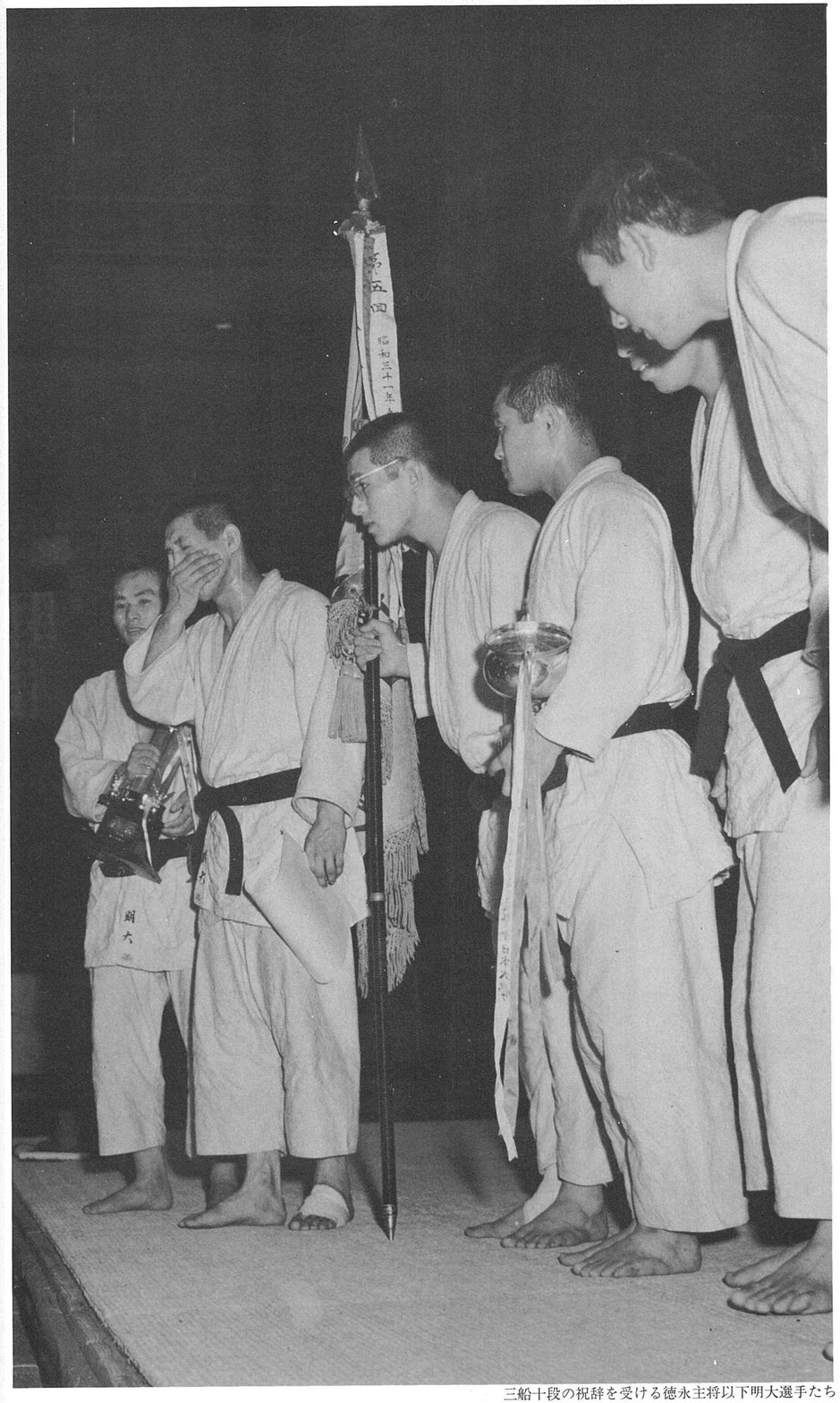
徳永三幸　32年度　主将
1 熊本県　2 ㈱クラレ　3 西条市
(写) 全日本学生優勝大会決勝(32年)。徳永対佐藤（早大）



野田健次郎　32年度
1 福岡県　2 チェス、コーポレーション　3 越ヶ谷市
(写) 野田―払腰―竹内（教大）全日本学生優勝大会（32年）



優勝旗奪回



三船十段の祝辞を受ける徳永主将以下明大選手たち

連覇

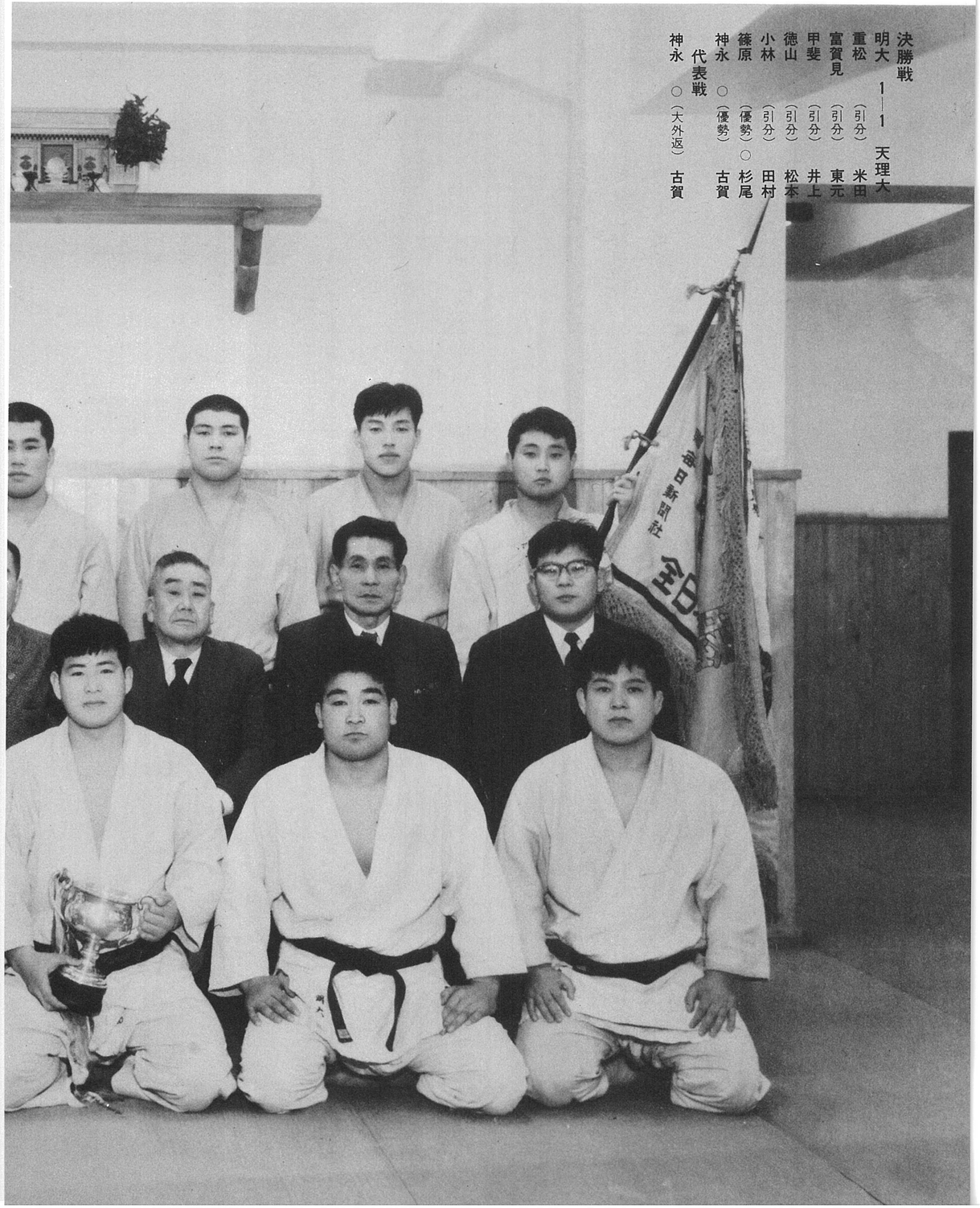
（33．7．6於東京体育館）

第七回全日本学生柔道優勝大会

指導陣を武専ＯＢでかため打倒東京勢を目ざして計画的な選手作りをして来た天理大学がこの年、満を持して登場して来た。補欠選手まで四段で固めたこのチームの力は正に武専柔道部の復活を思わせ決勝進出まで他校を問題としなかった。明治も又神永主将以下部史上屈指の充実したメンバーでのぞんだが下馬評は天理大にやや、かたむいていた。戦いは一対一の代表戦となり神永が古賀選手の大外刈を見事に返して勝ち天理大の野望を挫いた。



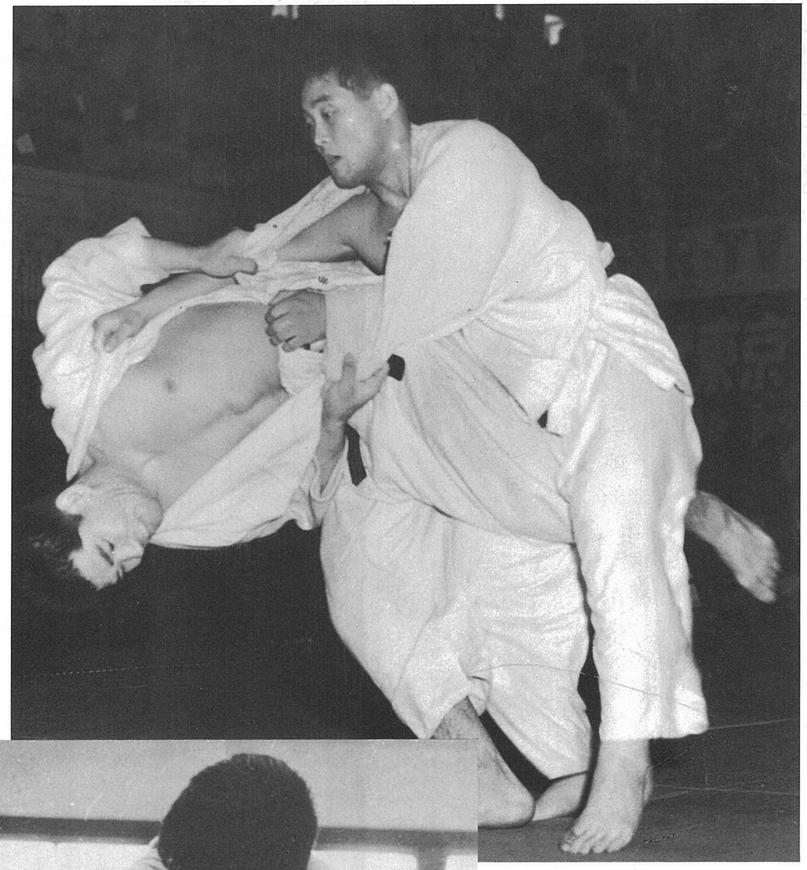
決勝戦
明大　1―1　天理大
重松（引分）米田
富賀見（引分）東元
甲斐（引分）井上
徳山（引分）松本
小林（引分）田村
篠原（優勢）○杉尾
神永○（優勢）古賀
代表戦
神永○（大外返）古賀



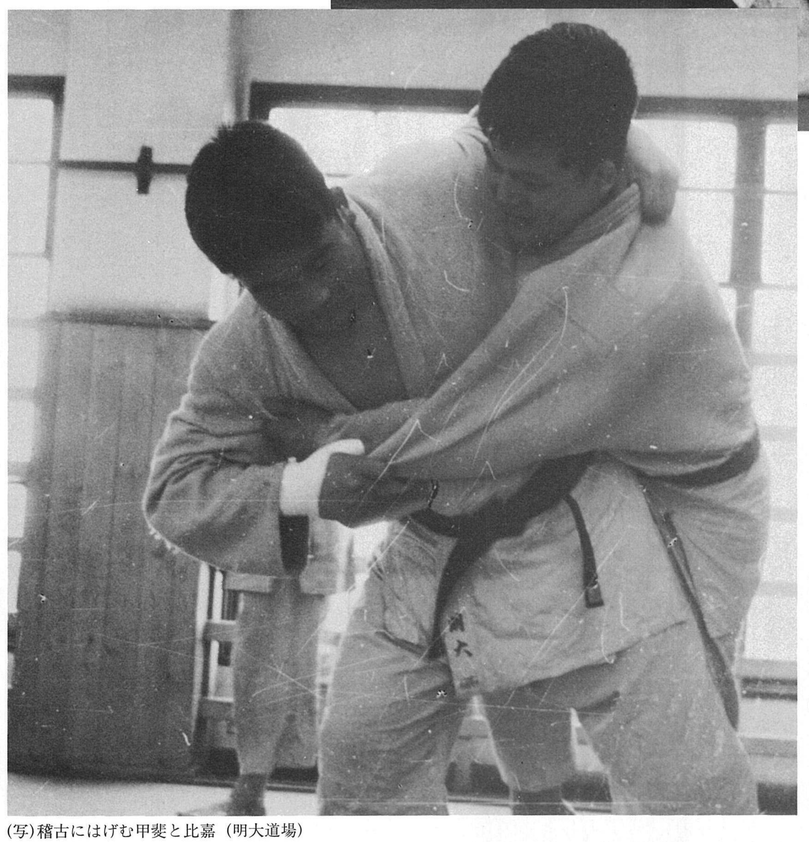
昭和33　神永　昭夫
33　徳山　操
33　小川登志雄
33　比喜　良幸
33　甲斐　福男
33　湯浅　久雄
33　新井　康之
33　坂本　行弘
33　額賀　義一
33　児玉良一郎
33　福田　二朗
33　作田　順二
33　伊藤　彰朗
33　入江（旧池田）善員
33　鈴木　実
33　富賀見真典
33　小林　敏邦
33　宮下　潔
33　高島　正美
33　森田（旧田中）次男
33　石井　暢
33　浜野　宏弥
33　中村　光明
33　三苫　隆憲
33　小林　健児
33　稲木　茂男
34　篠原　一雄
34　立花　敏明
34　大橋　武彦
34　大村　至
34　谷藤　義明
34　金丸　国一
34　黒住　大和
34　柿崎　甫
34　佐久間　豪
34　坂田　倭男
34　内藤　吉郎
34　関口　耕二
34　玉井　正則
34　小笠原俊一
34　渡辺　邦雄
34　大輪　小次

完全優勝の三三年度

全日本学生、東京学生、四大学定期戦、学生選手権（神永）



徳山　操　三三年度
Ⅰ広島県　2東洋住建㈱　3奈良市
㈲　全日本学生優勝大会で。徳山向って右



比嘉良幸　三三年度
Ⅰ大阪市　2大阪府警　3大阪市

甲斐福男　三三年度
Ⅰ福岡県　2旭化成㈱　3西ノ宮市

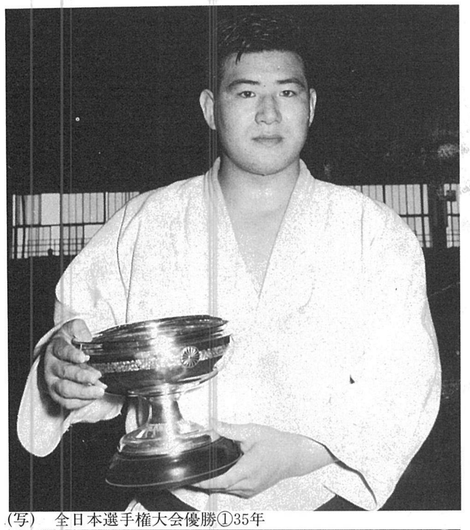
(写)稽古にはげむ甲斐と比嘉（明大道場）



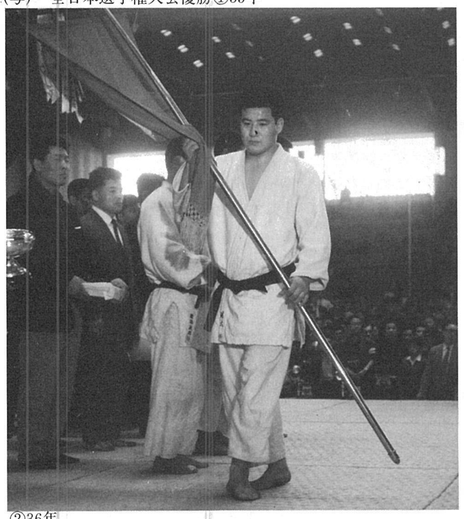
篠原一雄　34年度　主将
Ⅰ愛媛県　BIRD FORWRDERS. INC. ロサンゼルス市
卒業後間もなく渡米、日本での選手生活は学生時代だけであったが 技術の評価は高く、先般発刊された「柔道百人」にも登場している 全米選手権大会優勝
(写)カルフォルニヤ州の大会で模範演技をする篠原（36年）



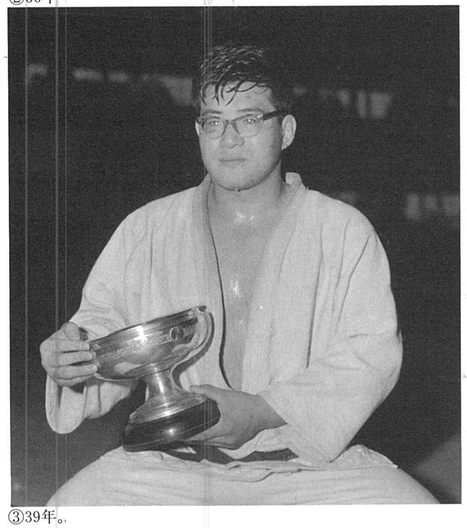
(写)第七回大会優勝表彰式スナップ



(写)　全日本選手権大会優勝①35年



②36年



③39年。

神永昭夫　33年度　主将

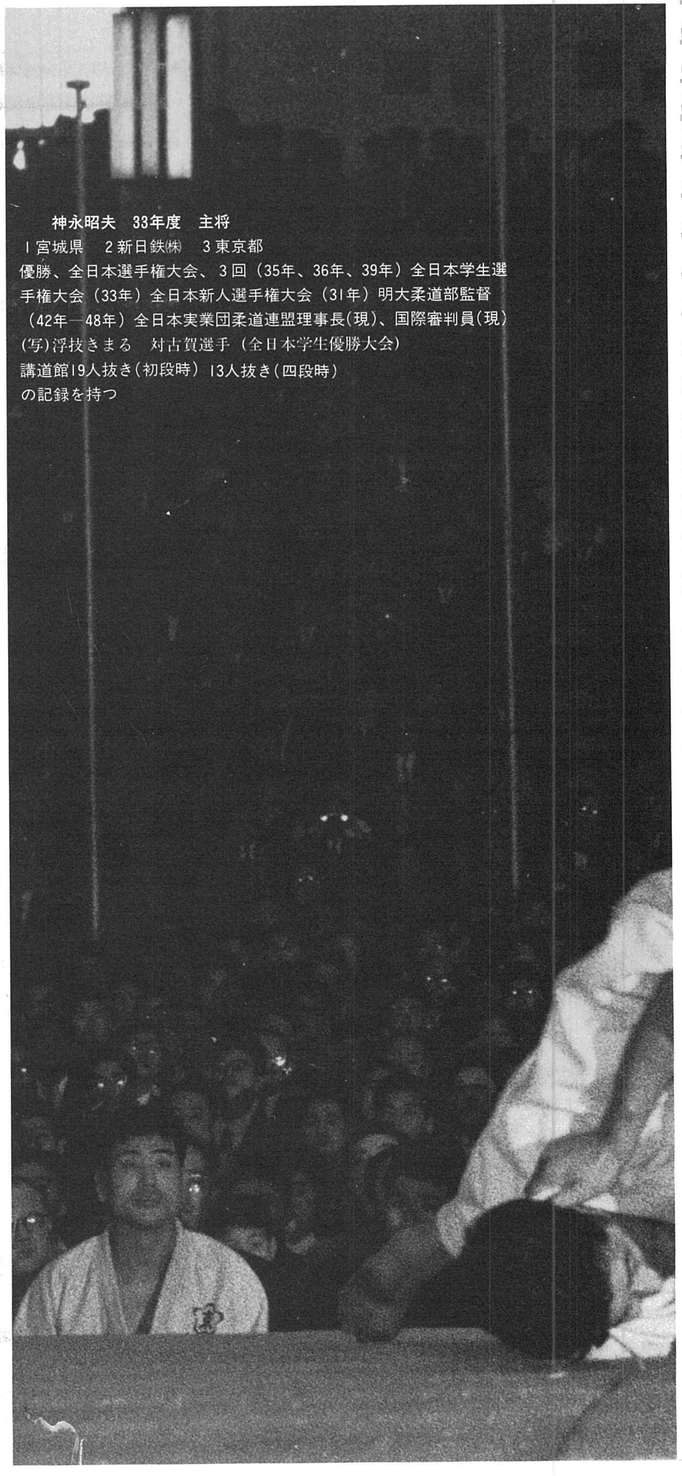
1宮城県　2新日鉄㈱　3東京都

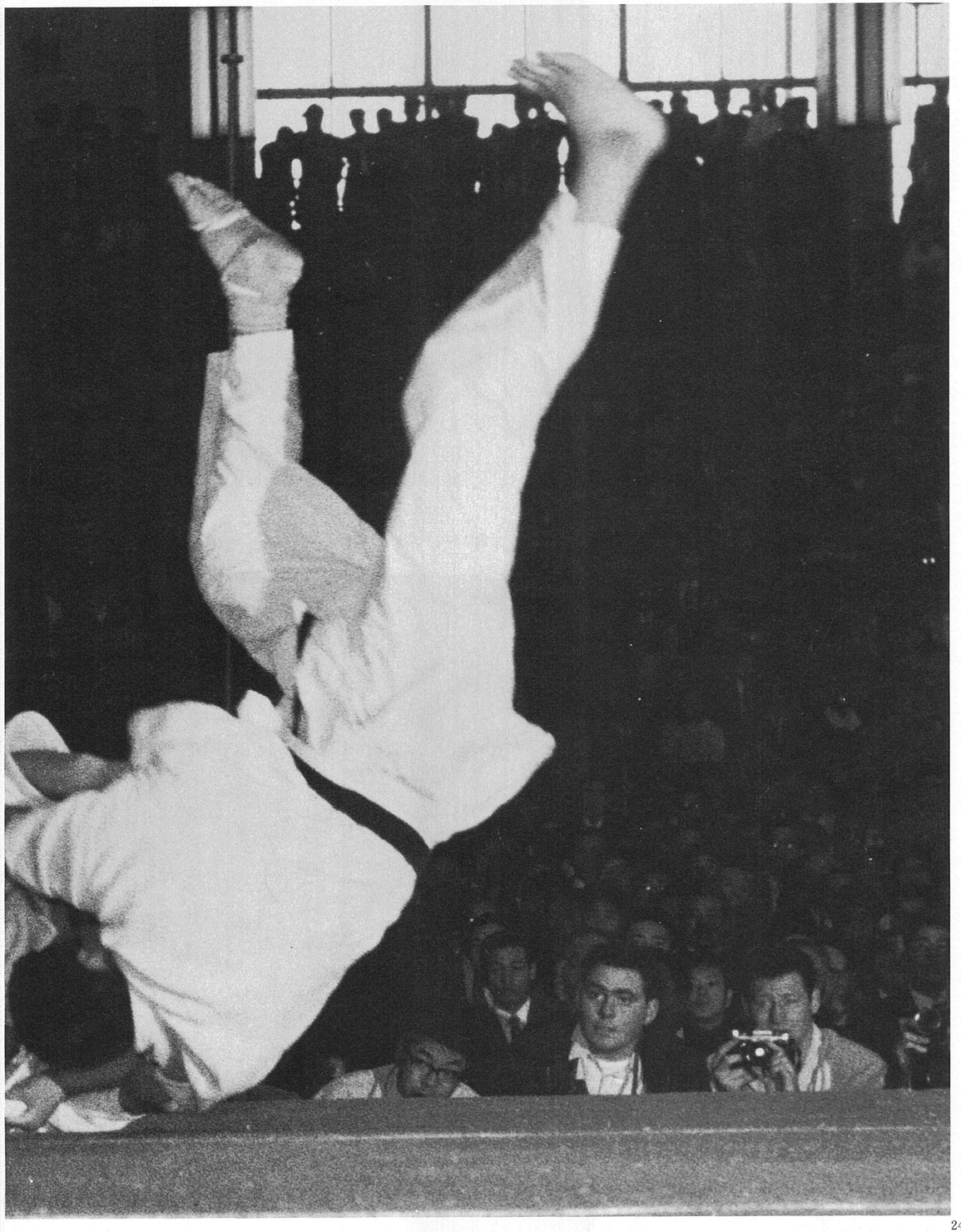
優勝、全日本選手権大会、3回（35年、36年、39年）全日本学生選手権大会（33年）全日本新人選手権大会（31年）明大柔道部監督（42年―48年）全日本実業団柔道連盟理事長(現)、国際審判員(現)

(写)浮技きまる　対古賀選手（全日本学生優勝大会）

講道館19人抜き(初段時) 13人抜き(四段時)

の記録を持つ





昭和35	鳴海	誠一
35	重松	正成
35	宮崎	敬一
35	山口	友孝
35	山本	誠之
35	榎本	正
35	小林	忠吉
35	小林	真二
35	木村	正中
35	杉町	幹人
35	小田原	徳明
35	金城	孝治
35	石橋	正光
35	野口	征彦
35	平島	征也
35	棚橋	健二
35	六郷	治庸
35	水谷	昌白
35	川島	功



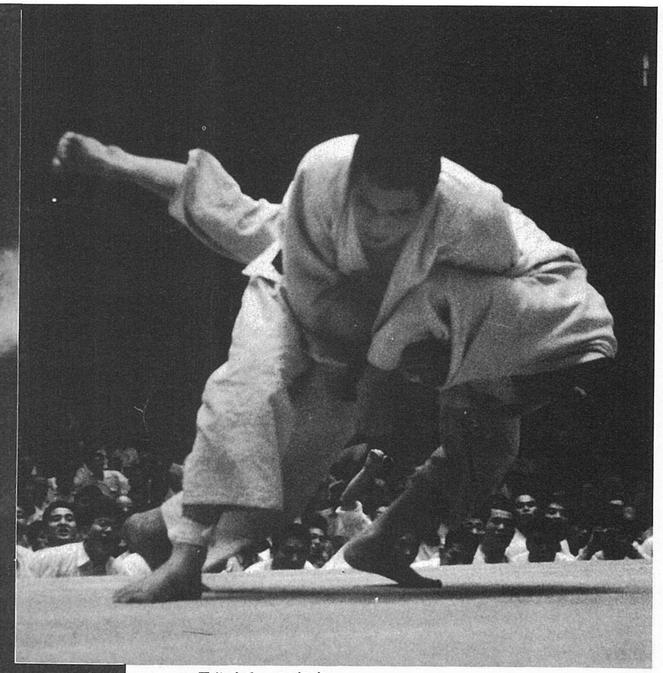
重松正成　三五年度　主将

Ⅰ福岡県　2自営業　3東京都

全日本学生選手権大会二連勝（三四年、三五年）

㈲　重松―大内刈―古賀（日大）全日本学生選手権大会決勝戦（三四年）

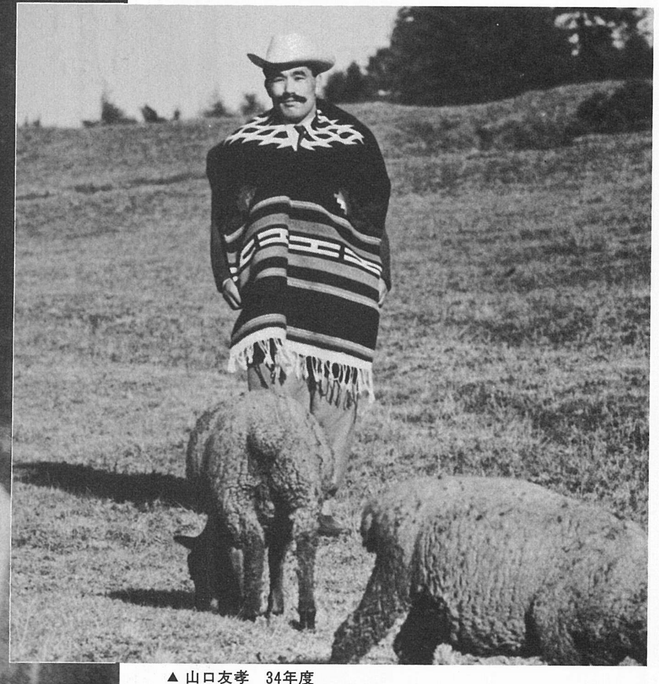




▲黒住大和　34年度

Ⅰ岡山県　2栃木県警　3宇都宮市

(写)対佐野選手（天理大）全日本学生優勝大会（34年）



▲山口友孝　34年度

Ⅰ静岡県　2道場経営　3メキシコ市

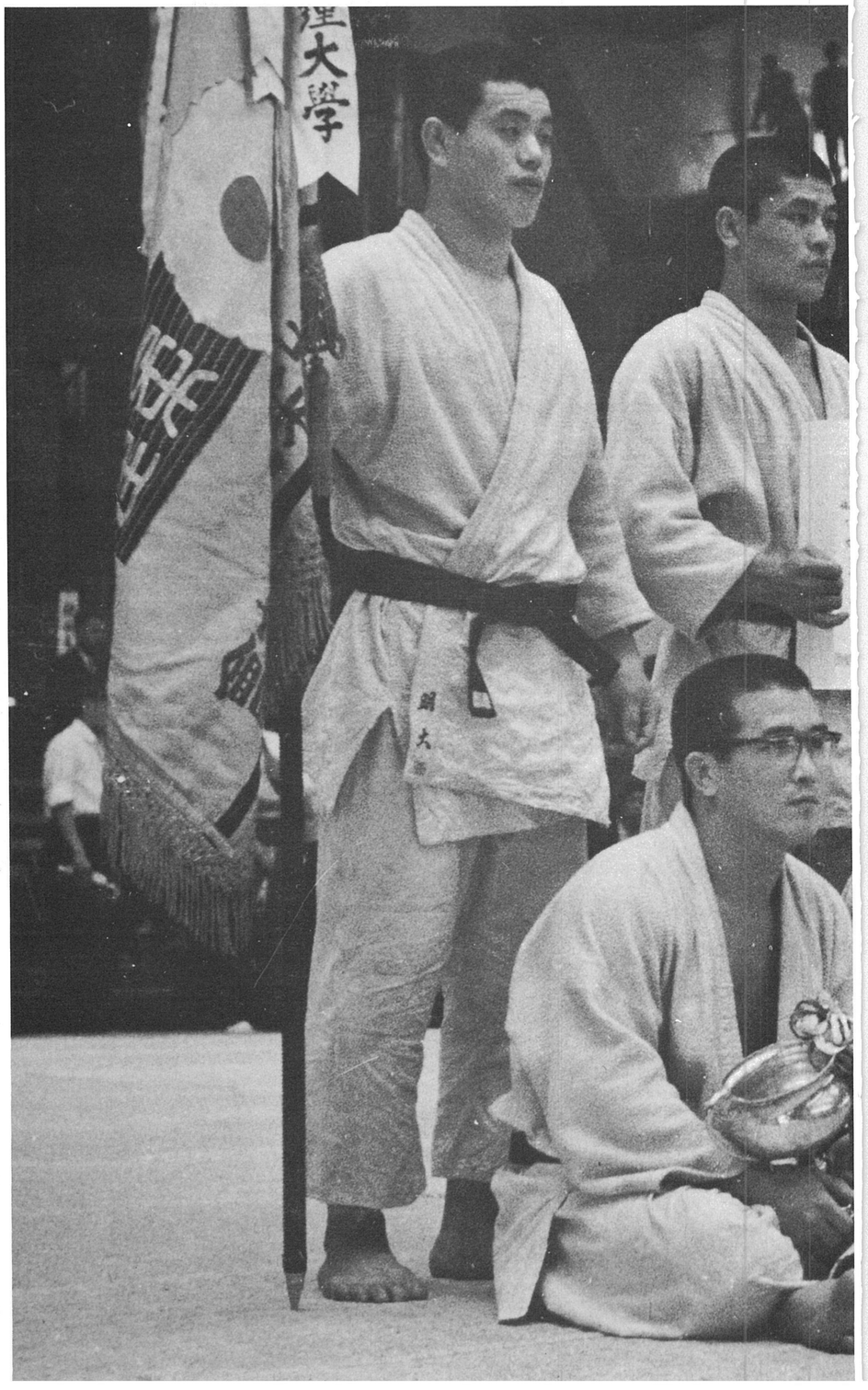
卒業後、メキシコに渡り現在もメキシコ柔道界発展に尽力している。

(写)現地の衣裳をつけて

優勝

34年、35年と優勝を逸した明治は、田中章雄主将がよくチームをまとめて猛練習にはげみ見事に優勝旗を駿河台の道場へ奪回した。この年の優勝万才が四連覇発進への号砲となり、第２期黄金時代の幕あけとなった。

昭和36	田中	章雄
36	塩崎	英一
36	高田誠之助	
36	大林	貞人
36	松本	順吉
36	佐藤	治
36	田村	浩志
36	佐々木義宣	
36	畠田	道夫
36	佐藤	栄吾
36	神永	正夫
36	木下	征彦
36	岡部	勝人
36	早瀬	勝義
36	渋谷	正久
36	篠田	芳昌

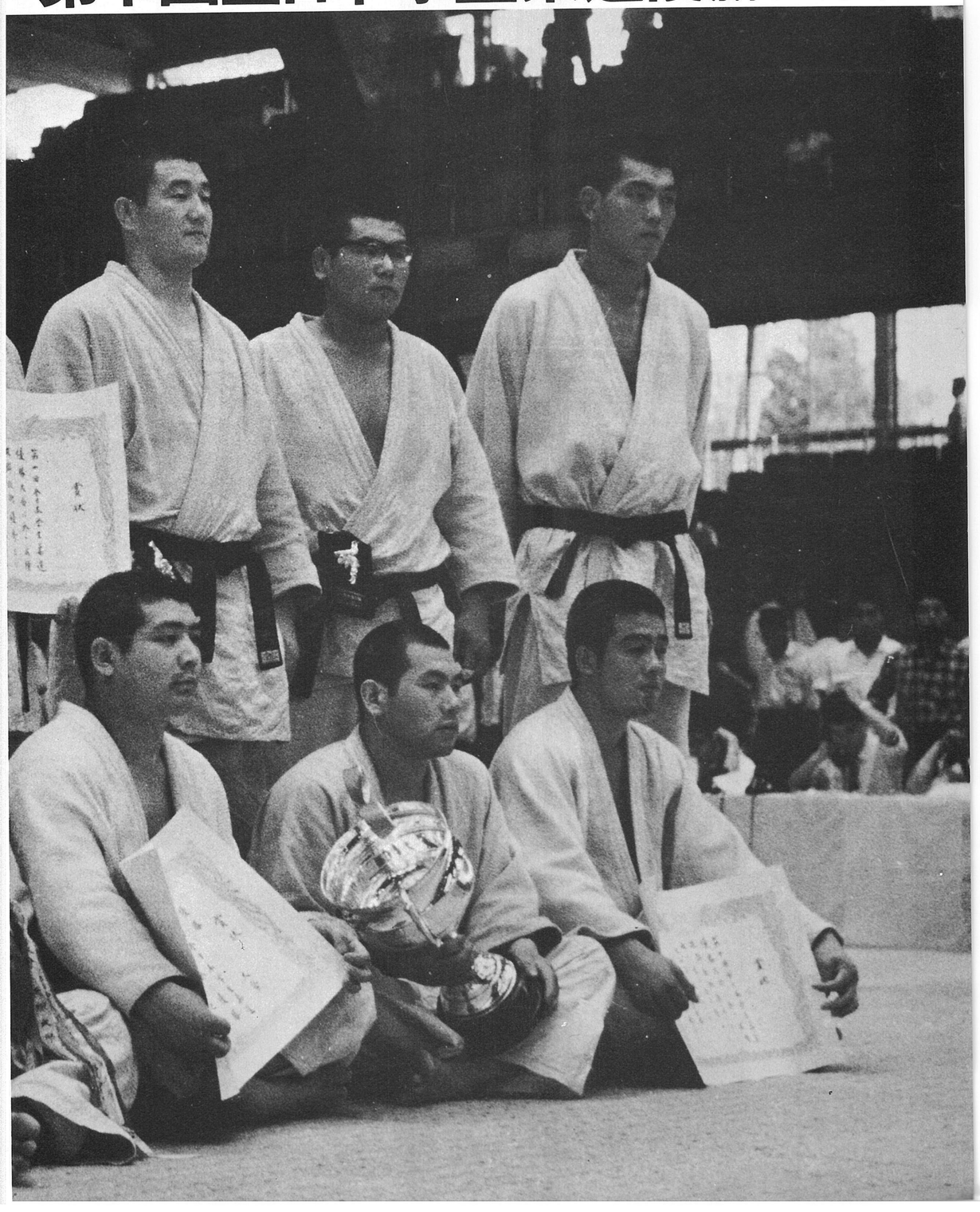


決勝戦

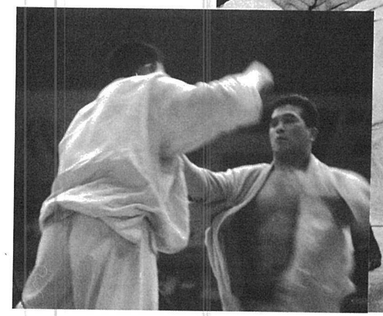
明大	2	—	1	中大
神永㊤	（引分）			吉村
関	○（優勢）			市川
神屋	○（大腰）			下坂
田中	（優勢）○			山本
佐藤	（引分）			大内
朝田	（引分）			芳垣
高田	（引分）			辻井

第十回全日本学生柔道優勝大会

（36．6．18於東京体育館）



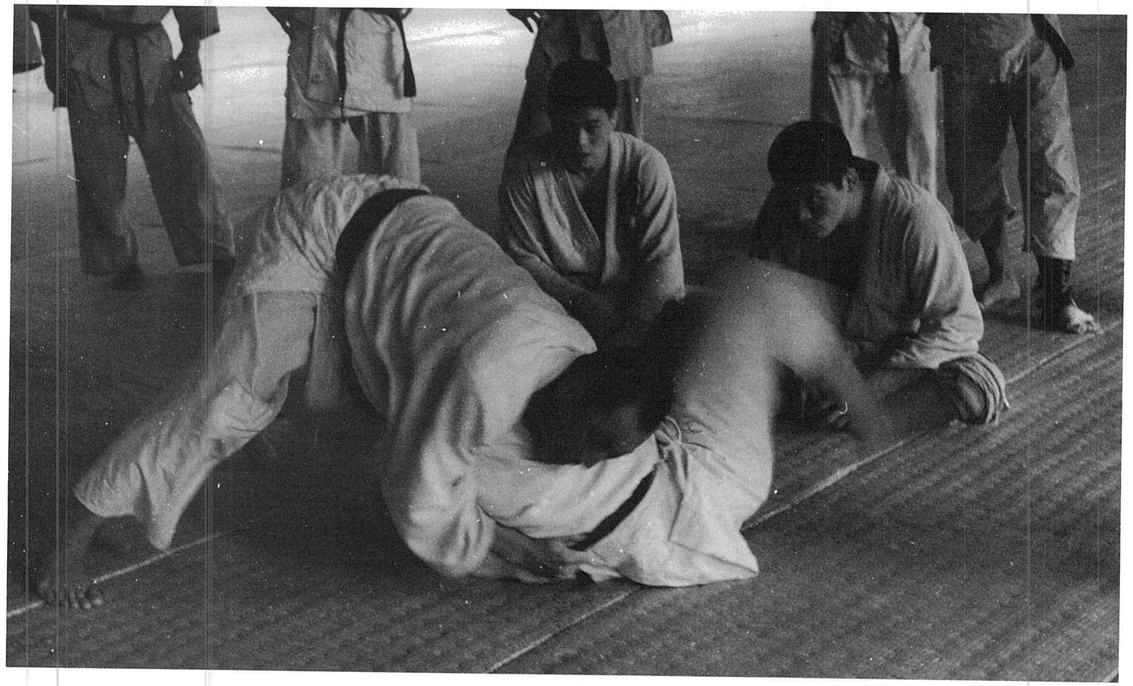




高田誠之助　36年度

1 福岡県　2㈱誠和　3 東京都

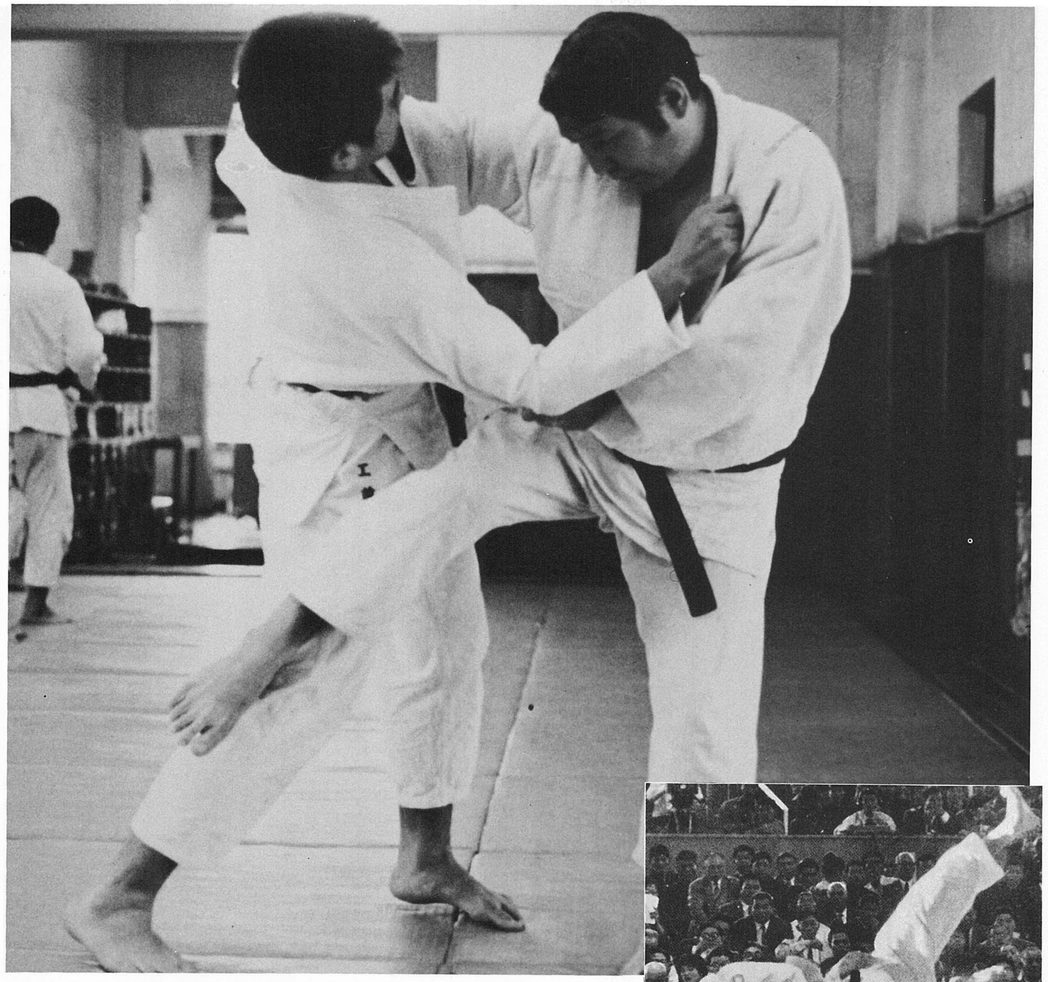
(写)アジア大会優勝記念、向って右はじ高田

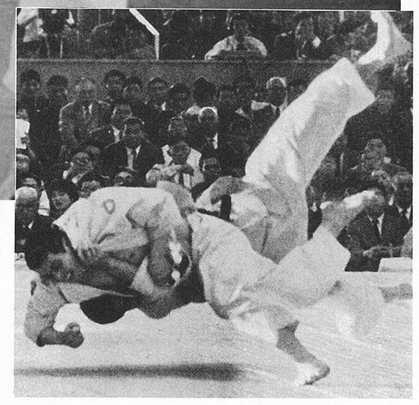


佐藤　治　36年度

1 青森県　2㈱サトハル　3 岡山市

(写)オリムピック合宿にて、中央、佐藤





田中章雄　36年度　主将

1 東京都　2 雄和企画㈱　3 東京都

高校生四段（明治高校）という稀有なキャリアを持つ。後年、講道館派遣でベルギーのナショナルコーチも努めた。東京都柔道連盟副理事長(現)。

(写)田中一跳腰一本一小田選手（全日本選手権大会準々決勝戦　36年）

(写)学生を指導する田中(現在、明大道場)

第二期黄金時代の幕あけ

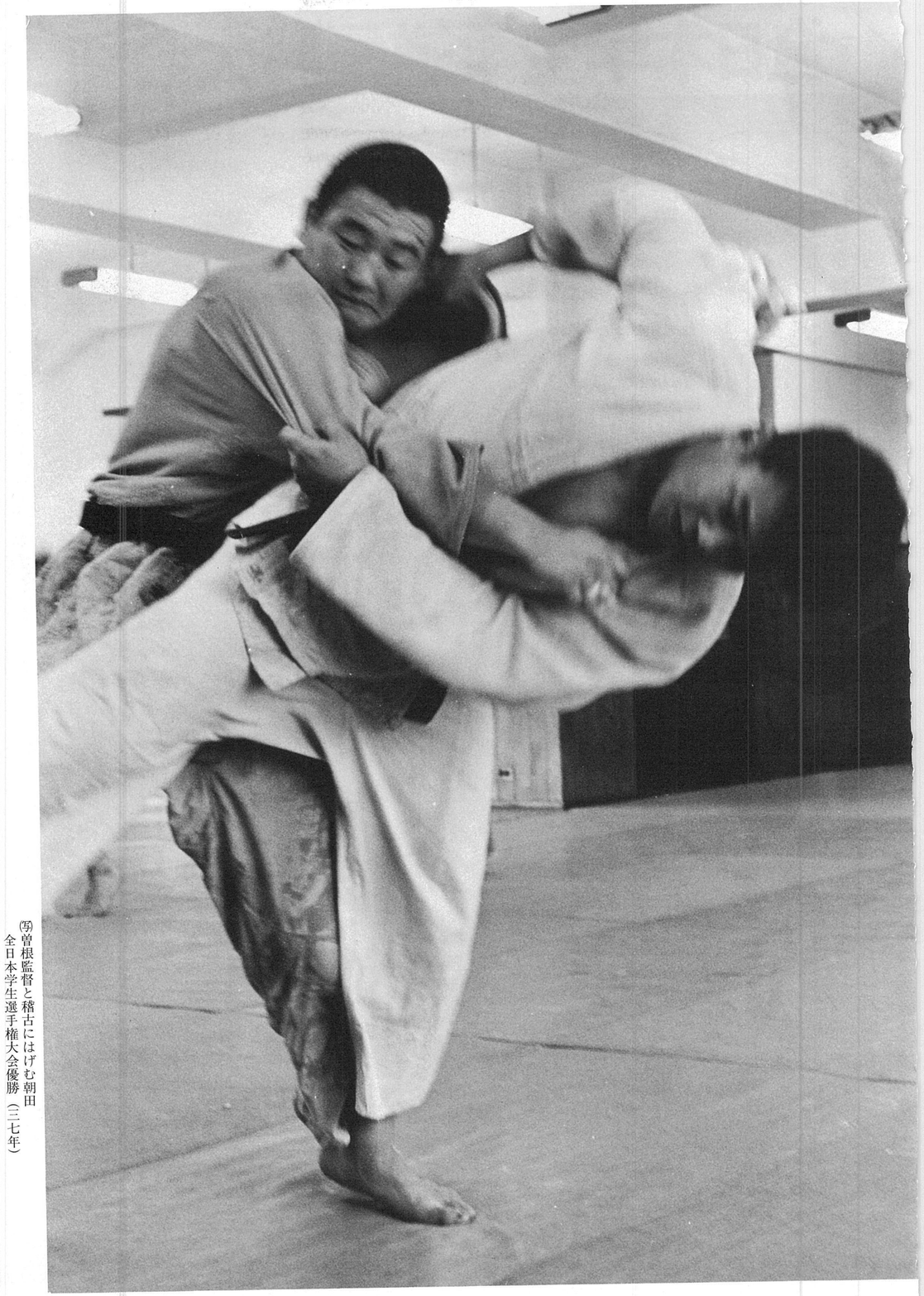


神永正夫　三六年度
―宮城県　2東洋醸造㈱　3仙台市
㈲　神永―釣込腰一本―大塚三段（国士大）　関東段別選手権大会決勝戦（三六年）



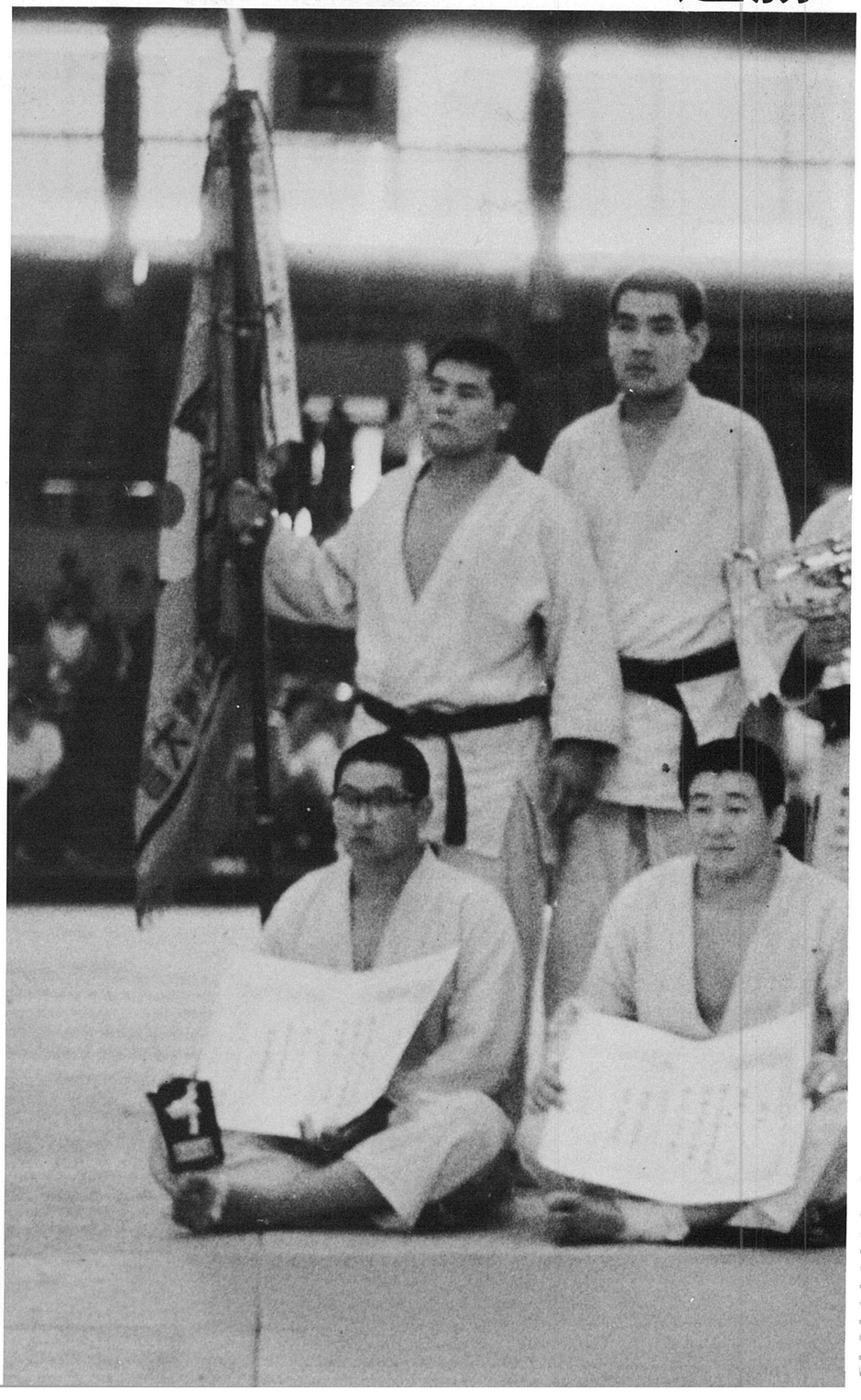
佐藤栄吾　三六年度
―北海道　2三井建設　3横浜市

大林真人　三六年度
―岩手県　2自営業　3東京都
㈲　前列向って左から大林、佐藤、神永㈱、後列―曽根、河辺ＯＢ　新潟高田市合宿



㈲曽根監督と稽古にはげむ朝田
全日本学生選手権大会優勝（三七年）

連勝



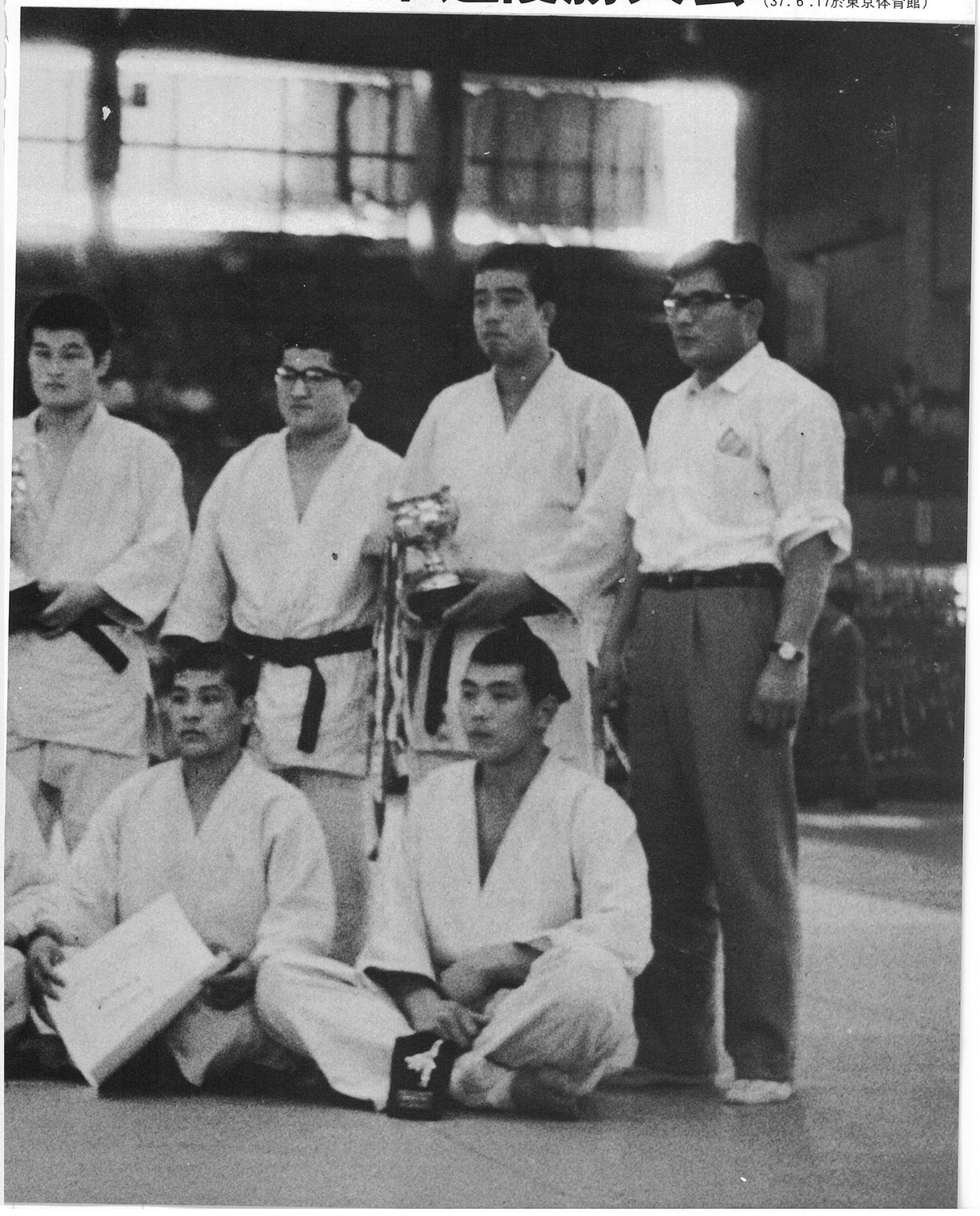
昭和37	朝田	紀明
37	神屋	興介
37	田村	興靖
37	酒井	知
37	山崎	忠男
37	佐藤	正武
37	村木	晃
37	杉原	構
37	相川	智
37	内藤	進
37	堤	繁
37	栗原	英道
37	大国	伸夫
37	前田	拓雄
37	町山	良行
37	幕田	兼男
37	大川	正
37	石本	義明
37	栗田	和明
37	春日	邦人
37	小林	芳昭
37	宝地戸	幸夫
37	馬場	淳
37	古賀	悠三
37	大門	守
37	城	州司郎

決勝戦

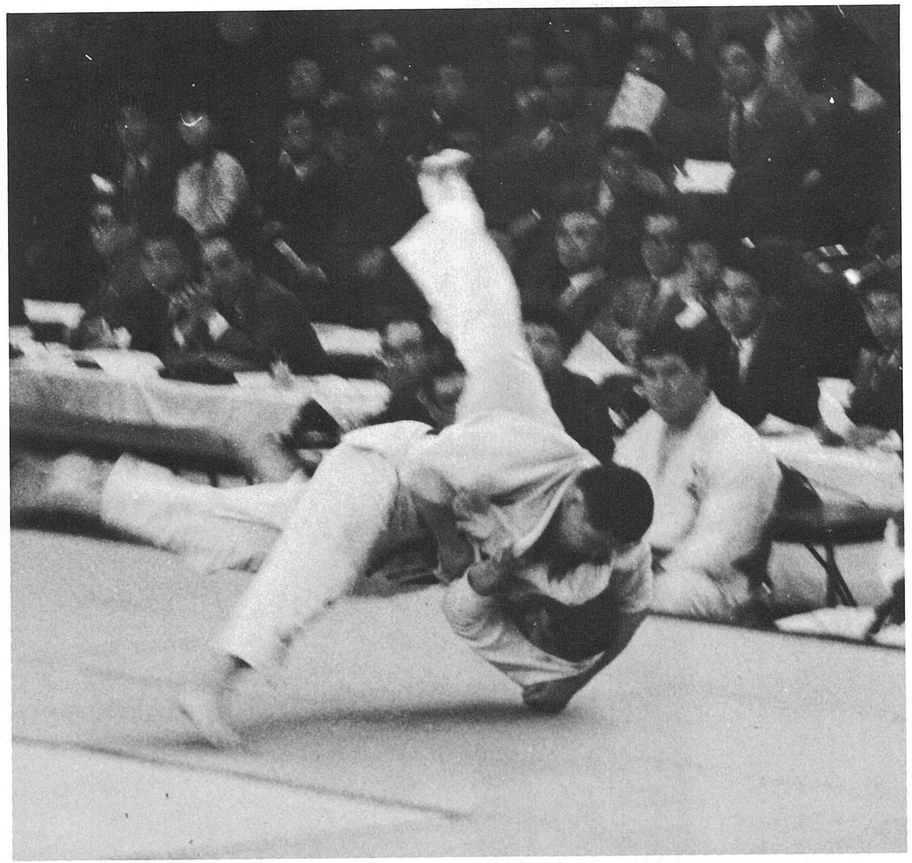
明大	4—2	日大		
村井	（優勢）	○	平石	
関	（優勢）	○	高松	
山本	○（大外刈）		土山	
神屋	○（内股）		下内	
坂口	○（大外刈）		鈴木	
朝田	（引分）		白崎	
田村	○（優勢）		大西	

全日本学生柔道優勝大会

（37．6．17於東京体育館）



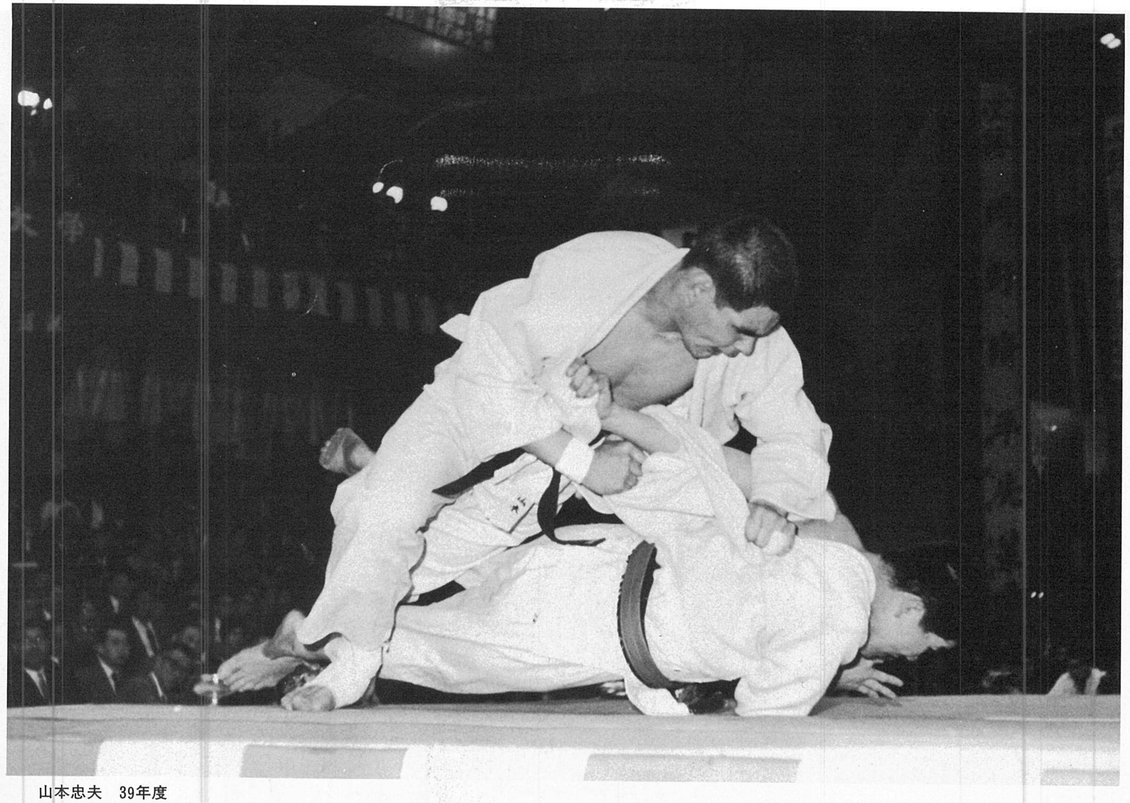
全日本選手権大会出場一五名（学生五、OB一〇）の三八年



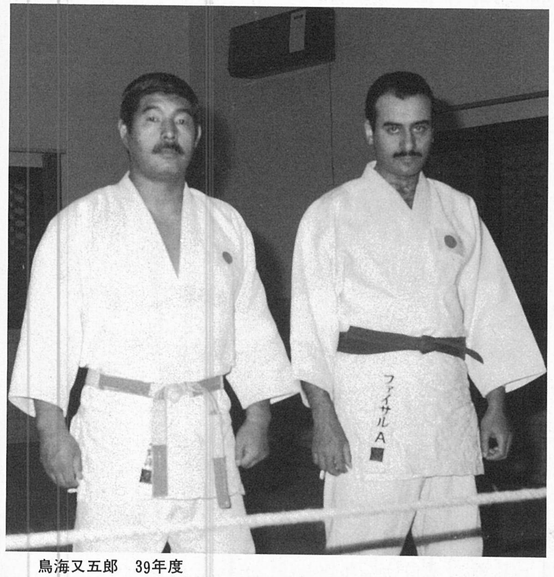
田村興靖　37年度
Ⅰ群馬県　2王子製紙㈱　3東京都
(写)田村―払腰―大西（日大）全日本学生優勝大会（37年）



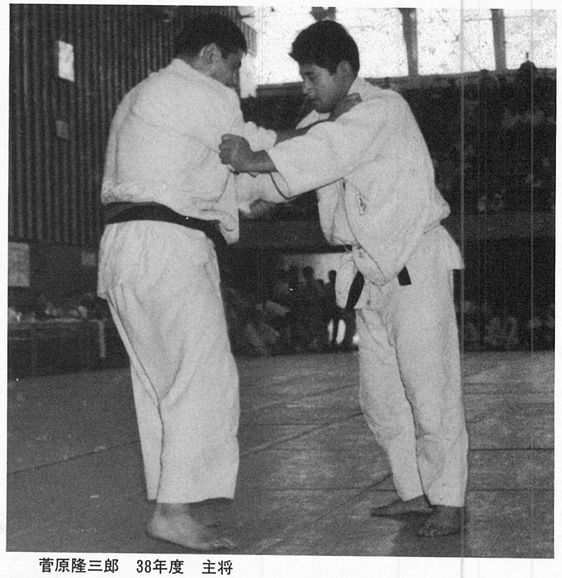
佐藤幸二　38年度
Ⅰ宮城県　2宮城県警　3仙台市
(写)近影



山本忠夫　39年度
Ⅰ京都市　2明治管材㈱　3京都市
(写)対高木選手　全日本選手権大会（38年）



鳥海又五郎　39年度
Ⅰ東京都　2サウジアラビアナショナルコーチ　3サウジアラビア
(写)プリンス、フイサルA氏と鳥海

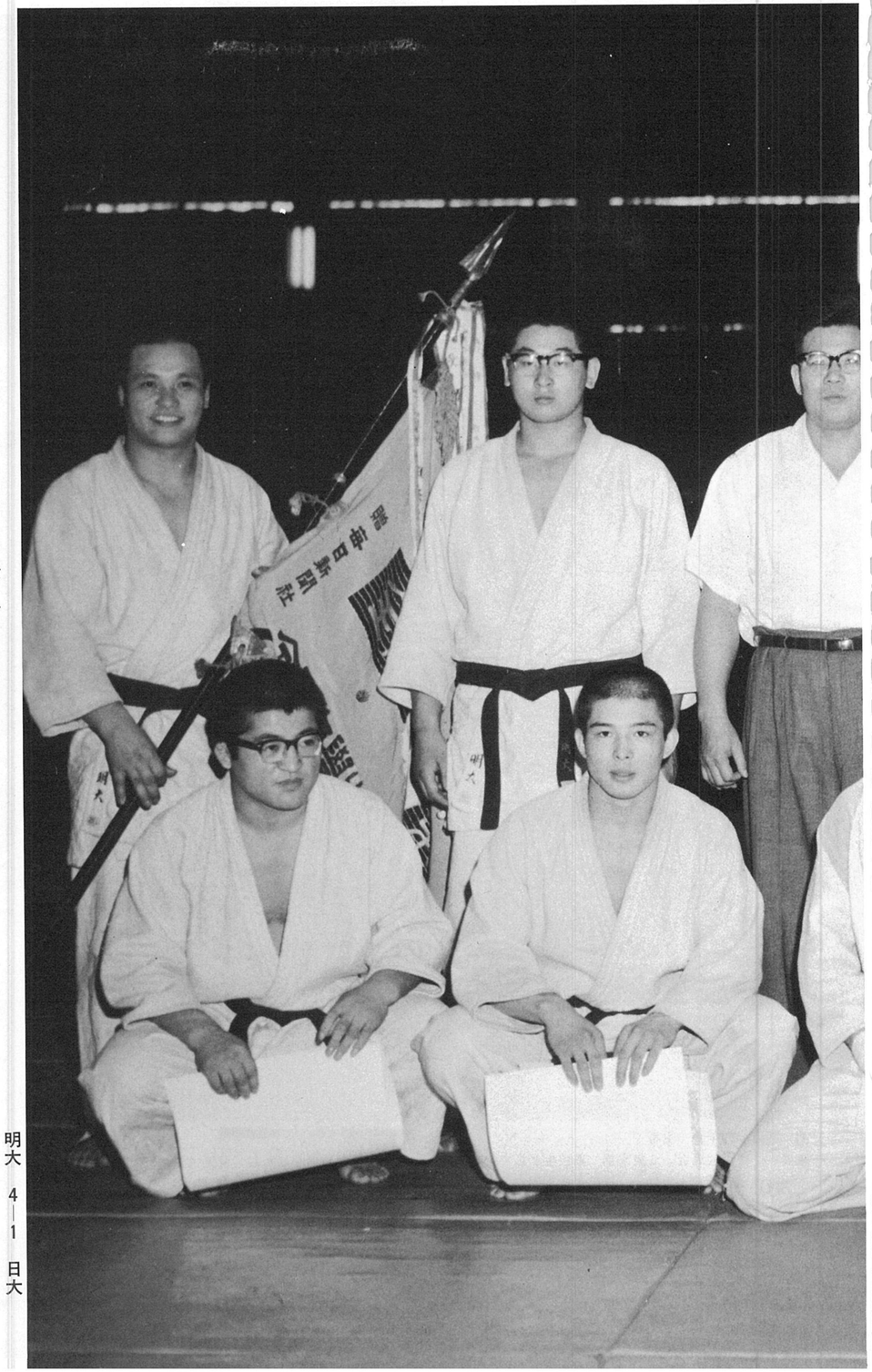


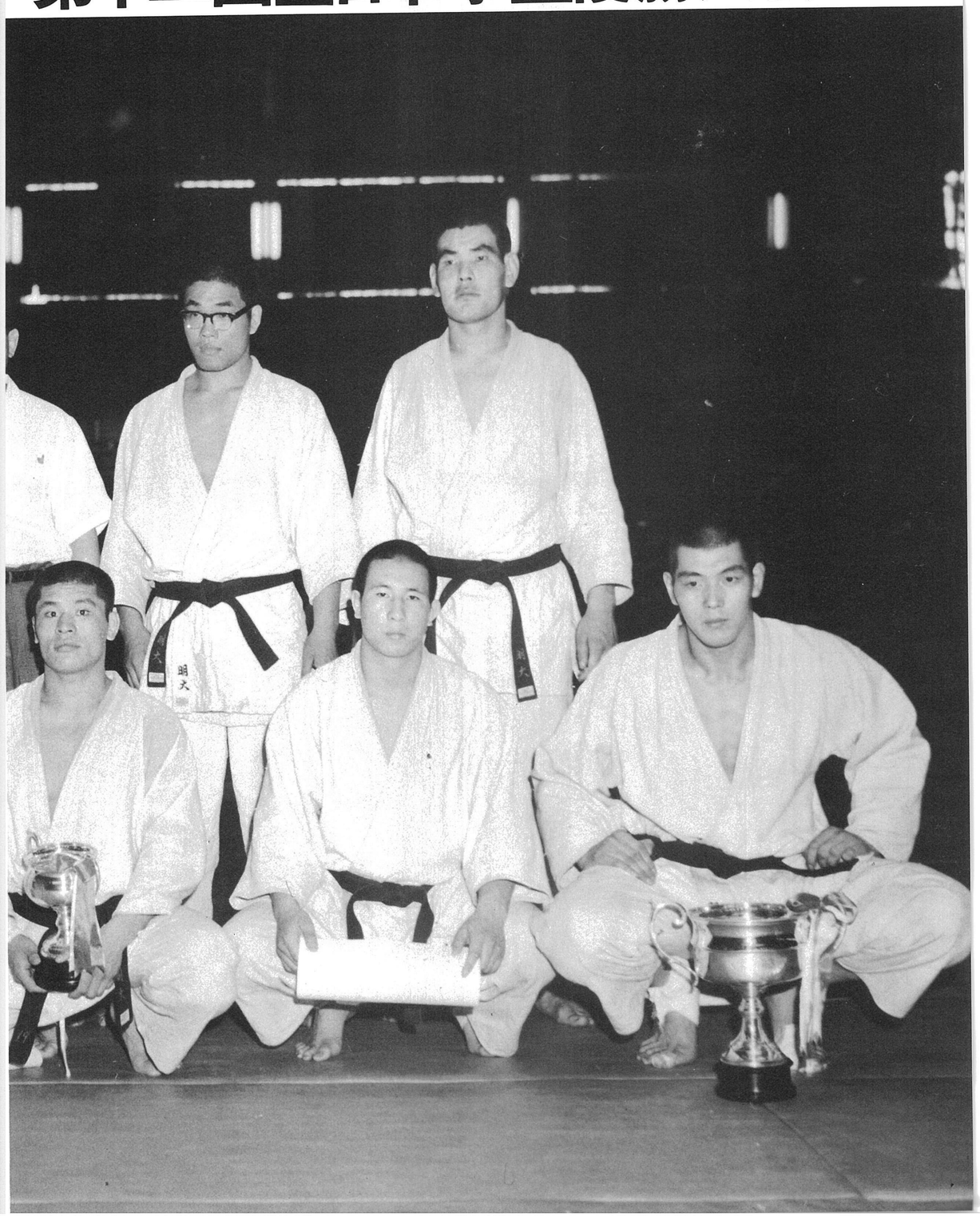
菅原隆三郎　38年度　主将
Ⅰ秋田県　2クラレ㈱　3岐阜県
(写)実業団大会で後輩の村井（新日鉄）と戦う（43年）

三連勝　第十二回全日本学生優勝大会

（38.6.16於東京体育館）

昭和38	菅原隆三郎
38	上田　隆三
38	平岡　康司
38	佐々木　晃
38	鈴木　紀一
38	佐藤　幸二
38	石原　賢信
38	内村　省蔵
38	細川　隆夫
38	池田　建次
38	渡辺　　治
38	菊地　　達
38	大村　勝利
38	池田　二郎
38	鳴海　憲二
38	北村晋太郎
38	奥田　新八
38	岩戸　正美
38	菅谷　邦正





決勝戦

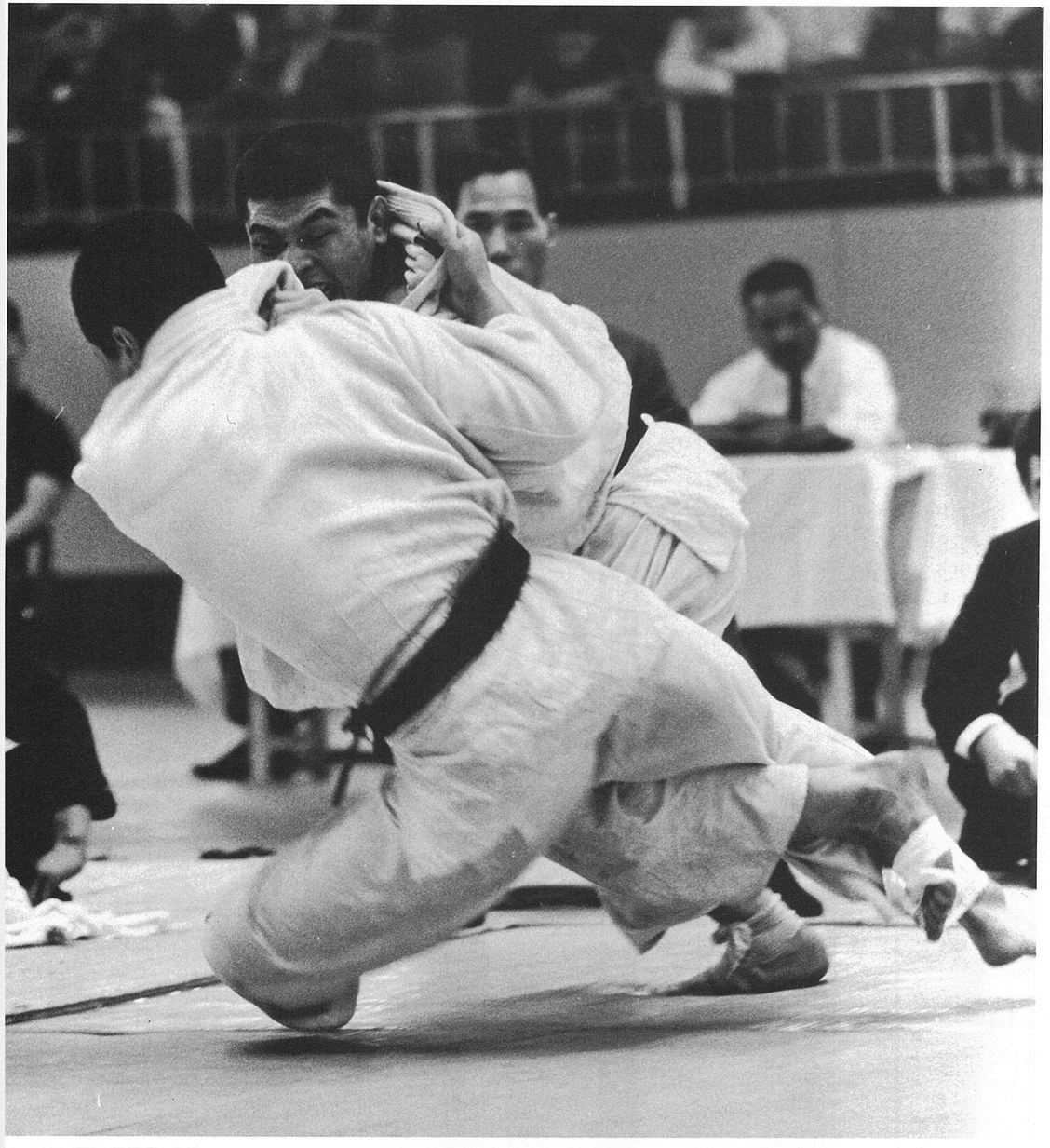
明大	4—1	日大
村井	○（横四方固）	江口
関	（引分）	鳥越
富田	（送り襟絞）○	北村
石原	○（合せ技）	増田
上野	○（優勢）	平石
山本	○（払腰）	鈴木
坂口	（引分）	白崎

連勝の柱



村井正芳　39年

Ｉ秋田県　２新日鉄　３姫路市　プレオリンピック重量級優勝（38年）
関と共に一年からのレギュラーで四連覇の中心選手
(写)村井―大外刈―下内（日大）東京学生優勝大会（37年）



関　勝治　39年度　主将

Ｉ千葉県　２中央競馬会　３東京都　高校生として初の全日本選手権大会の出場をはたし（関東代表）68㎏の軽量ながら一回戦をクリアし話題となる。
全日本選抜体重別優勝・中量級　全日本選手権大会十回出場の表彰を受ける。明大柔道部監督（51年―56年）全柔連強化コーチ。
(写)関―大内刈―市岡（天理大）全日本学生優勝大会（37年）

四連覇達成

第十回大会の優勝で始じまった明治の快進ゲキは連覇、三連覇と重ねて来たが四連覇をかけた13回大会も他校の挑戦を一しゅうして、29年に先輩達が達成した三連覇を延ばす偉業を達成した。

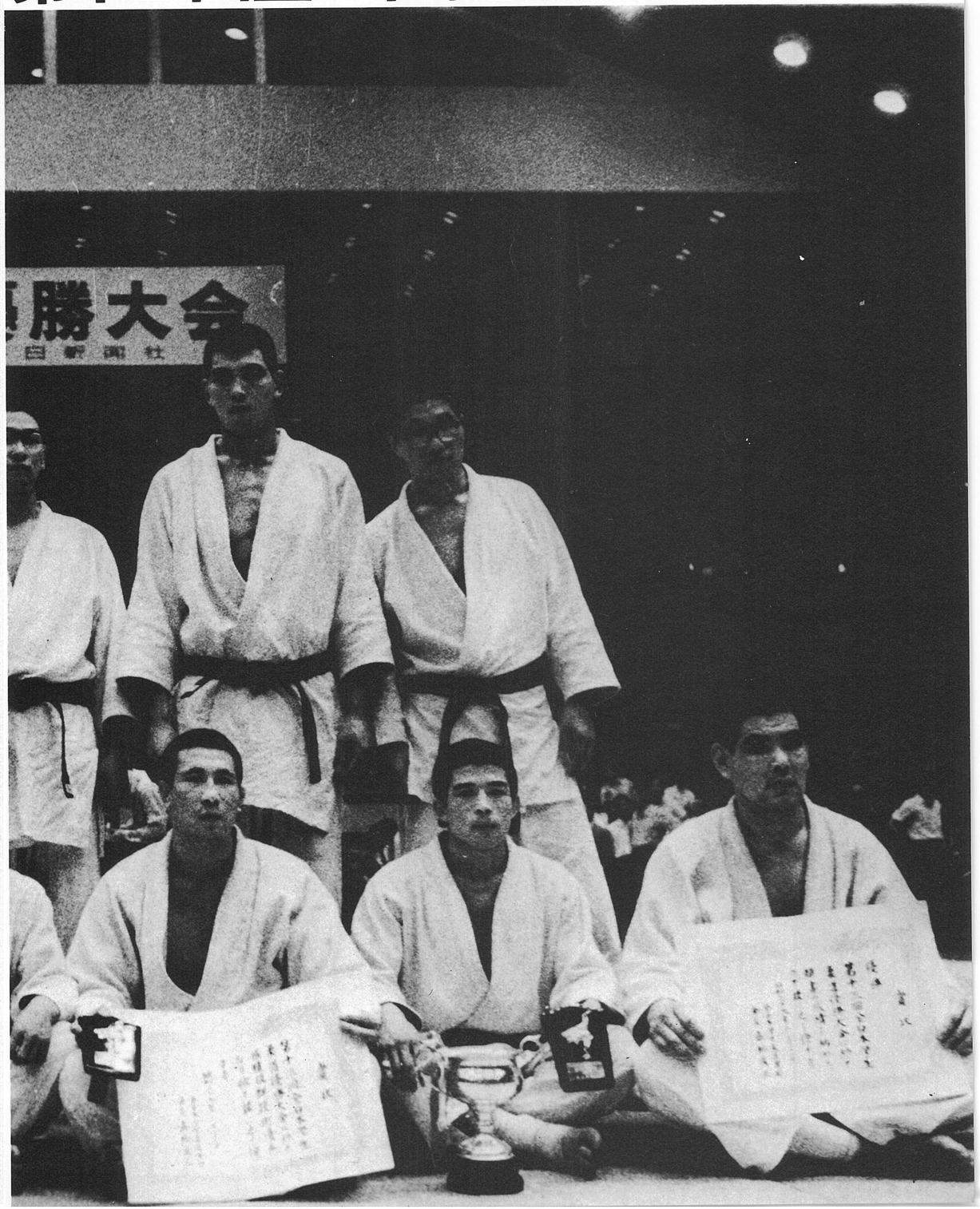
昭和39	関	勝治
39	坂口	征二
39	山本	忠夫
39	村井	正芳
39	植草(旧横田)	勝
39	田村	忠勇
39	中谷	雄英
39	永吉	勝憲
39	高岡	稔治
39	鳥海又	五郎
39	村山	秀之
39	世良	紘一
39	飛鳥	義紘
39	大西	啓壱
39	中野	雅博
39	渡辺	昌照
39	橋本	登志満
39	松田(旧高武)	勲勇
39	向下文	治郎
39	野坂	良雄
39	野村	守彦
39	鈴木	愛忠
39	松田	良和
39	飯田	弘昌
39	坂本	州正
39	小田	秀明



明大	3—1	早大	
鳥海	（引分）	淀谷	
積田	（引分）	近谷	
村井	○（大内返し）	山下	
関	（小外掛）○	長井	
上野	（引分）	酒井	
山本	○（大内刈）	藤内	
坂口	○（払腰）	山崎	

（39．6．21於東京体育館）

第十三回全日本学生柔道優勝大会



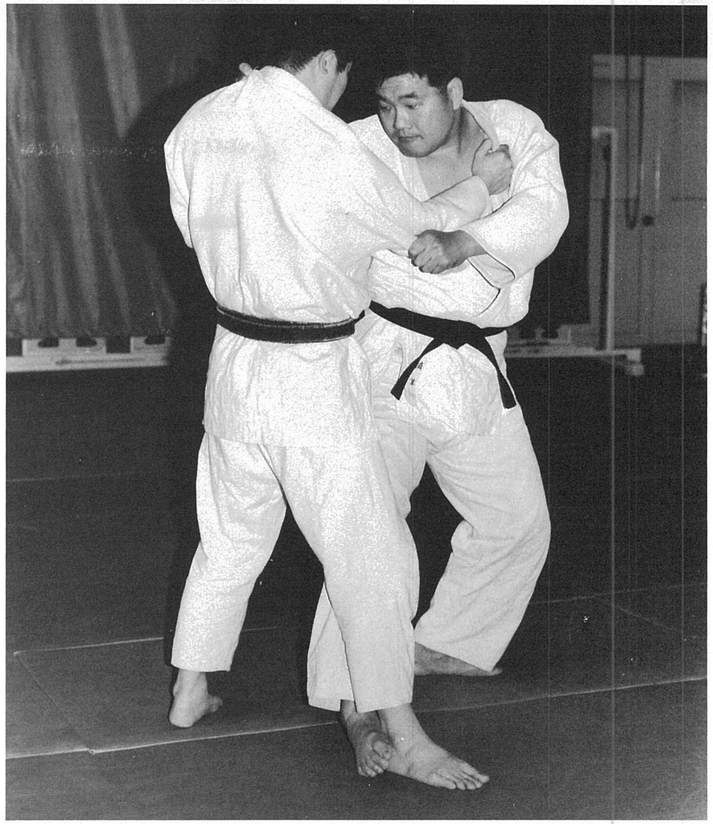
四連覇スナップ
(写)四連覇達成直後、関主将以下選手達の淡々たる態度が印象的である。



(写)四連覇達成のごほうび、沖縄遠征でくつろぐ選手たち



▶(積田)
植草　勝　39年度
1千葉県　2千葉県警　3千葉市
(写)全日本選手権大会出場前



外国コーチ、請負人トミタ

▼富田弘美　40年度
1宮城県　2サンファン大学教授　3プエルトリコサンファン市
卒業間もなくポーランドのナショナルコーチとして招へいを受ける。四年間の滞在中ポーランドを始じめ東欧圏の技術向上につとめ、その指導力は高く評価されている。カナダを経て、現在はプエルトリコに移りサンファン大学を中心に指導にあたっている
(写)学生たちと、富田向って左はじ





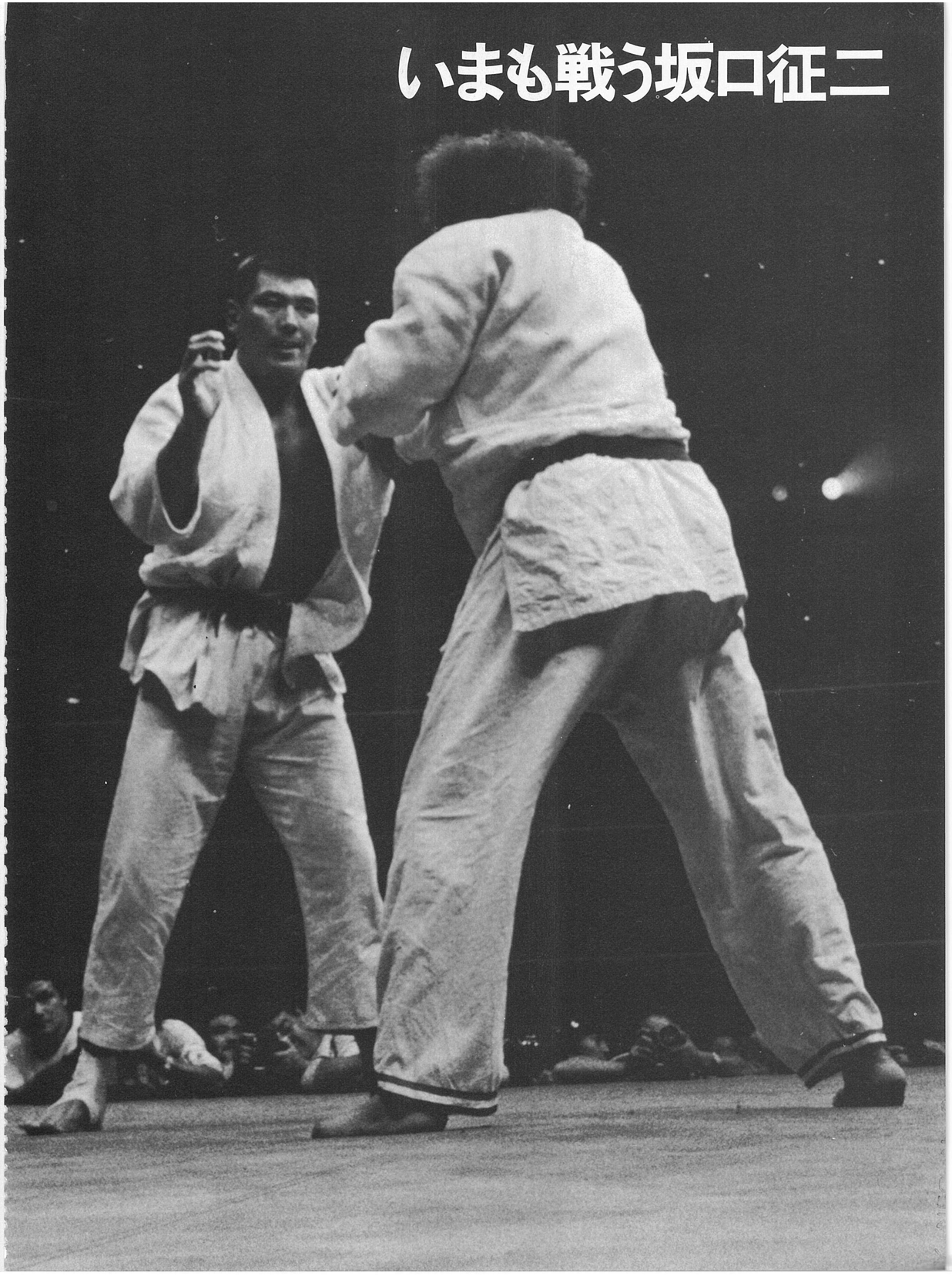
坂口征二　39年度

1福岡県　2新日本プロレス　3東京都
全日本選手権大会優勝（40年）
全日本学生選手権大会無差別級優勝（39年）
45年プロレスリングに転ずる。

▶全米国際大会
◀全日本選手権大会優勝祝賀会（澄水園）
▼たたみをリングにかえて今も頑張る坂口



いまも戦う坂口征二

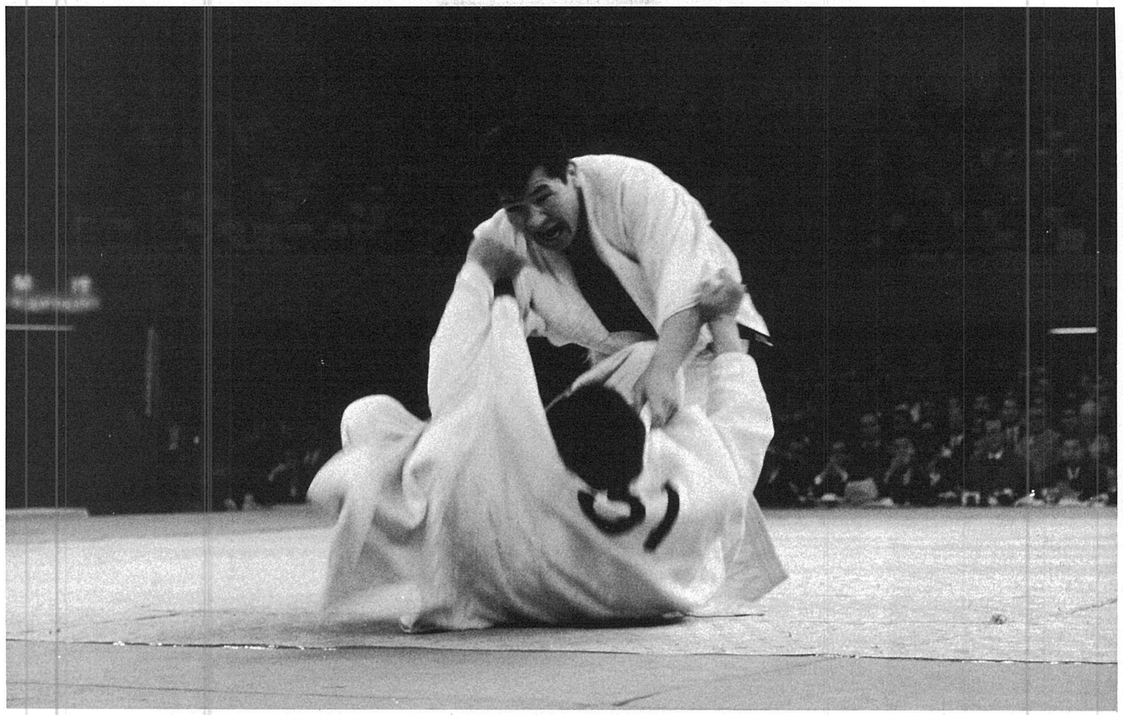


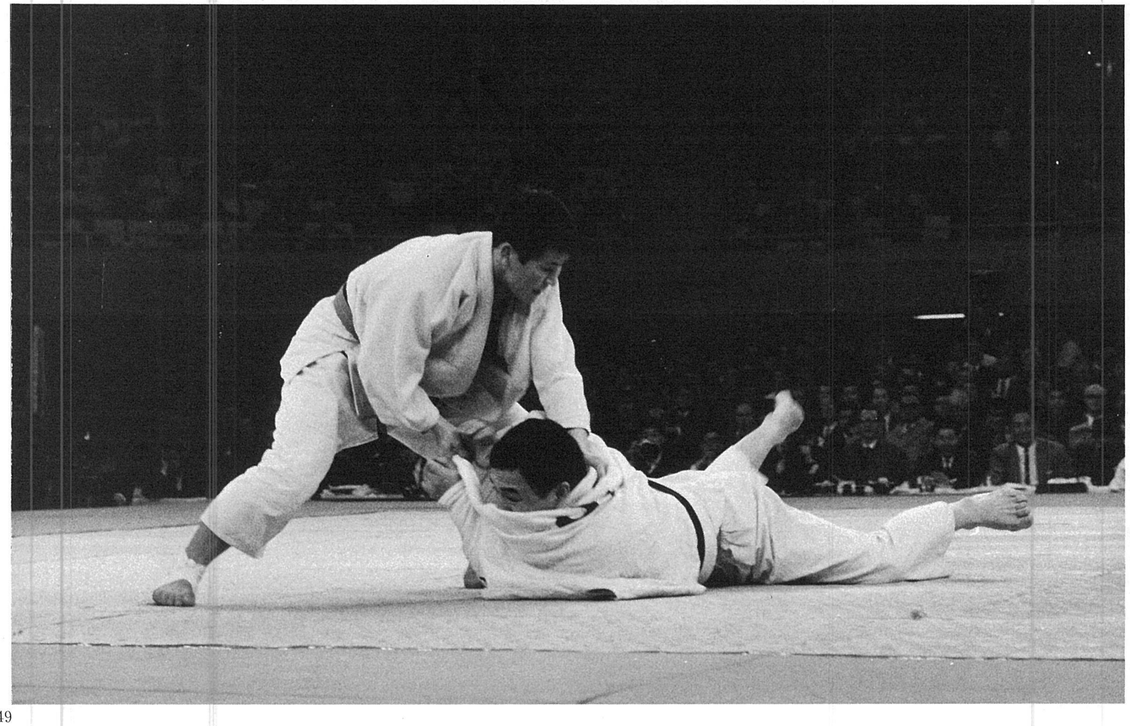
中谷雄英　39年度

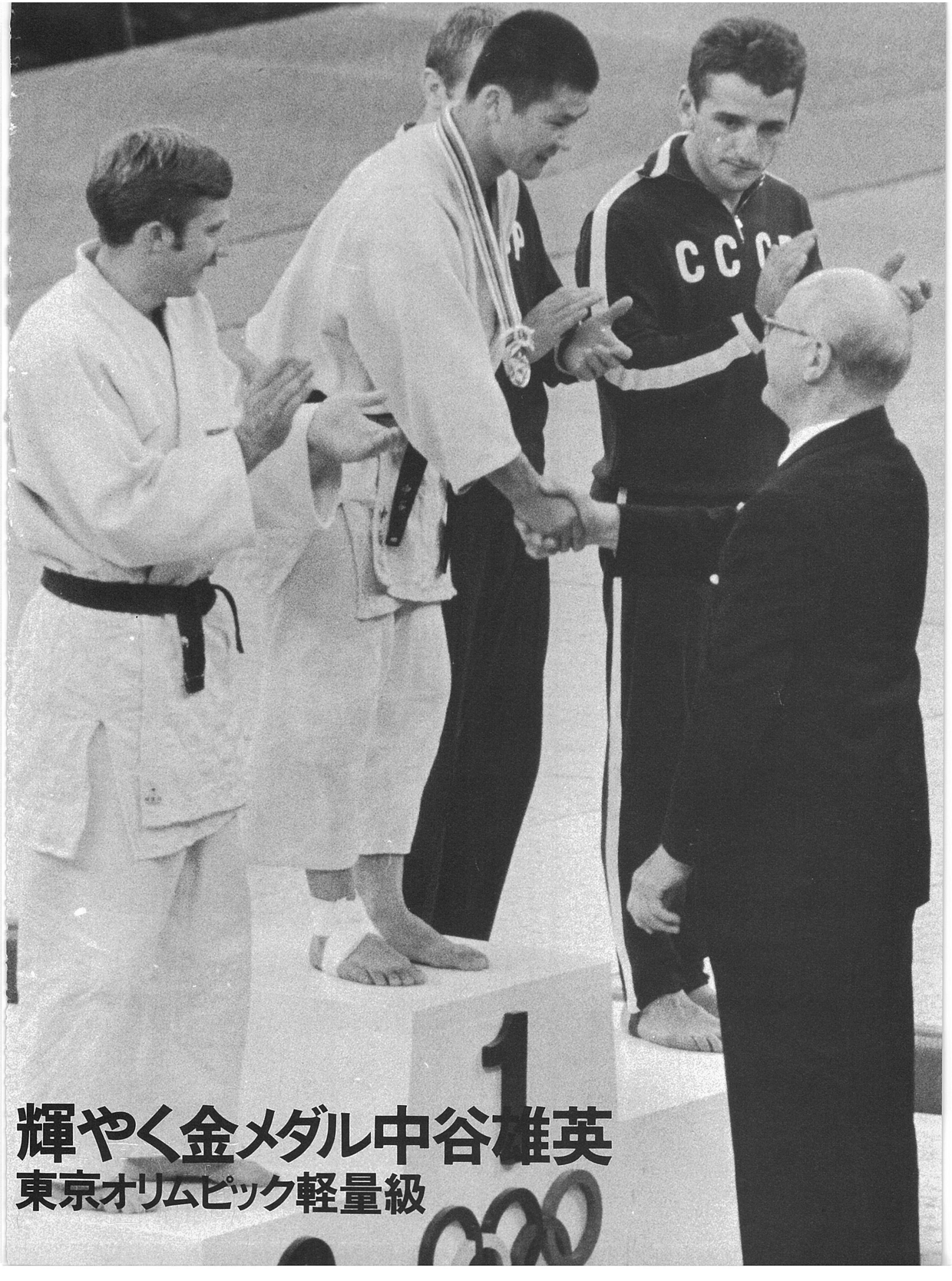
I 広島県　2 自営業　3 広島市　東京オリムピック軽量級優勝

(写)▶表彰台上の中谷雄英（東京オリムピック）

▼全日本選手権大会でも敢闘した中谷

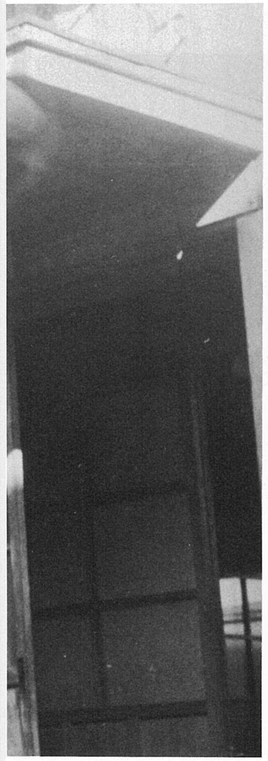


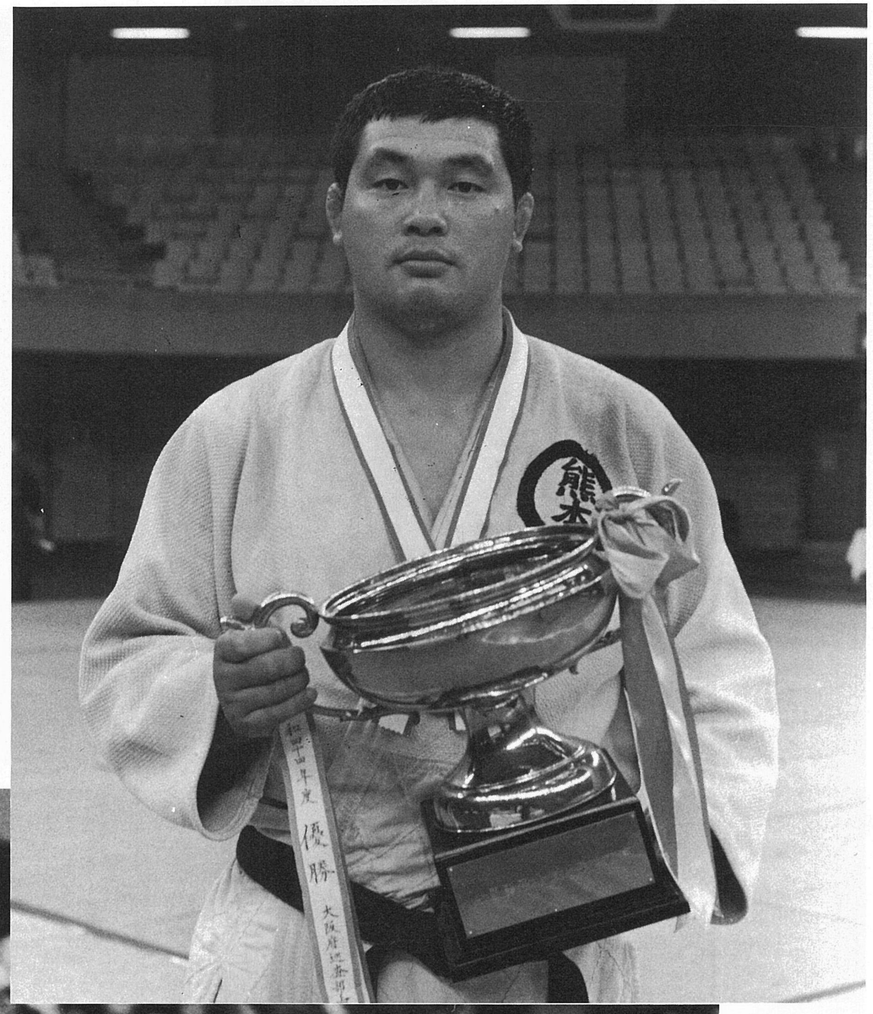


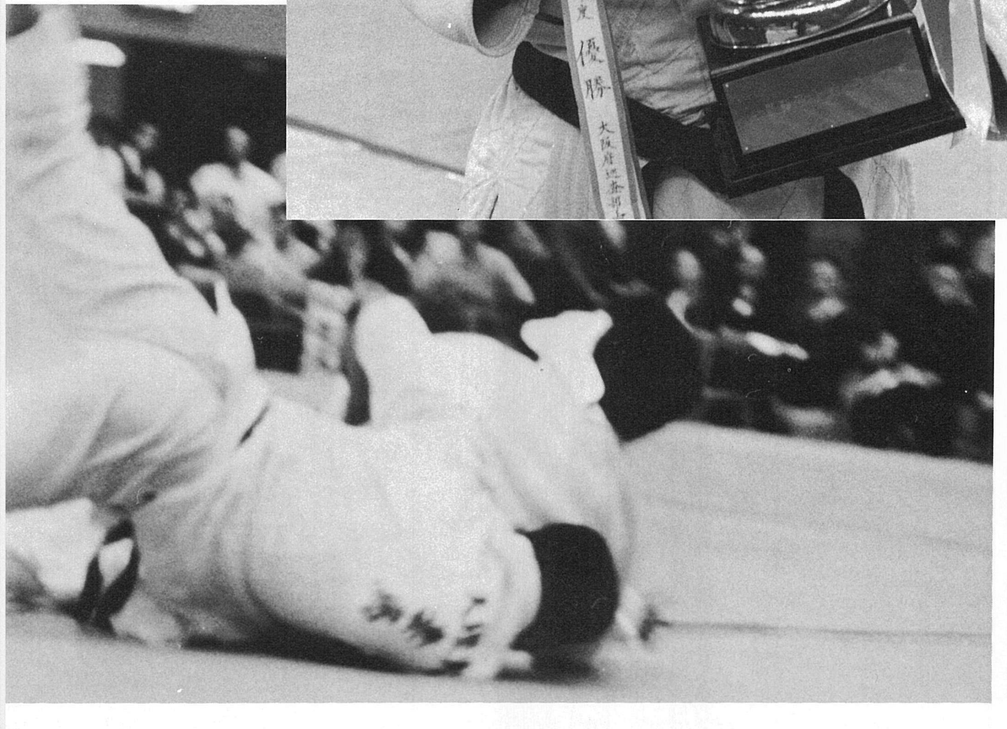


輝やく金メダル中谷雄英

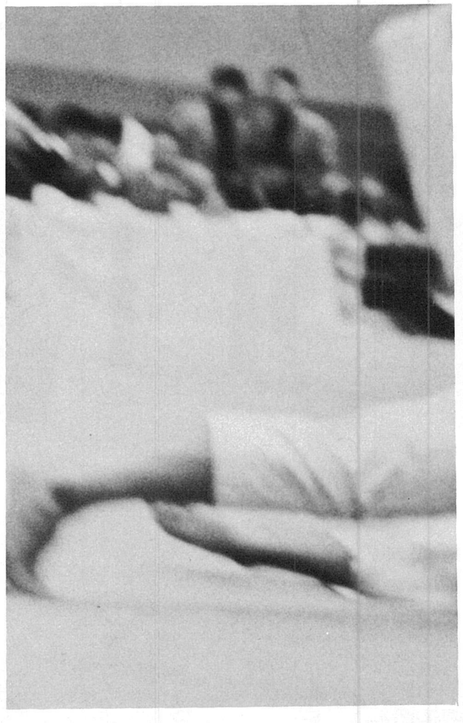
東京オリムピック軽量級











▼**坂本羯正　四十年度**
1熊本県　2熊本県警　3八代市
全国警察選手権大会優勝（四六年）
(写)　右と同じ

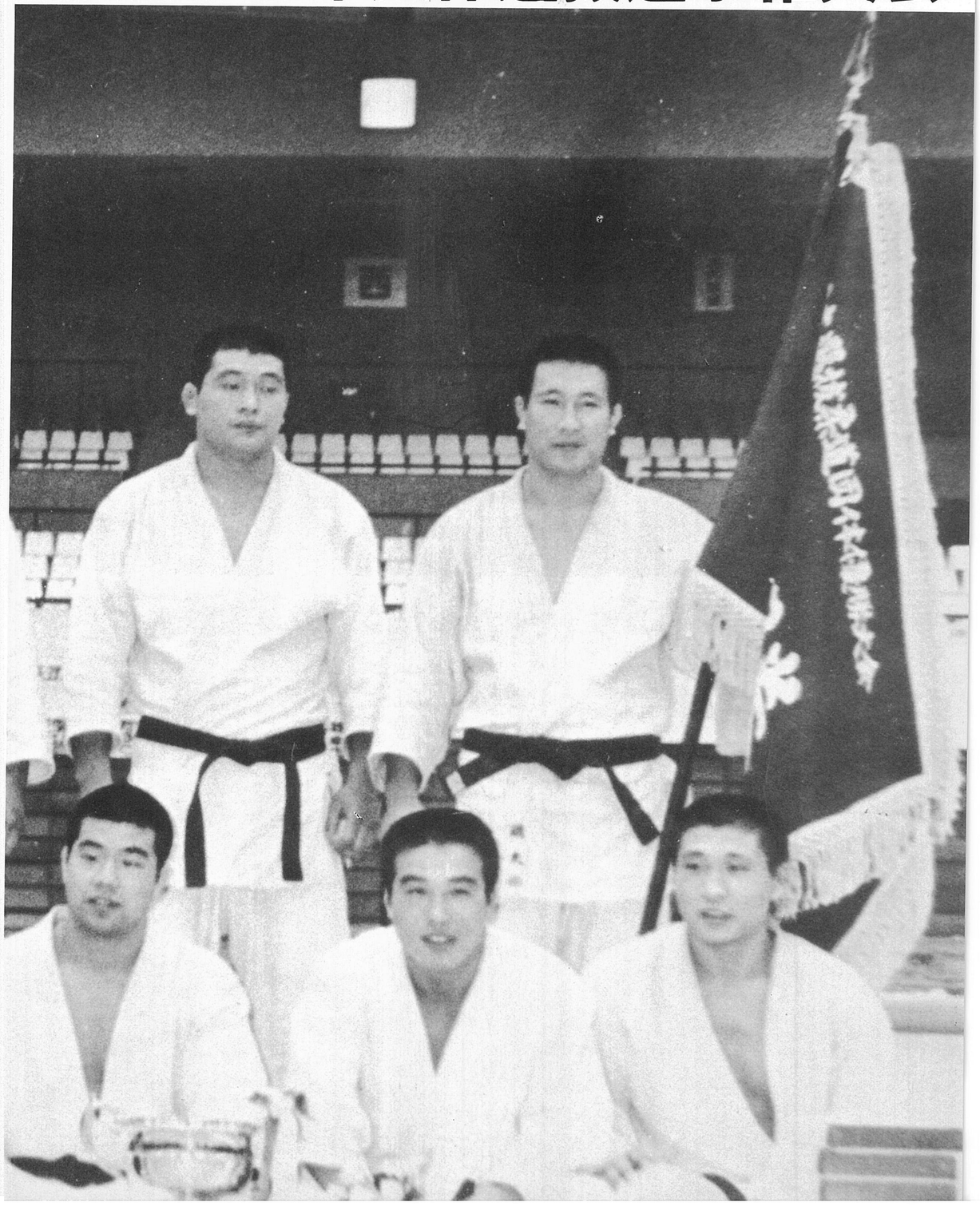
▲**上野武則　四十年度　主将**
1福岡県　2福岡県警　3福岡市
全日本学生選手権大会重量級優勝（三九年）
(写)朝のトレーニングにはげむ上野（三九年澄水園）

▶**佐々木　満　四十年度**
1広島県　2博報堂㈱　3東京都
卒業後、講道館よりベルギーに派遣され
ナショナルコーチとして二年間指導にあたる。
(写)　右払腰　実業団大会

昭和40	上野	武則
40	富田	弘美
40	佐々木	満
40	坂本	羯正
40	蛯名	達二
40	隅田	一雄
40	木原（旧松山）	正勝
40	中島（旧、知）今	朝光
40	法亢（旧矢口）	保孝
40	段上	雄二
40	辛島	雄健
40	小林	伸毅
40	高橋	久雄
40	小藤田	勝彦
40	横山	正弘
41	山本	裕洋
41	平田	義昭
41	遠田	照明
41	佐々木	充行
41	市島	大二郎
41	古浜	晴永
41	藤林	義高
41	渡辺	公雄
41	堤	昭輝

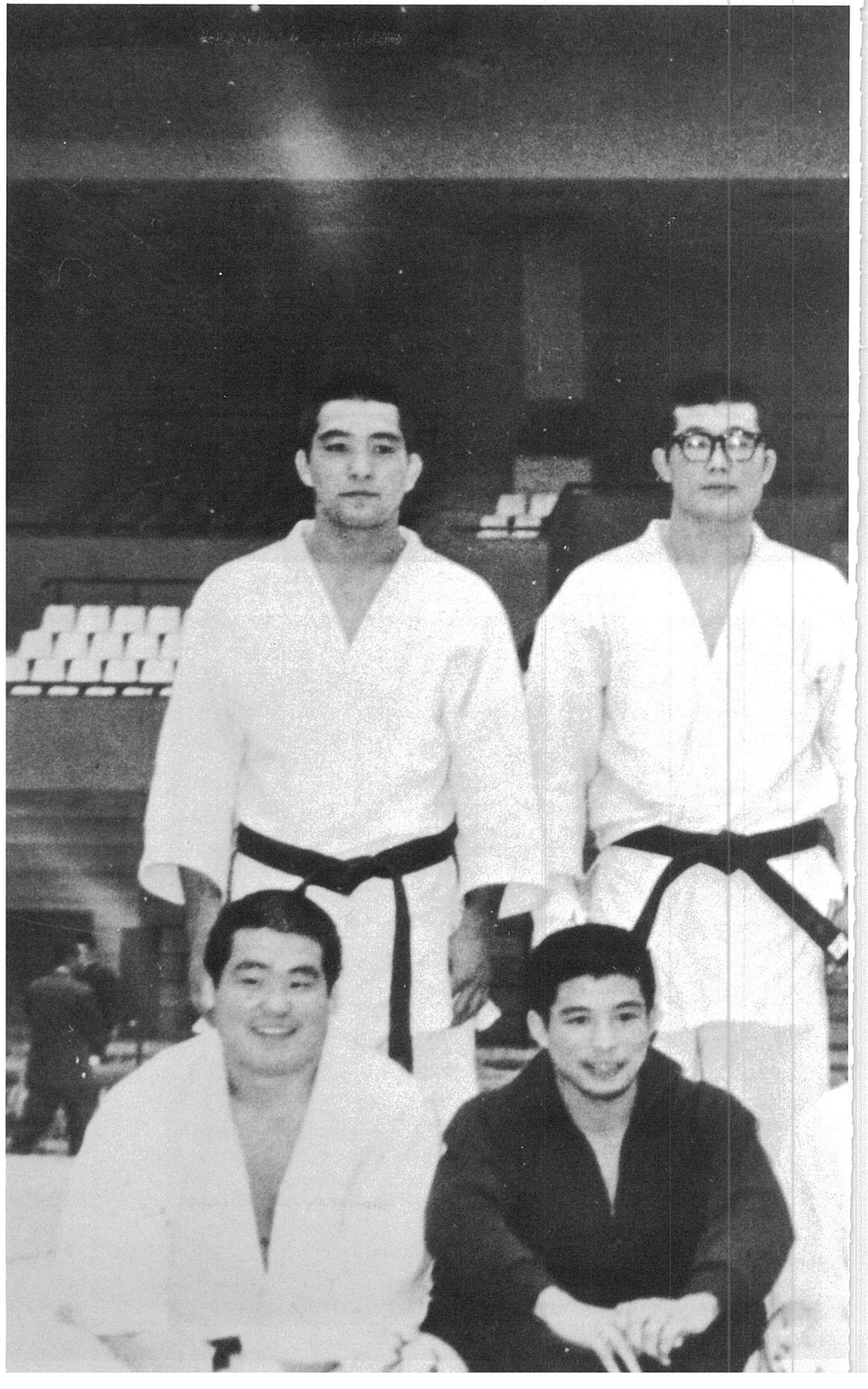
第一回全日本団体選抜選手権大会

（於名古屋市）



優勝

40年10月第1回の全日本団体選手権大会が開催された。この年、学生優勝大会を決勝で失った明治はその悔しさをこの大会にぶっつけ、決勝戦で警視庁チームを破って見事に優勝を遂げた。



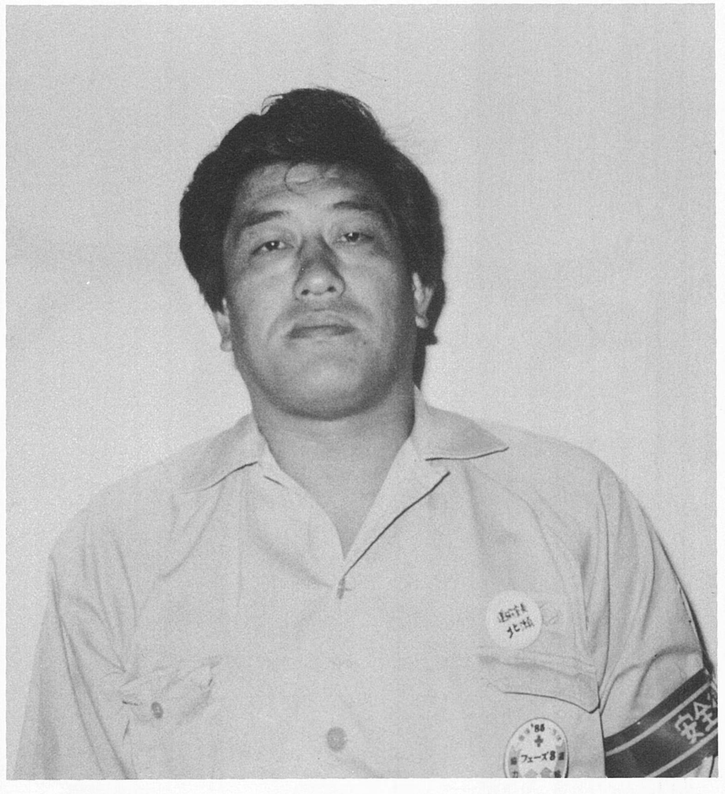
昭和42　湯浅　政一
42　北瀬　暁一
42　大森　昇
42　小村　和紀
42　隠塚　紘一
42　渡辺　民二
42　佐伯　和成
42　森　幸夫
42　佐藤　誠三
42　高木（旧石岡）　将光
42　片山　義則
42　中野　一郎
42　中本　義行
42　佐々木隆夫
42　吉永　和夫
42　斉田　英文
42　大久保利昭
43　篠巻　政利
43　安斉　奏人
43　岡　義徳
43　太田　正人
43　高田　耕一
43　高木　剛
43　黒田　基行
43　葉山　義光
43　南日　和郎
43　高林　慎一
43　竹原　弘志

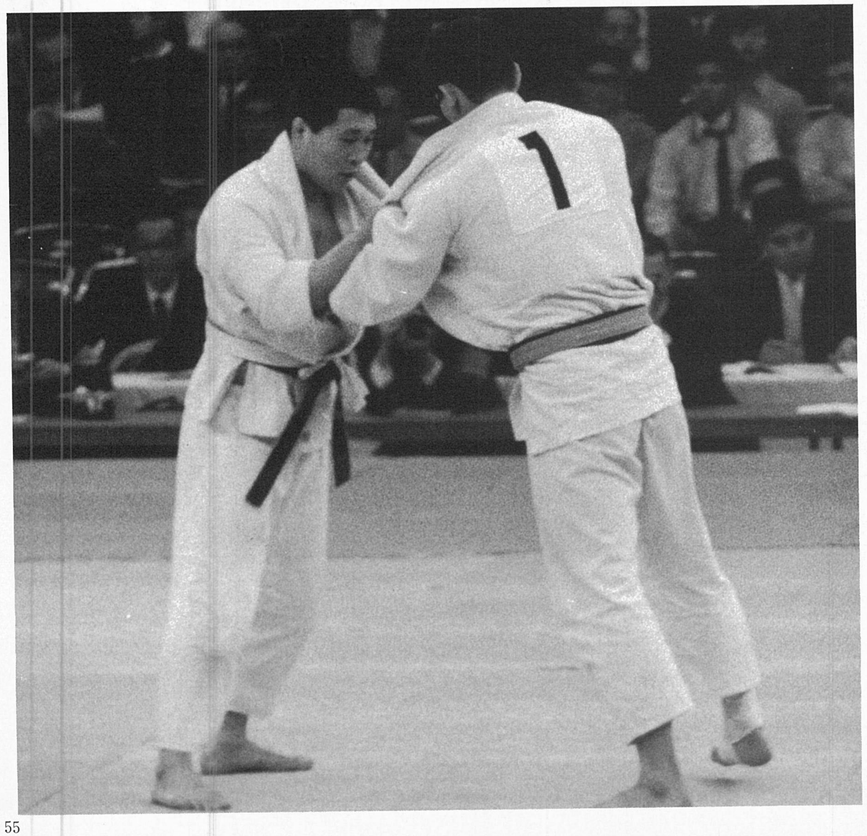




▲山本裕洋　四一年度　主将
―広島県　2旭化成㈱　3延岡市
全日本学生選手権大会無差別級優勝（四〇年）
全日本選抜体重別選手権大会無差別級優勝（四二年）
㈼学生選手権大会優勝の笑顔

◀北瀬暁一　四二年度
―福井県　2新日鉄㈱　3姫路市
㈼　近影





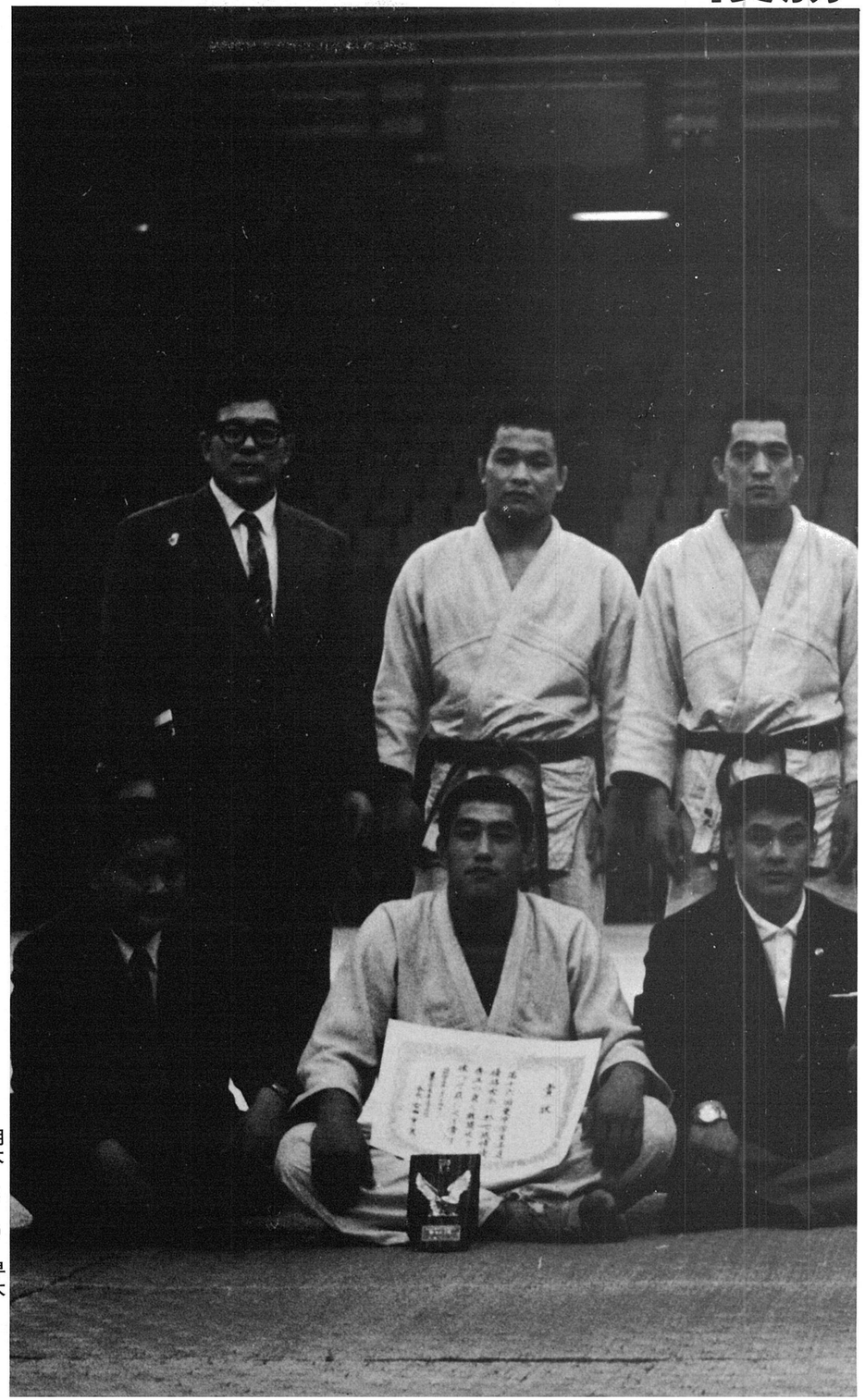
▲湯浅政一　四二年度　主将
―群馬県　2博報堂㈱　3川崎市
㈼　模範演技をする湯浅（四三年）

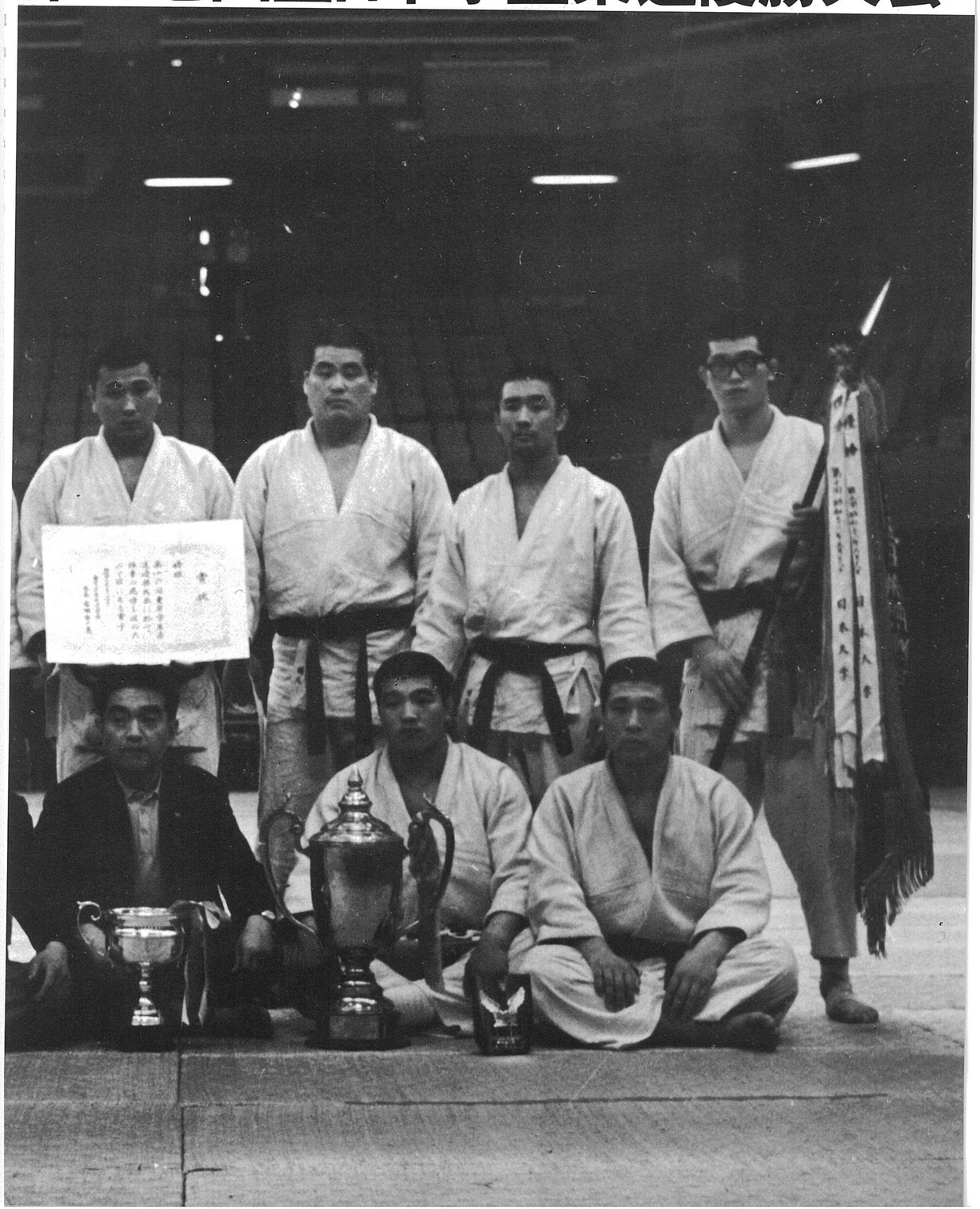
◀小村和紀　四二年度
―島根県　2島根県警　3出雲市
㈼、全日本選手権大会で二宮選手と対戦する小村

優勝 第一七回全日本学生柔道優勝大会

（43.6.16於武道館）

昭和44	須磨	周司
44	小谷	利夫
44	姿	信夫
44	小林	欣吾
44	川村	侃
44	沼尾	啓一
44	宮崎	照満
44	代田	正俊
44	佐藤	康夫
44	中島	平人
44	金子	淑夫
44	村上	京杉
44	渡辺	健二
44	星野	泰之
45	国安（田佐々木）	均
45	吉沢	修一
45	橋本	一郎
45	平沢	保夫
45	西村	良之
45	石井	康男
45	石橋	重則





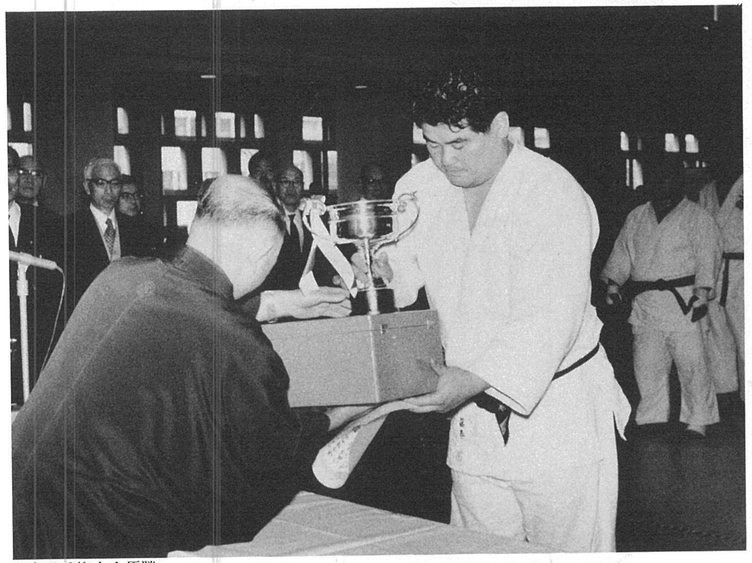
決勝戦

明大	3—0		早大
河原	（引分）		小野沢
須麿	○（内股）		高橋
小谷	（引分）		許
岩田	（引分）		中川
篠巻	（引分）		此松
安斉	○（内股）		友成
岡	○（大外刈）		樗沢

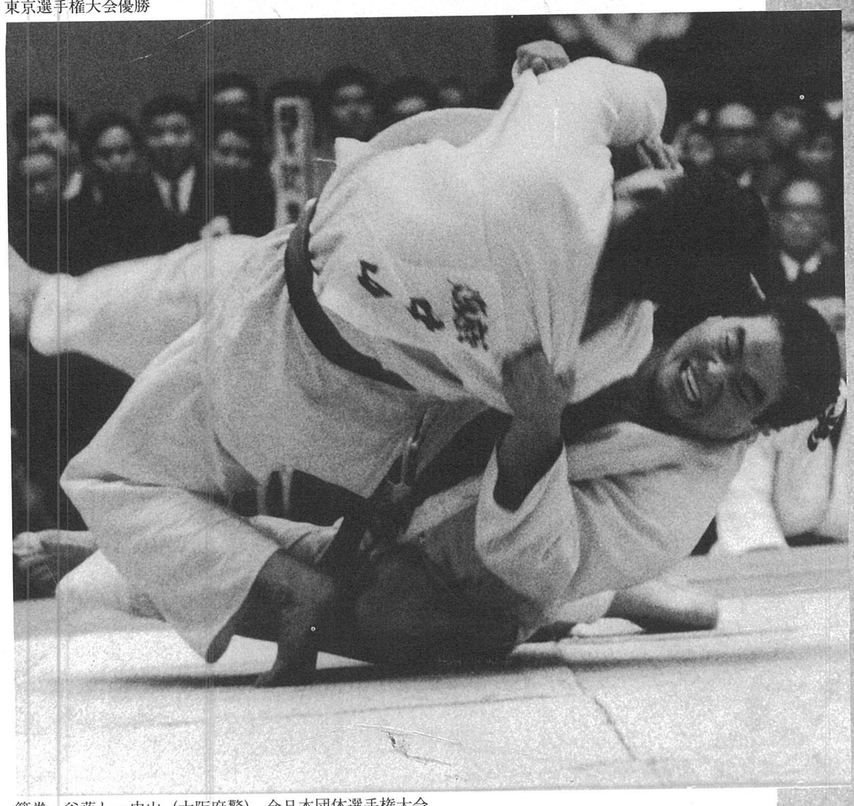
篠巻政利　43年度　主将

1千葉県　2新日鉄㈱　3東京都

優勝、世界選手権大会無差別級二連勝（44年、46年）全日本選手権大会（45年）世界学生選手権大会無差別級（41年）全日本学生選手権大会重量級（42年）全柔連強化コーチ、国際審判員(現)　明大柔道部監督(現在)



東京選手権大会優勝



篠巻―谷落し―中山（大阪府警）　全日本団体選手権大会



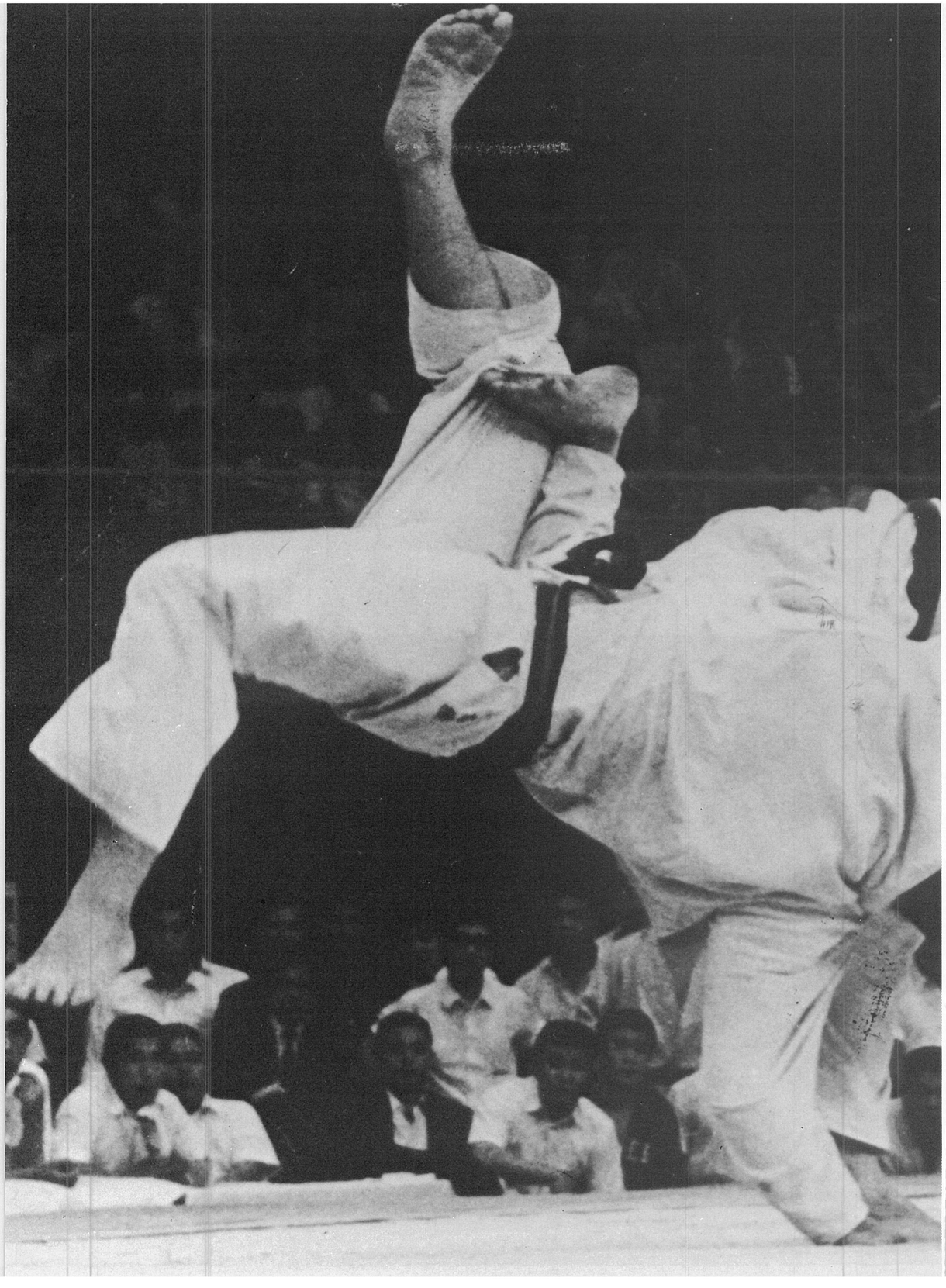
世界選手権大会対オヘダ（スペイン）

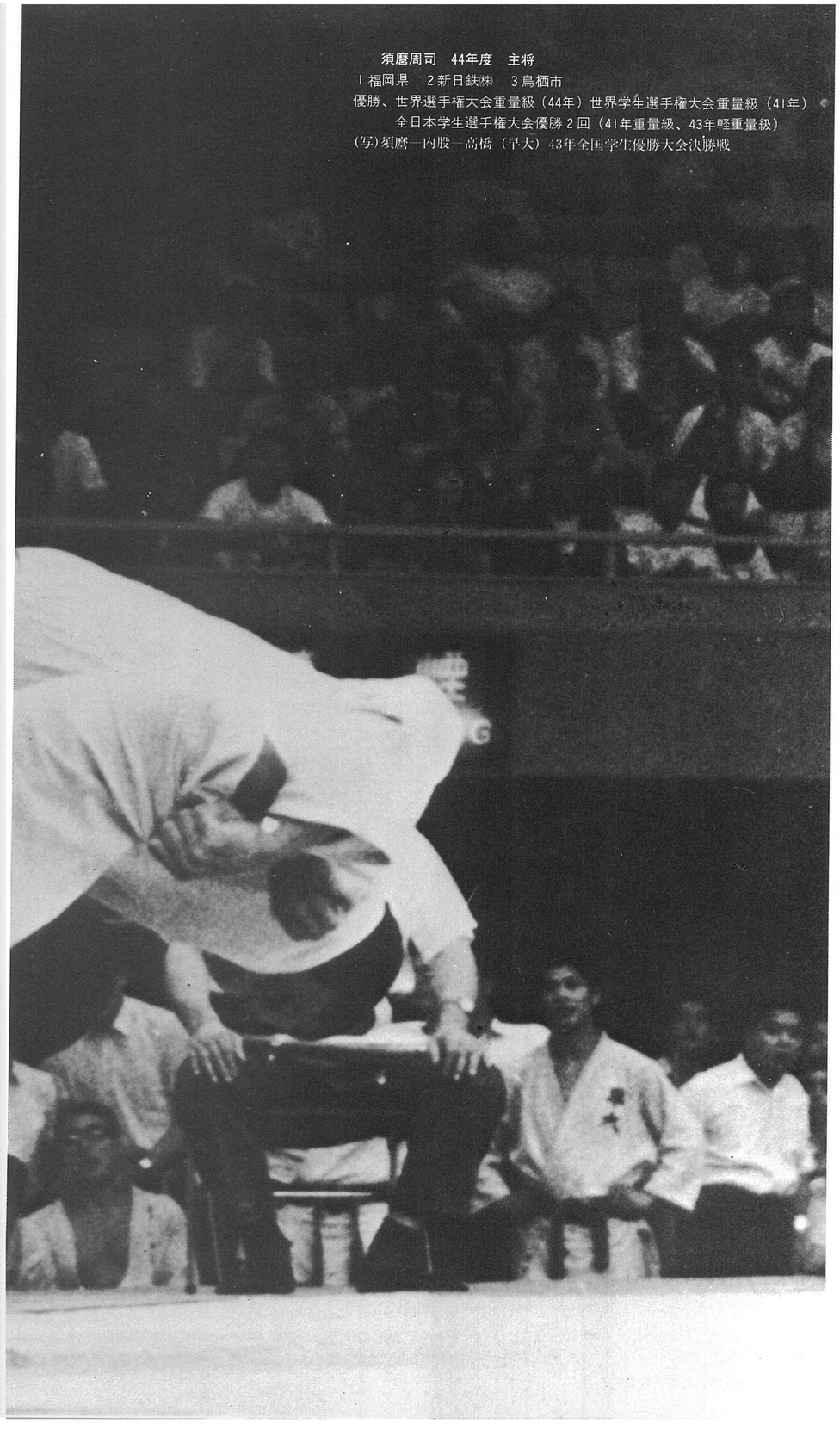
篠巻政利

オールタイトル総なめ世界のシノマキ

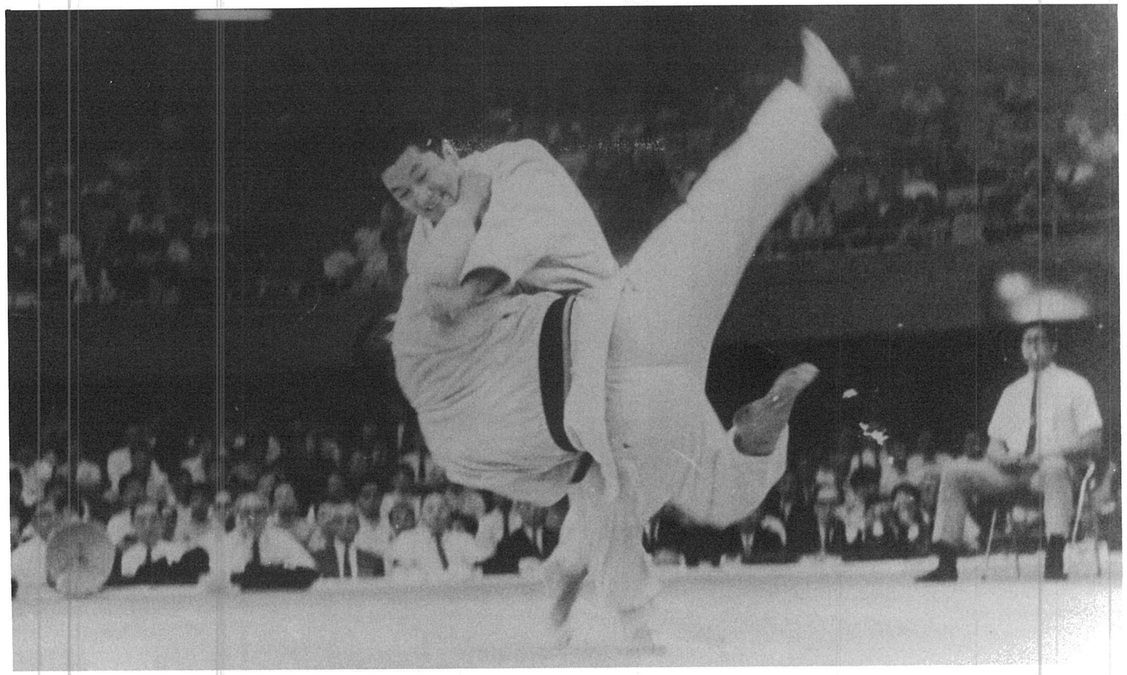


左背負投と右内股と使い分けた
須麿周司

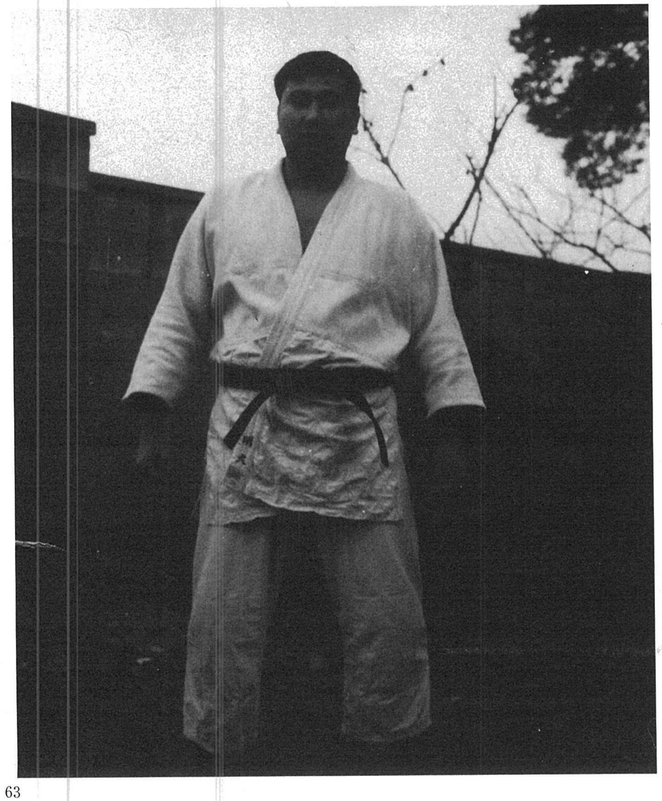




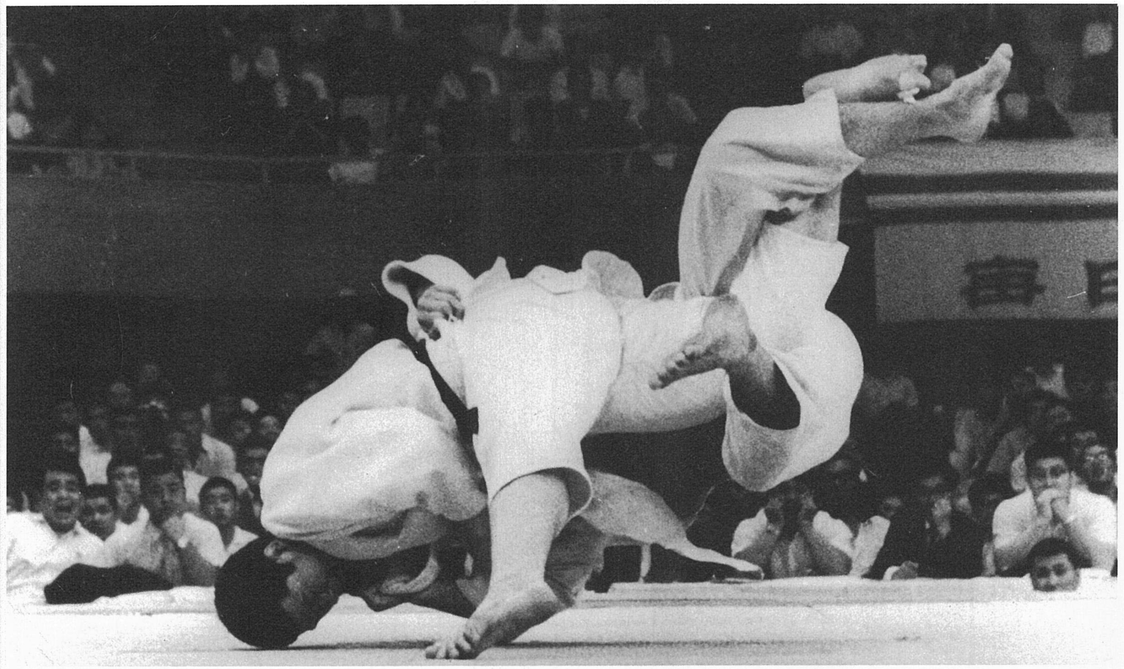
須麿周司　44年度　主将
1 福岡県　2 新日鉄㈱　3 鳥栖市
優勝、世界選手権大会重量級（44年）世界学生選手権大会重量級（41年）
全日本学生選手権大会優勝 2 回（41年重量級、43年軽重量級）
(写)須麿一内股一高橋（早大）43年全国学生優勝大会決勝戦



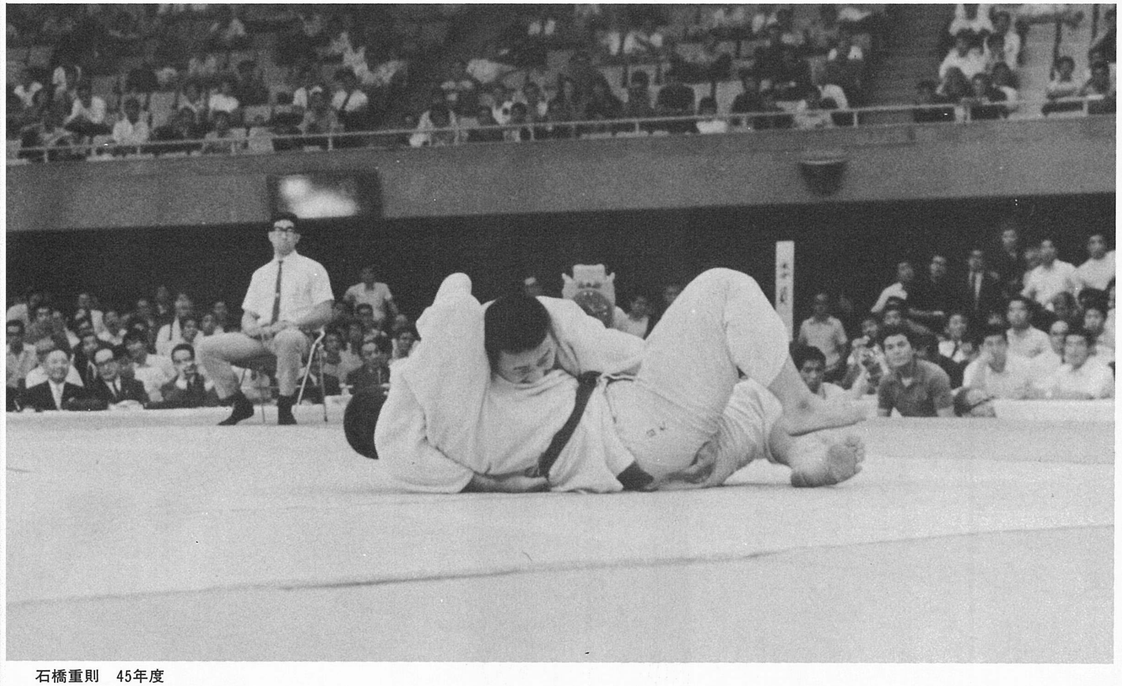
国安(佐々木)均　45年　主将
l 秋田県　2 男鹿興業社　3 男鹿市
(写)佐々木―支釣込足一本―依田（日大）全日本学生優勝大会（45年）



小谷利夫　44年度
l 千葉県　2 千葉県警　3 千葉市
(写)合宿庭にて（44年春）



安斉奏人　43年度
l 宮城県　2 自営業　3 岩沼市
(写)安斉―内股―友成（早大）全日本学生優勝大会（45年）



石橋重則　45年度
l 福岡県　2 博報堂㈱　3 大野城市
(写)石橋―横四方固―遠藤（日大）、全日本学生優勝大会（45年）

昭和46　河原　月夫
46　岩田　久和
46　青木　則雄
46　梶原　博見
46　馬庭　光伸
46　利　宗一
46　金谷　洋志
46　石橋　広一
46　香川　景政
46　鈴木　強
46　浦上　宗治
46　星野治ひろ
46　近藤　孝徳
46　鈴尾　貢好
46　新家　秀夫

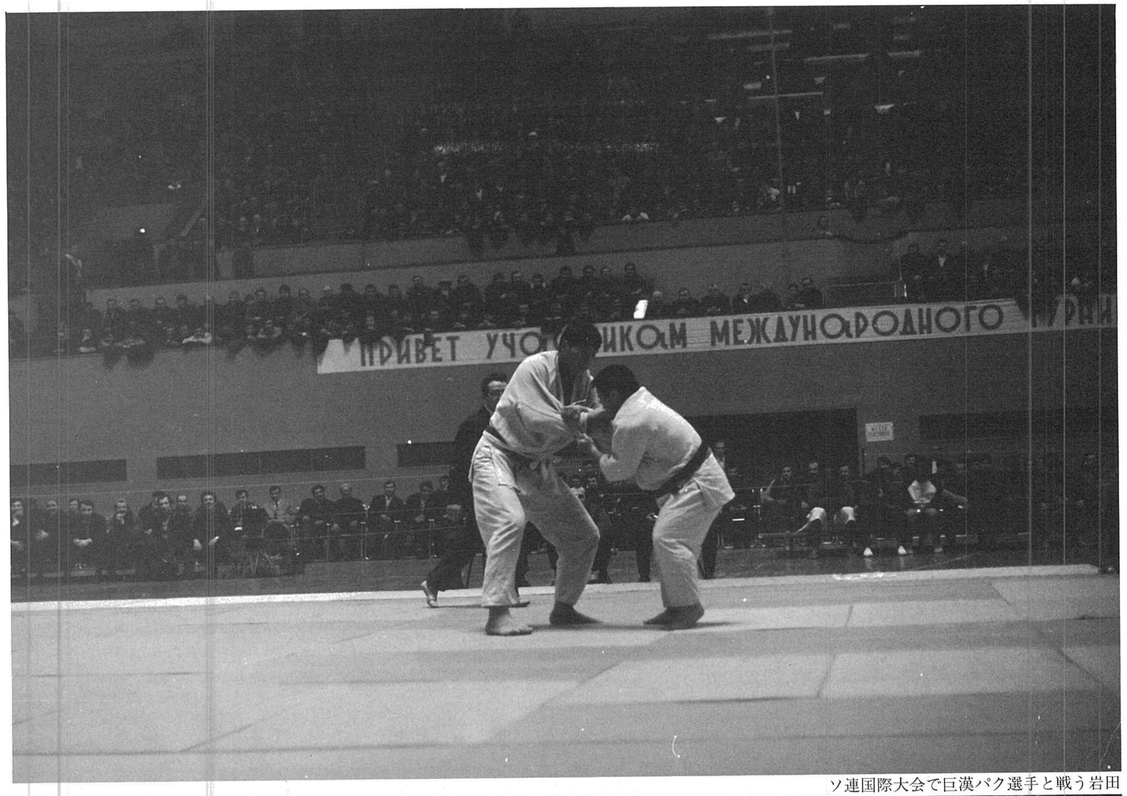
優勝



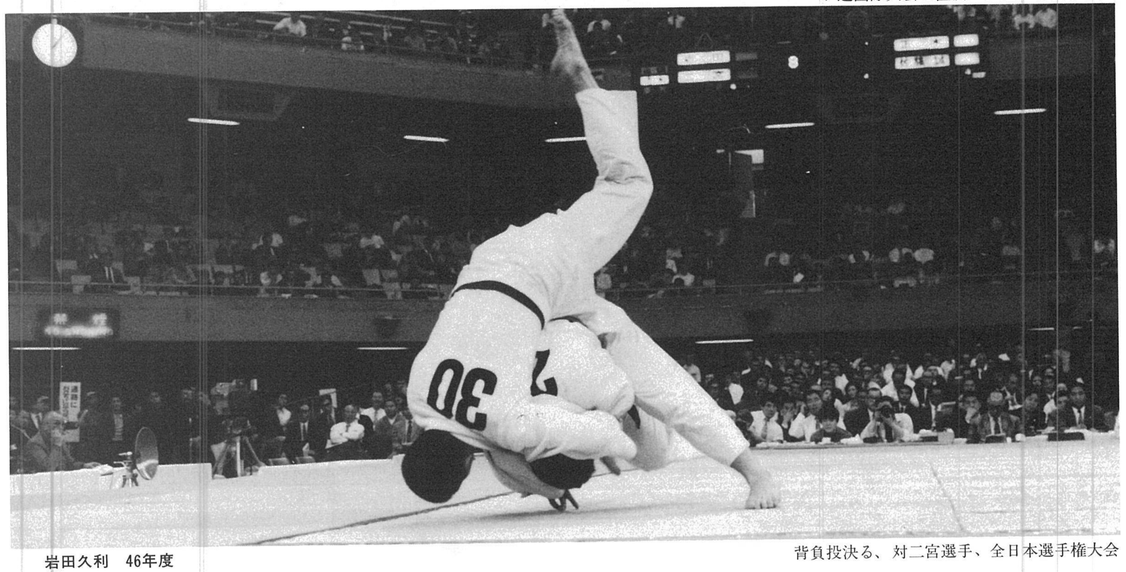
（於名古屋市）

第六回全日選抜団体選手権大会





ソ連国際大会で巨漢パク選手と戦う岩田



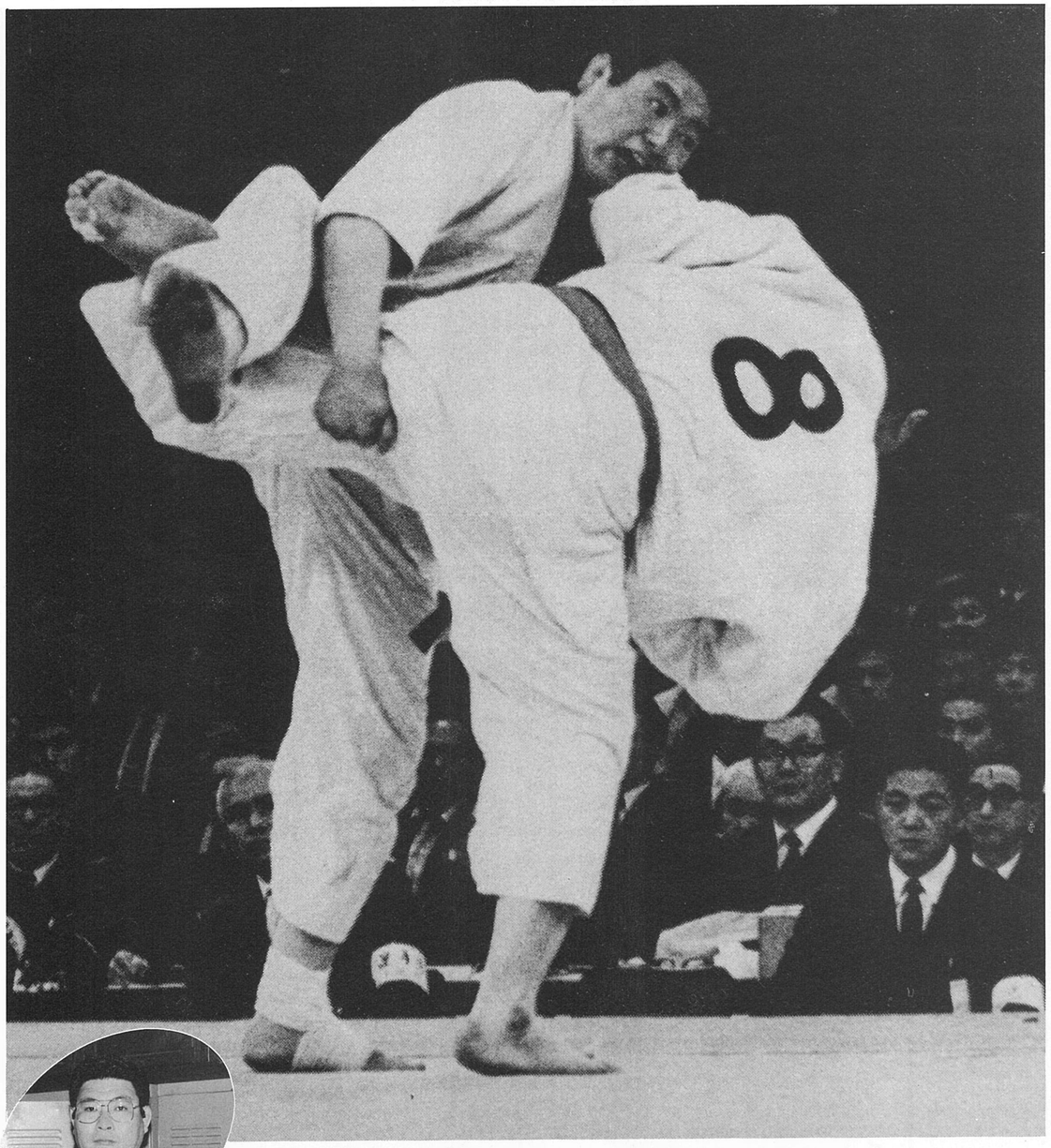
背負投決る、対二宮選手、全日本選手権大会

岩田久利　46年度

1 熊本県　2 新日鉄㈱　3 東京都

全日本選手権大会準優勝（47年）

静かなファイター岩田



▲近影

河原月夫　46年度　主将

1 愛知県　2 愛知県警　3 名古屋市

全日本学生選手権大会選手権の部優勝（45年）全日本選手権大会準優勝（45年）

全日本選抜体重別選手権95㎏級優勝（53年）全日本選手権大会出場10回の表彰

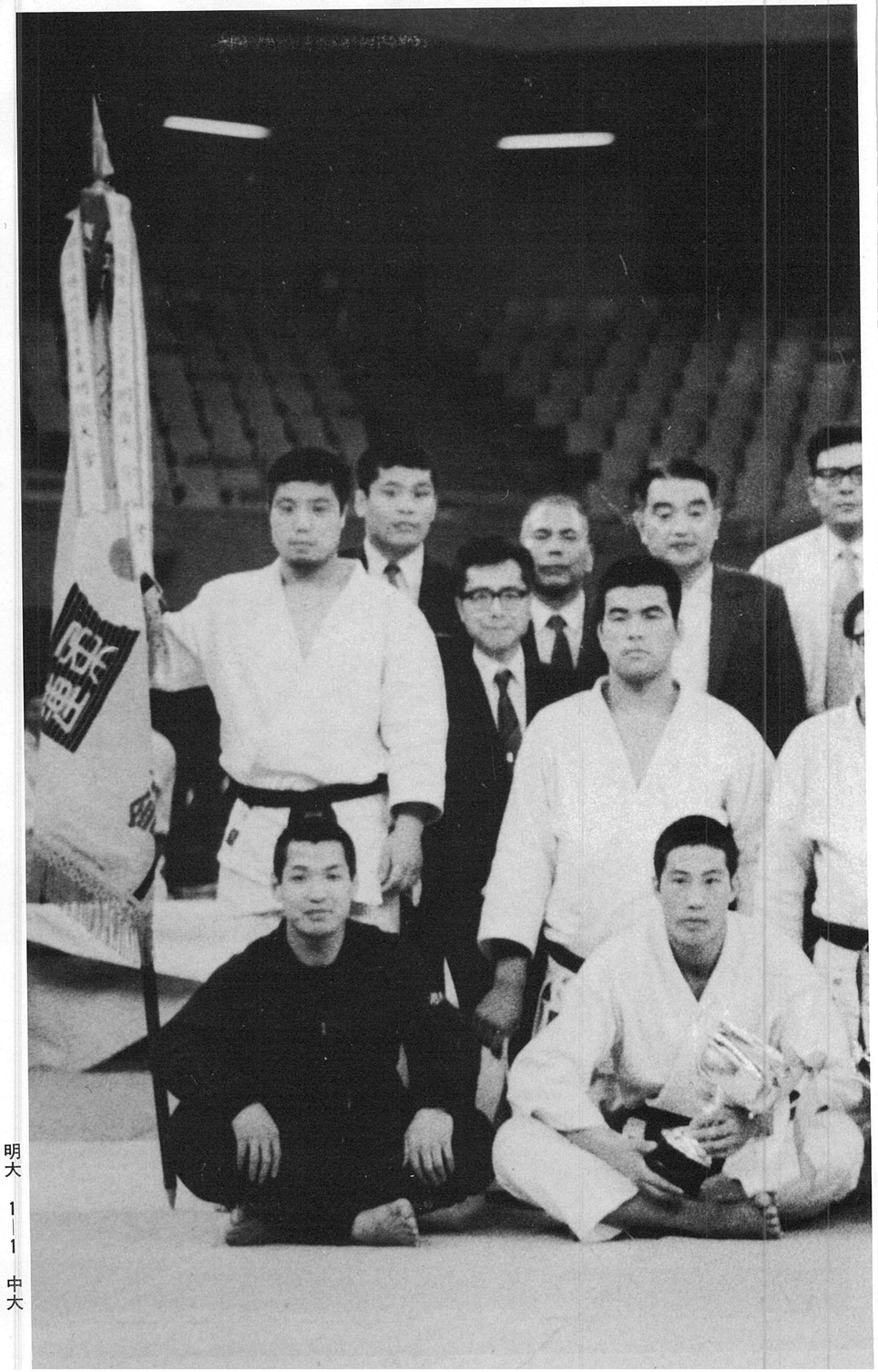
▲同門篠巻と決勝を戦う河原（全日本選手権大会45年）

迸しる闘志、河原

優勝

大会直前にポイントゲッター河原主将を急病で欠いたが副将岩田がよくチームをまとめ勝利をものにした。

昭和47　鮫島　俊隆
47　上村　春樹
47　川口　孝夫
47　吉井　敬吉
47　加茂博久仁
47　重松　義成
47　奥田　輝重
47　岩崎　治泰
47　佐々木和吉

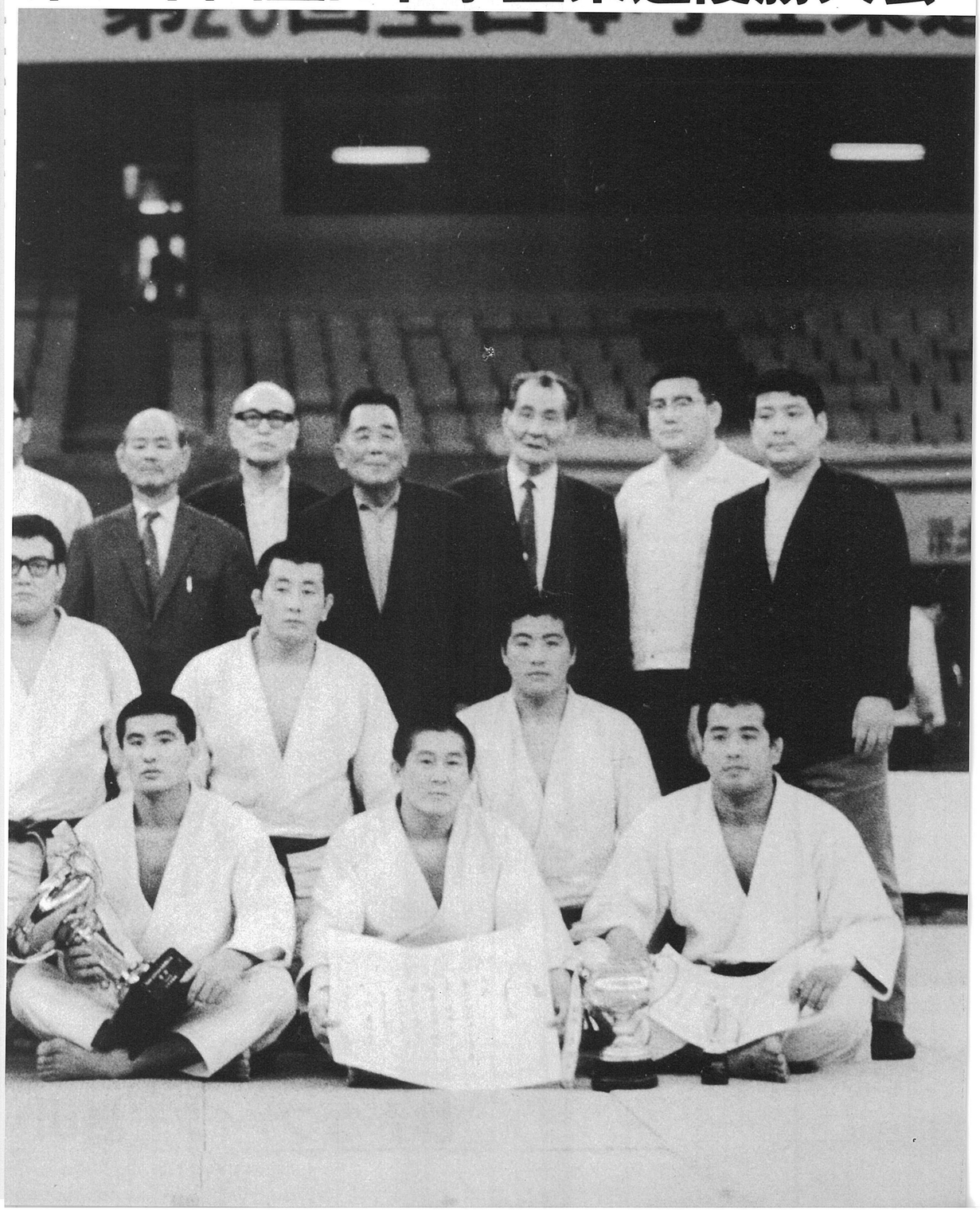


決勝戦

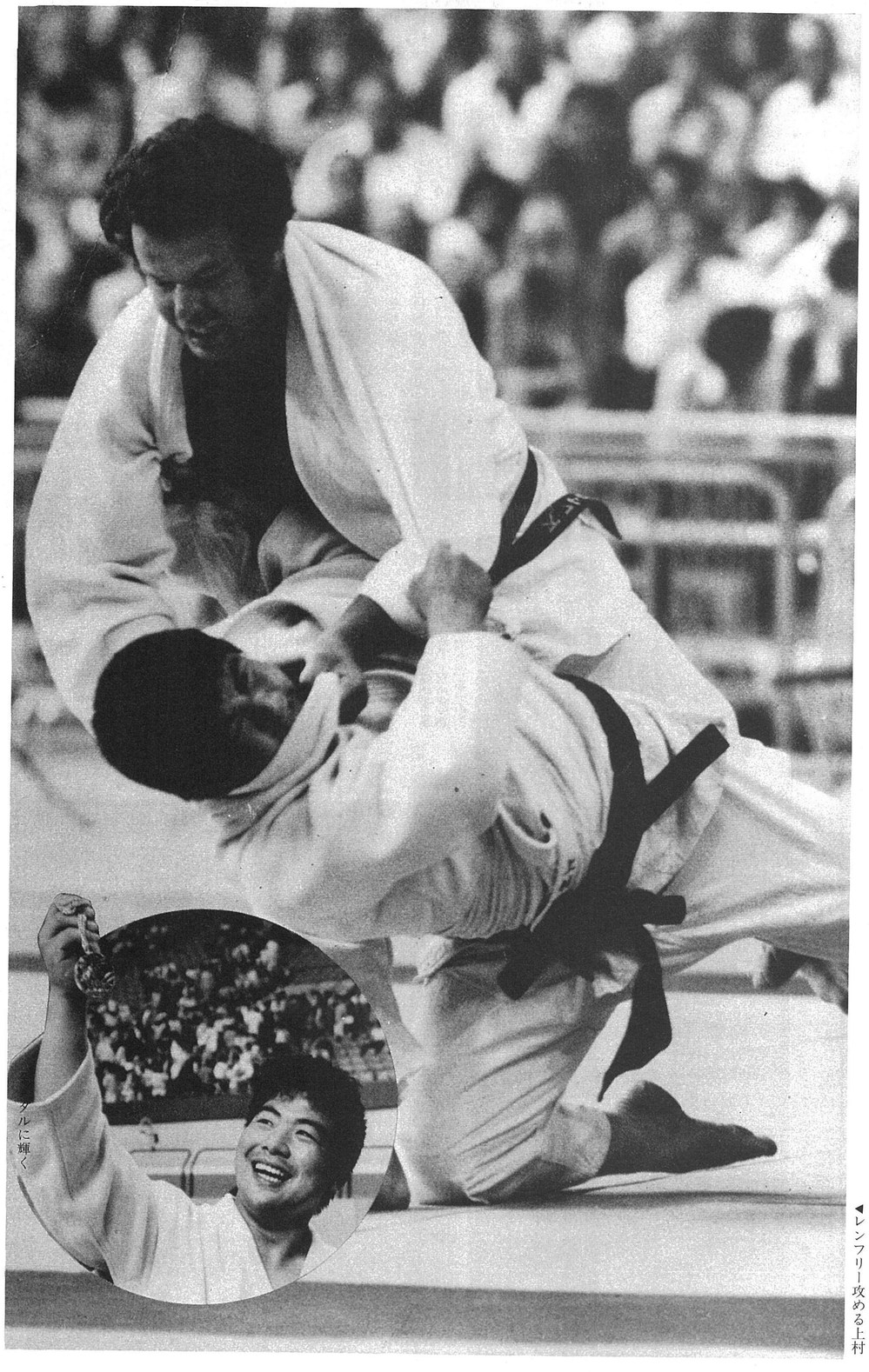
明大		1	—	1		中大
鮫島	（引分）				友松	
上村	（引分）				後藤	
重松	（引分）				国房	
吉永	（引引）				甲川	
加茂	（引分）				浅野	
岩田	○（小外刈）				土屋	
原	（優勢）	○			渡辺	

（46．6．13於武道館）

第二十回全日本学生柔道優勝大会



モントリオールで見せた明治の柔道　上村春樹



◀レンフリー攻める上村



上村

上村春樹　四七年度

I―熊本県　2旭化成㈱　3東京都

優勝、モントリオールオリンピック無差別級

全日本選手権大会二回（四八年）（五〇年）世界選手権大会無差別級（五〇年）

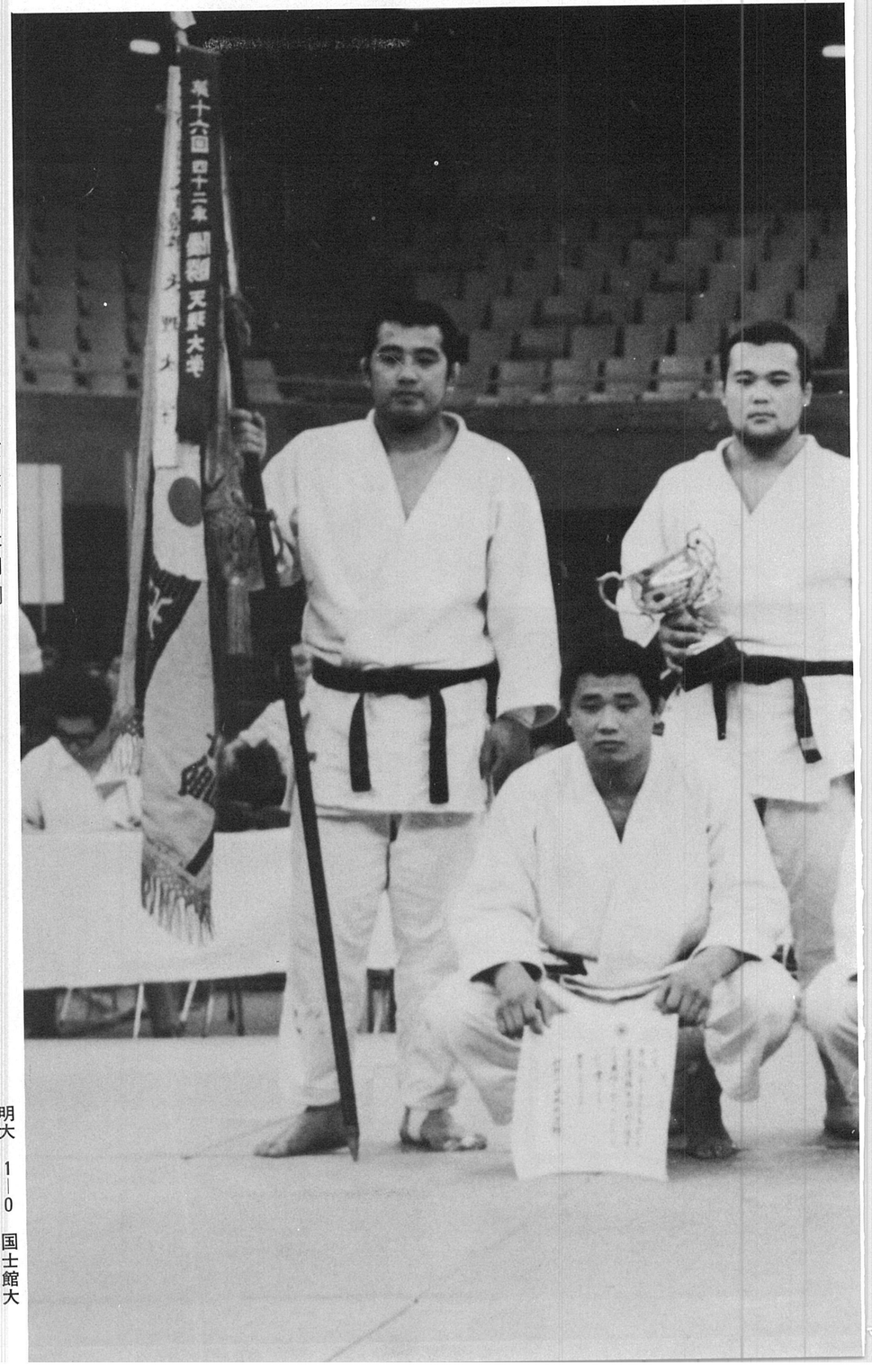
全日本学生選手権大会選手権の部（四七年）世界学生選手権大会九五㎏級（四七年）

㈲モントリオールオリムピック決勝戦対レンフリー㈱

全柔連強化コーチ㈲

明大柔道部助監督㈲

優勝(十二回目)



第二一回全日本学生柔道優勝大会

（47.6.11於武道館）



「戦後の部員」

昭和48	吉永	浩二
48	飯塚	栄
48	薦田	茂久
48	田辺	敬三
48	大谷	勝広
48	鈴木	敬三
48	渡辺	光洋
48	加藤木	祐司
48	鳥海又	八郎
48	松田	幸治
48	安田	銀台
49	平田	吉実
49	中村(田、原)	博之
49	蓬来	敬
49	山肩	登
49	茂木	康男
49	大谷	俊夫
49	菊地	毅司
49	千葉	剛

明大 1—0 国士館大

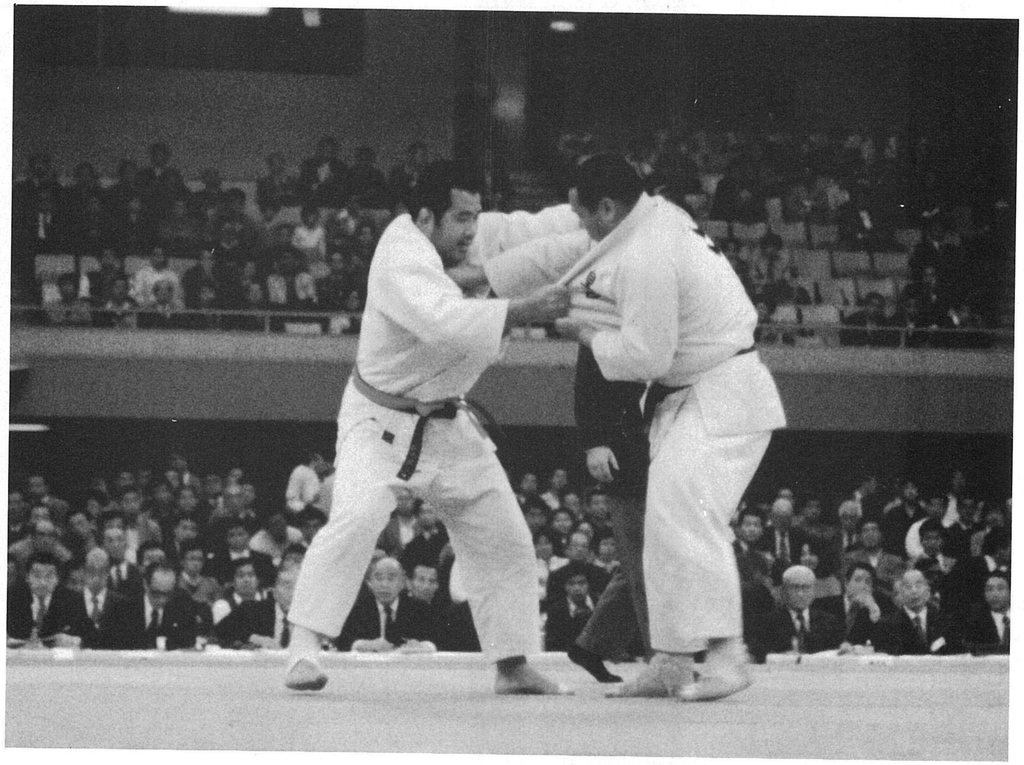
決勝戦

薦田	（引分）	上野	
鮫島	（引分）	中野	
吉永	（引分）	中村	
上村	○（縦四方固）	横倉	
原	（引分）	門田	
飯塚	（引分）	廻	
加茂	（引分）	秋田	

鮫島俊隆　四七年度　主将

Ⅰ鹿児島　2新日鉄(株)　3東京

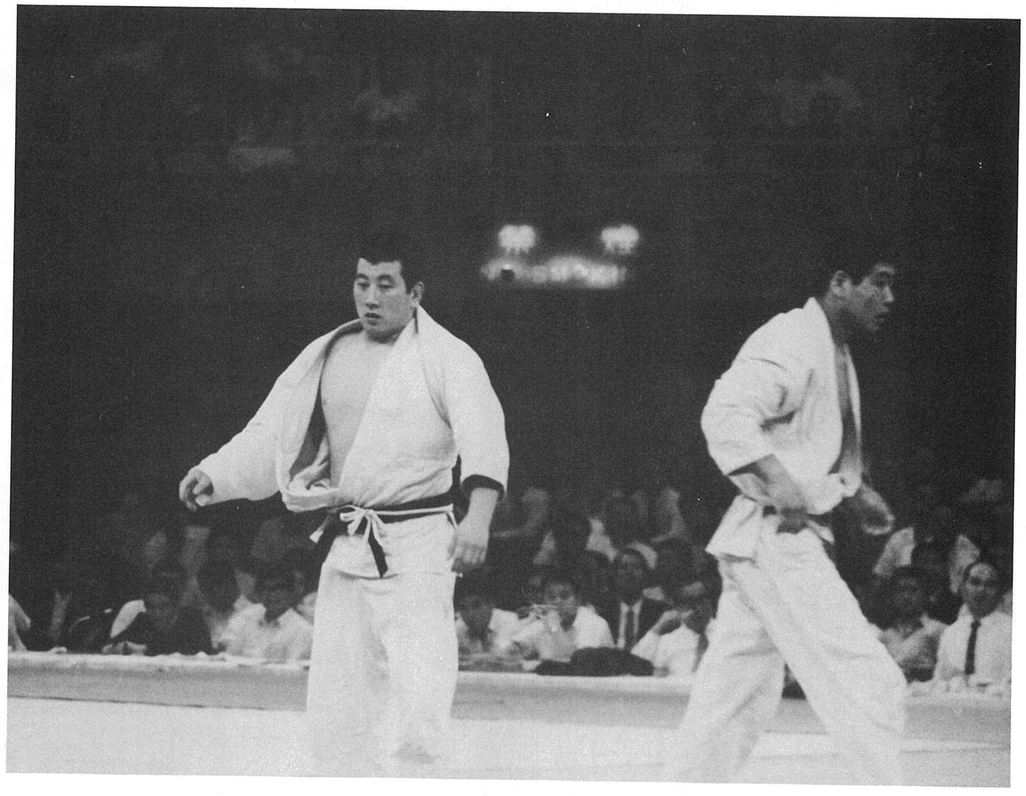
(写)対榎選手、全日本選手権大会（四九年）



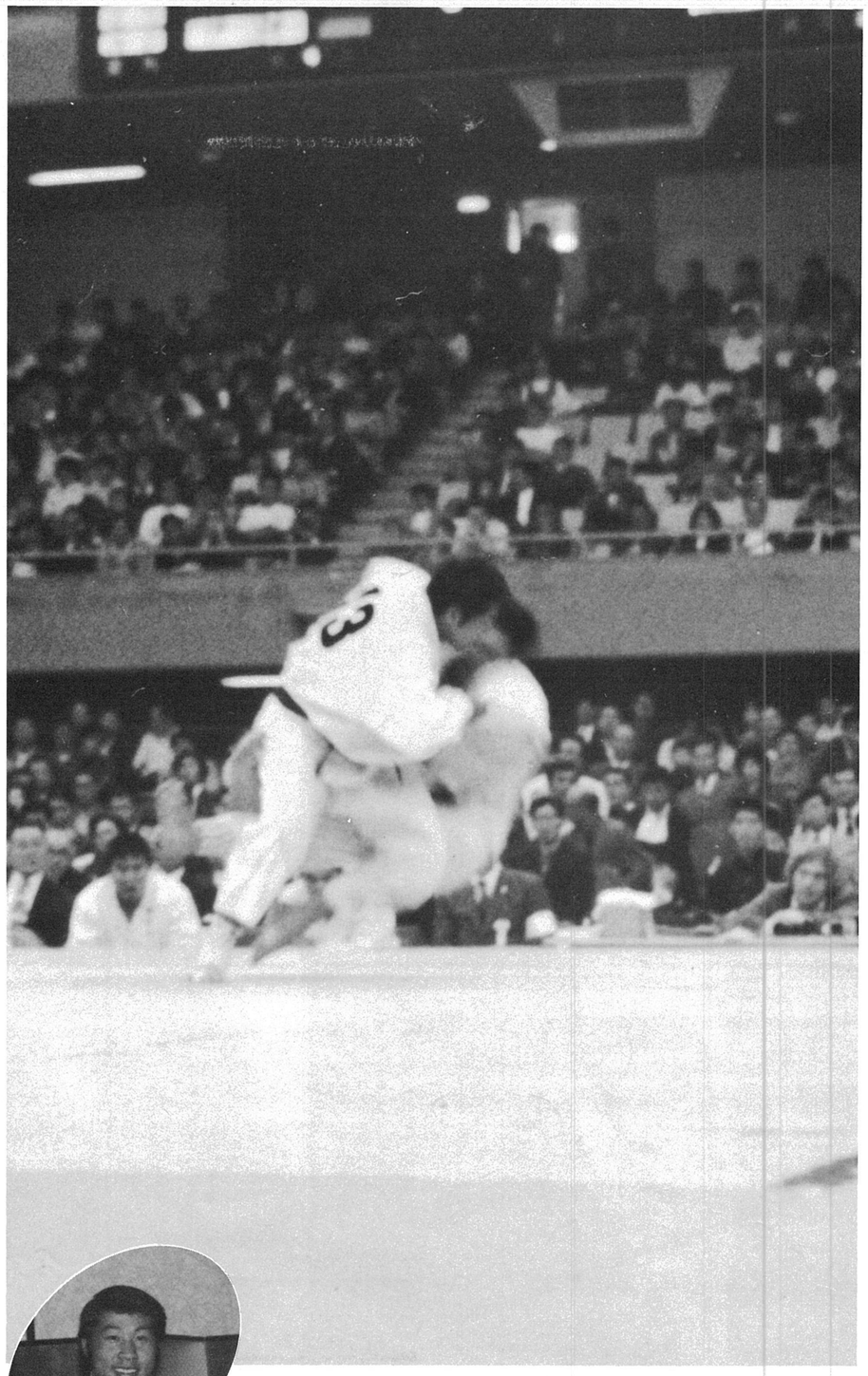
加茂博久仁　四七年度

Ⅰ福岡県　2博報堂　3東京都

(写)大将加茂の引分けで優勝決る（全日本学生優勝大会決勝（四七年）



昭和	50	田中	弘一
	50	丸谷	武久
	50	稲田(旧、福沢)	寿郎
	50	石井	茂生
	50	近藤	右一
	50	西村	武彦
	50	市原	弘一
	50	小野瀬	雅幸
	50	大熊	長年
	50	飯塚	明
	51	加瀬	次郎
	51	相沢	郁夫
	51	松岡	孝烈
	51	大村	将司
	51	高橋	博
	51	佐藤	高司
	51	鈴尾	弘幸
	51	浜本	敏典
	51	浜本	義典
	51	岡本	裕治
	51	江川	真司
	51	松浦	良彦
	51	吉田	毅
	52	諏訪	剛
	52	水嶋	則和
	52	清水	敏雄
	52	岩田	克之
	52	柳田	明雄
	52	井上	恭夫
	52	段上	道夫
	52	工藤	則彦



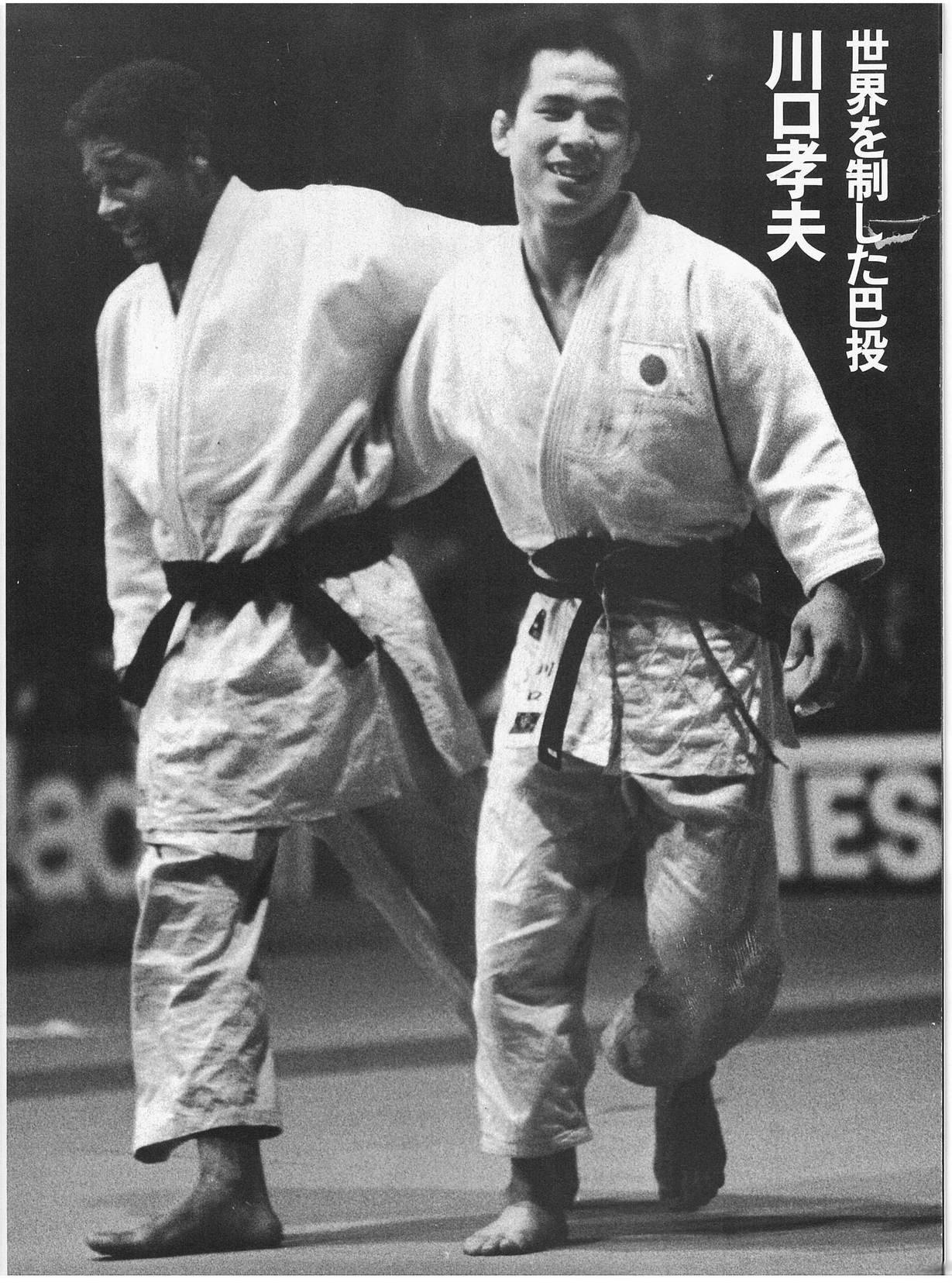
▶重松義成　四七年度

Ⅰ福岡県　2博報堂　3東京都

世界選手権大会準優勝（中量級四六年）

(写)重松―大内刈一本　全日本選手権大会（四九年）

世界を制した巴投
川口孝夫



川口孝夫　四七年度

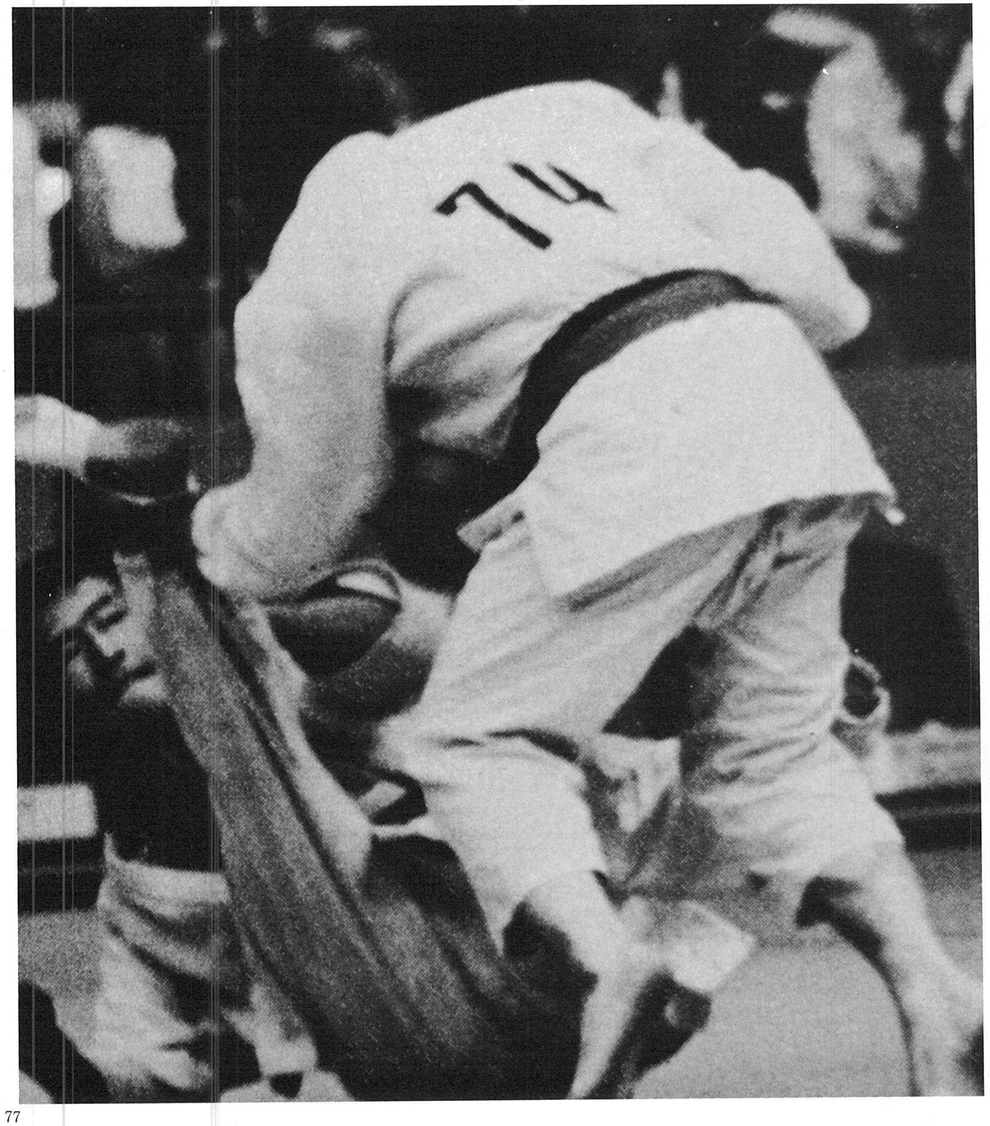
I-広島県　2法務技官　3広島市

優勝、ミュンヘンオリムピック軽量級、世界選手権大会軽量級（四六年）

(写)　①表彰台を下る川口

②肋骨を折りながらブライダー選手を攻める川口

（ミュンヘン大会決勝戦）

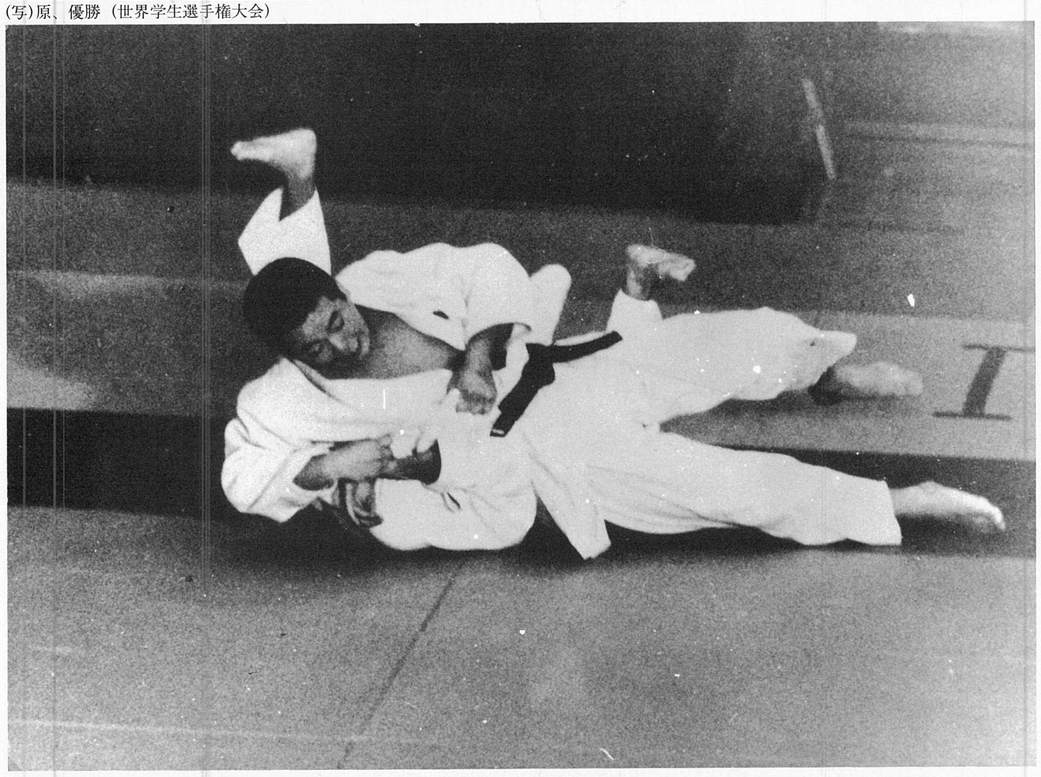




(写)原、優勝（世界学生選手権大会）

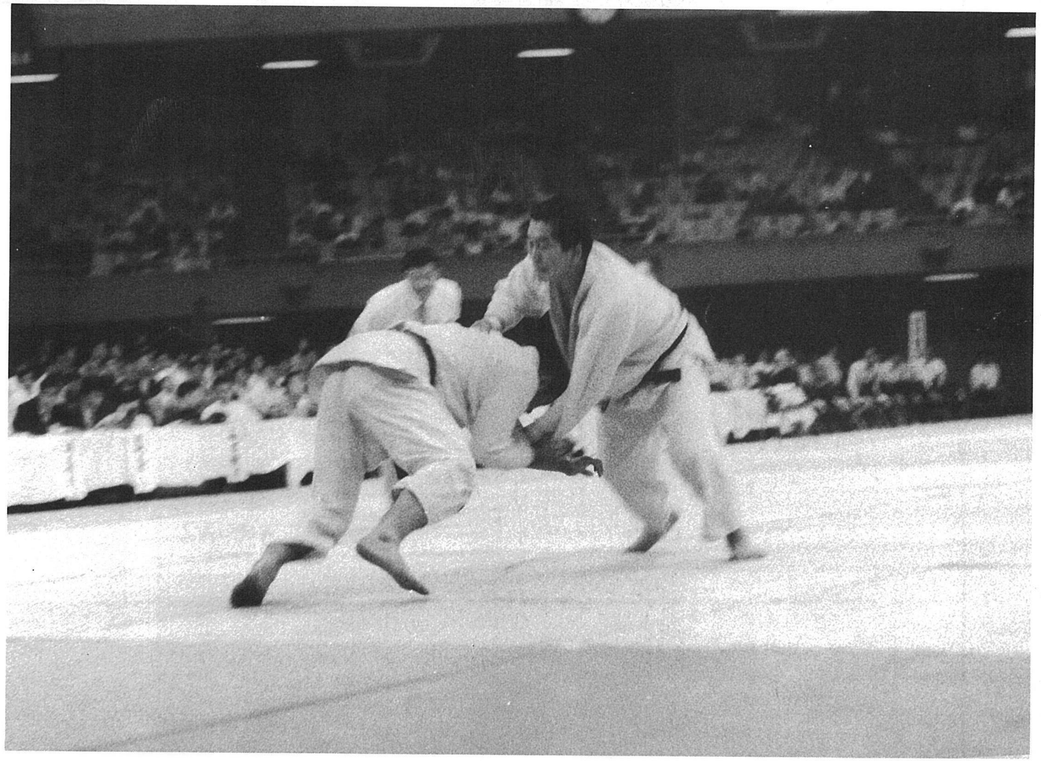
平田(原)吉実　四九年度　主将

ー福岡県　2自営業　3東京都　世界学生柔道選手権大会中量級優勝（四九年）
全米、全仏国際大会、全日本体重別大会優勝）



丸谷武久　五十年度　主将

ー福岡県　2新日鉄㈱　3姫路市　世界学生選手権大会無差別級優勝（四九年）
(写)丸谷対アダムチェック（ポーランド）世界学生選手権大会



吉永浩二　四八年度　主将

ー熊本県　2自営業　3八代市
(写)全日本学生優勝大会（四六年）対同大戦



飯塚　栄　四八年度

ー千葉県　2千葉県警　3千葉市
(写)右内股一本

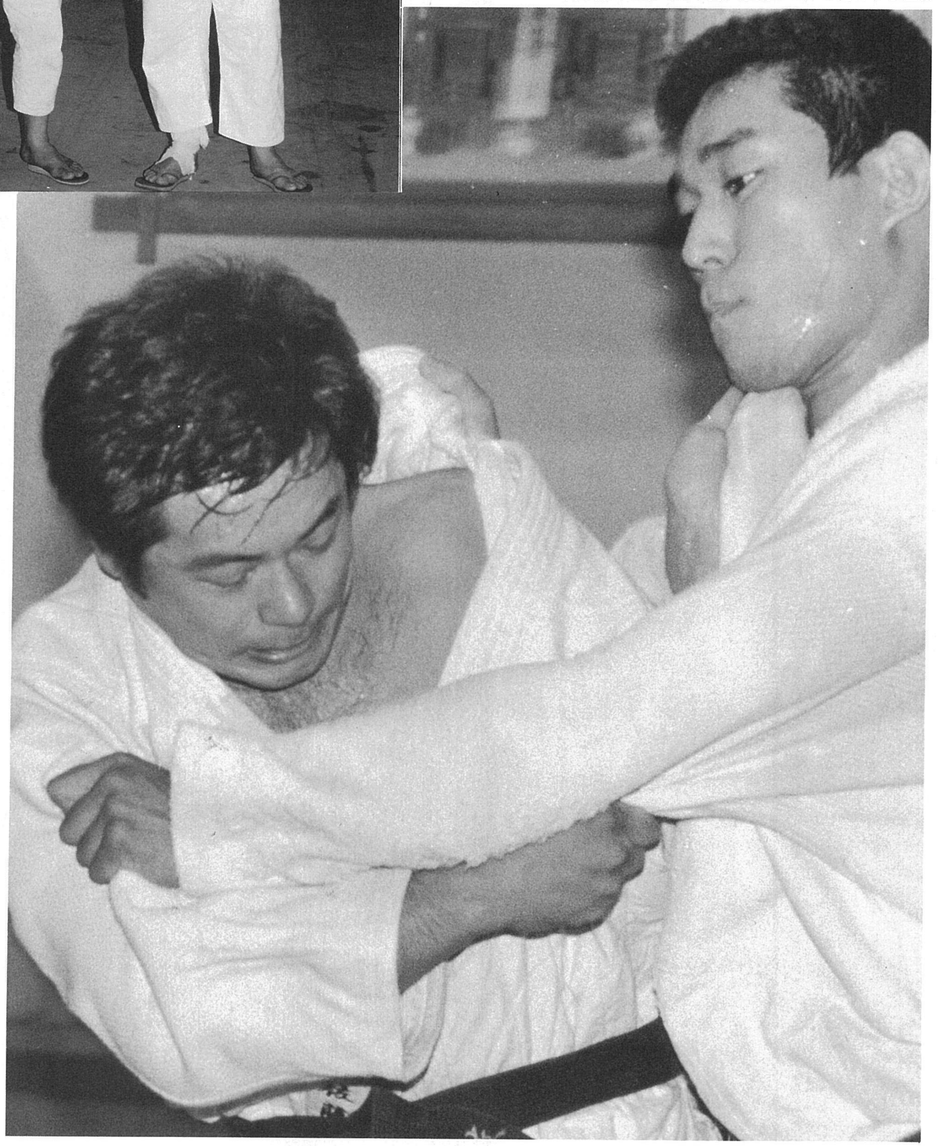
◀松村(下瀬)孝明　54年度　主将
Ⅰ山口県　2松村建設㈱　3萩市
全日本新人体重別選手権大会優勝（52年）

◀栗原三千男　54年度
Ⅰ福岡県　2新日鉄㈱　3姫路市
全日本新人体重別選手権大会優勝（52年）

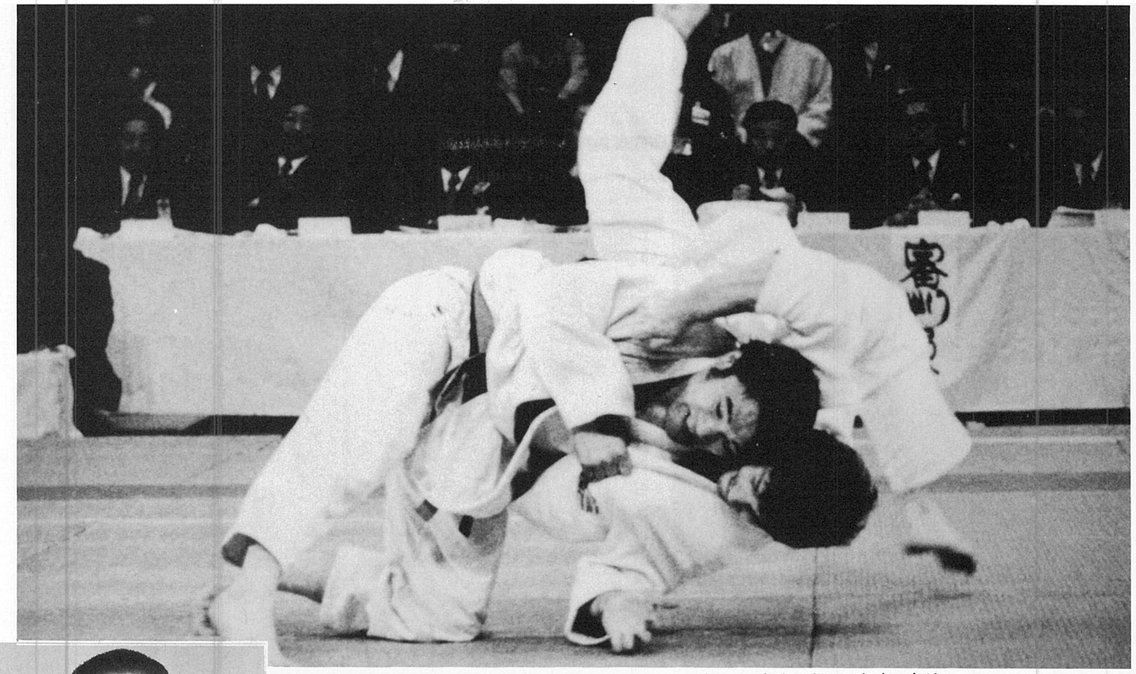


(写)下瀬と栗原

▼佐藤英彦　53年度　主将
Ⅰ東京都　2京葉ガス㈱　3東京都
全日本新人体重別選手権大会優勝（52年）
(写)柳田明雄（52年度、京葉ガス）と稽古する佐藤



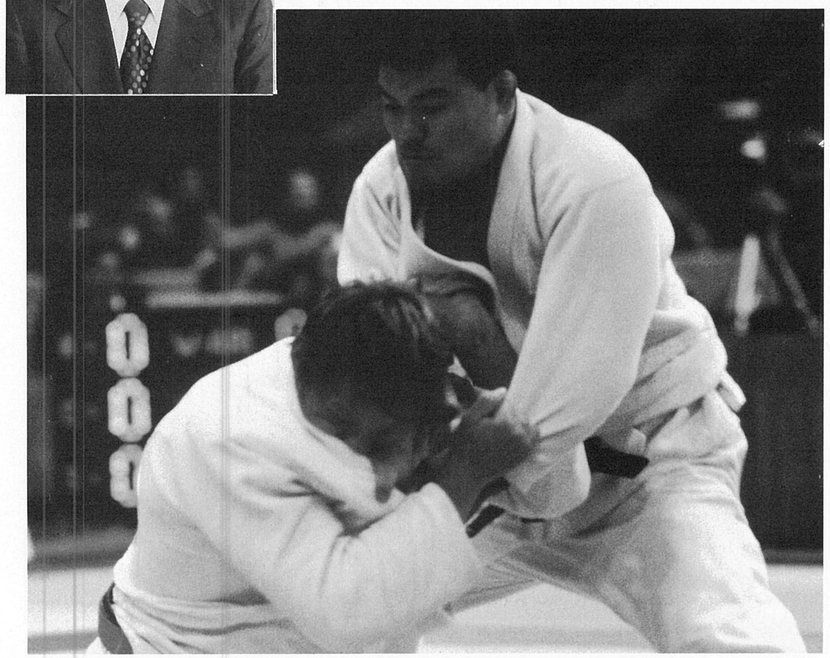
低迷期をこらえる
加瀬と諏訪



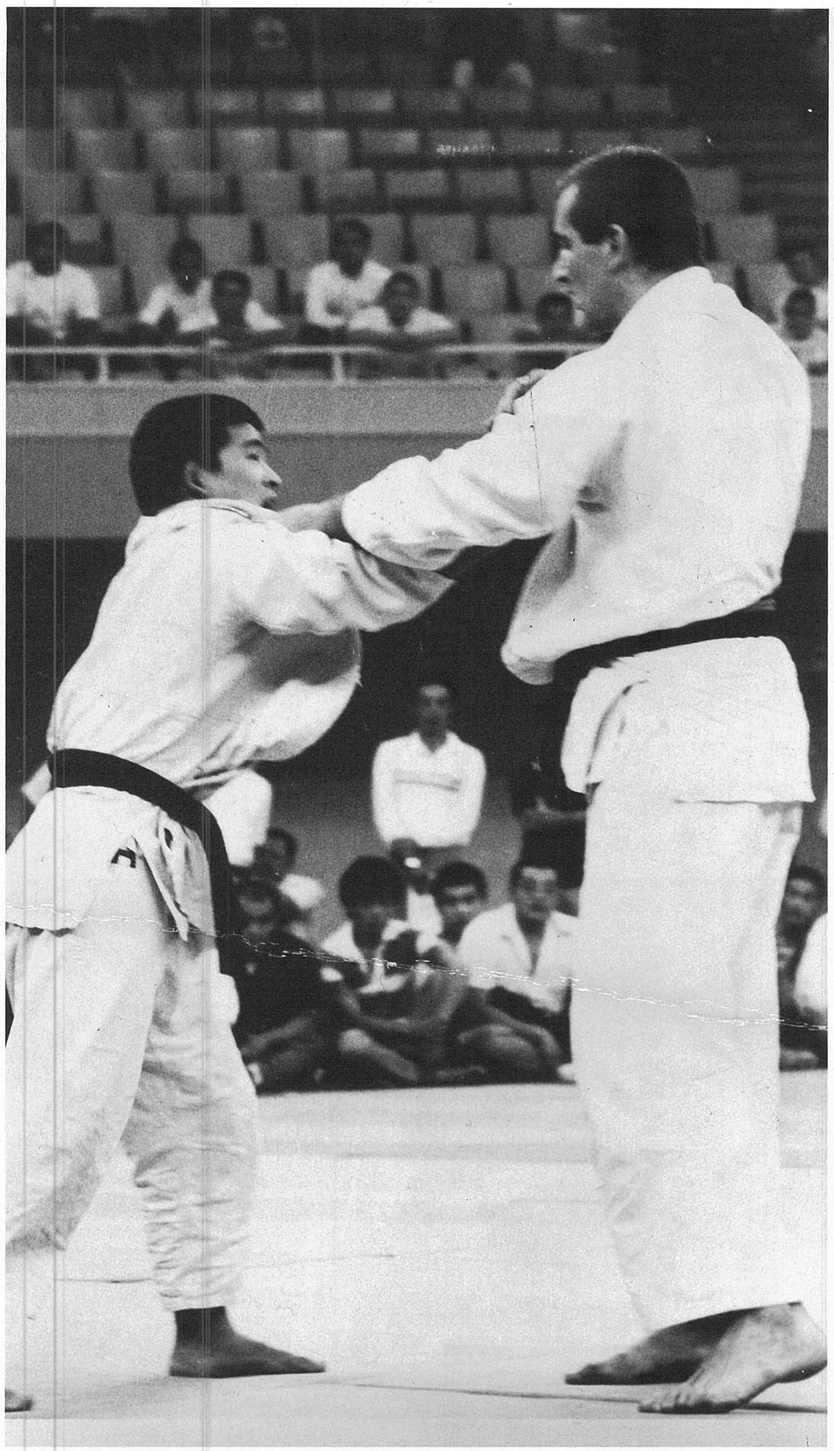


◀宮下　潔　33年度
Ⅰ群馬県　2京葉ガス㈱　3松戸市
実業団京葉ガス㈱の監督、総監督を歴任して加瀬、諏訪、柳田、佐藤、広瀬他多くの後輩を育成し斯道に貢献している。
(写)近影

▲加瀬次郎　51年度　主将
Ⅰ東京都　2京葉ガス㈱　3東京都
全日本体重別選手権大会78㎏級２連勝（55年～56年）
太平洋選手権大会二連勝（55年～56年）
(写)バロン選手を背負投で破る（太平洋選手権大会）



▲諏訪　剛　52年度　主将
Ⅰ鹿児島県　2京葉ガス㈱　3市川市
ポーランド国際大会（95㎏級、56年）　嘉納杯国際大会（95㎏級　57年）講道館杯（86㎏級、60年）に優勝。
(写)嘉納杯国際大会

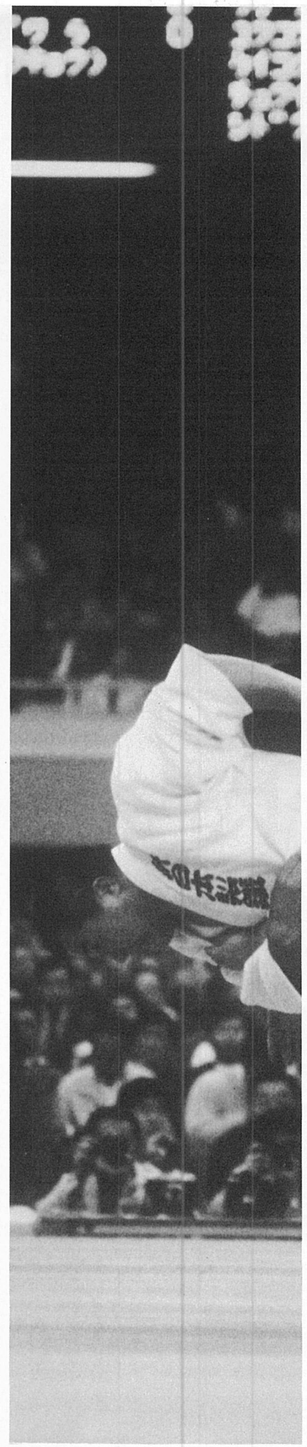


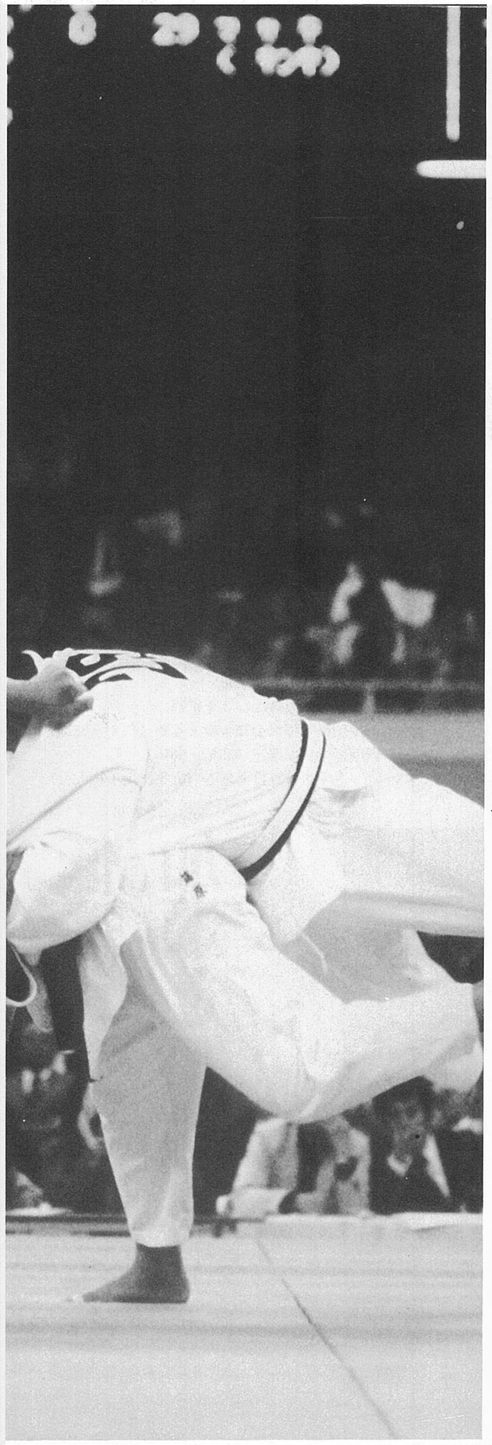
藤本一博　57年度　主将

1 熊本県　2 熊本県警　3 熊本市

全日本新人選手権大会優勝（78kg級、55年）

(写)コバセビッチ選手と戦う藤本(全日本学生優勝大会55年)



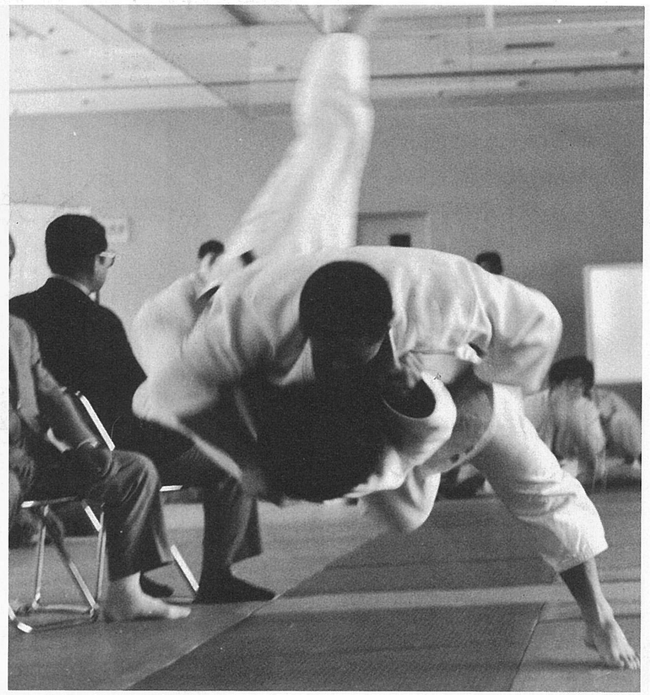


藤原敬生　55年度　主将

1 岡山県　2 新日鉄㈱　3 東京都

大平洋選手権大会、全米国際大会、フランス国際大会(団体)に優勝

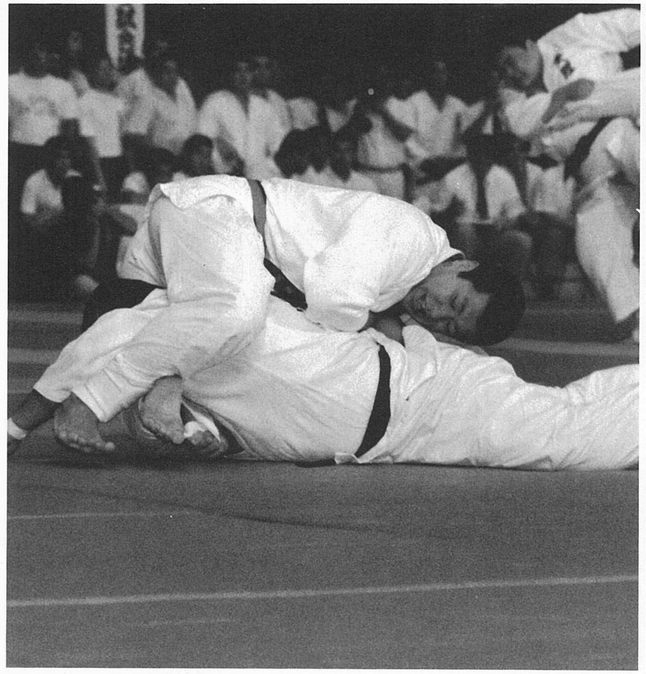
(写)全日本選手権大会、正木選手を攻める藤原



重松　裕之　57年

1 福岡市　2 中央競馬会　3 東京都

全日本新人選手権大会86kg級優勝（56年）　(写)大外刈一本（全日本新人選手権大会）



朝飛　　大　59年度　主将

1 神奈川県　2 神奈川県警　3 横浜市

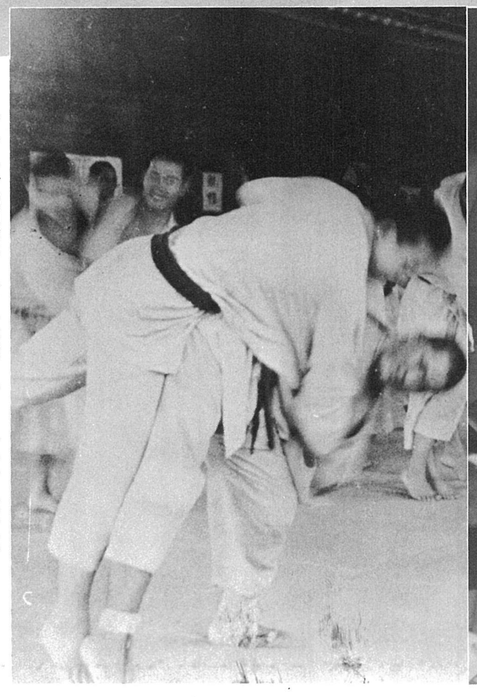
全日本学生体重別選手権優勝（86kg級、58年）

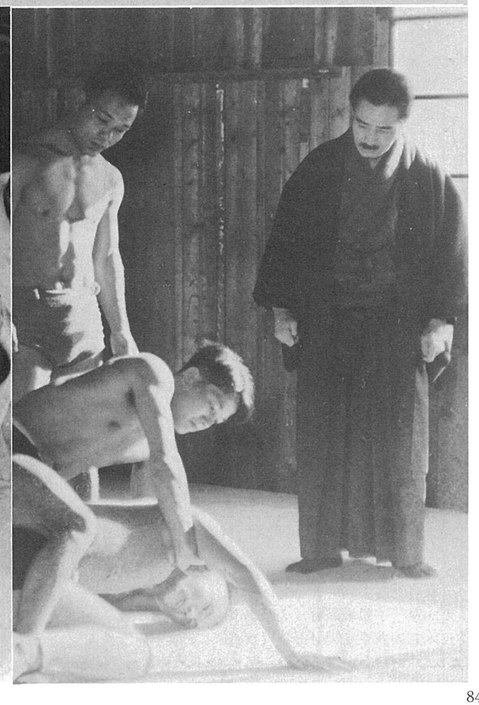
(写)三角絞決る（全日本学生優勝大会対同志社大戦）

本科、予科、専門部、時代の先輩たち。

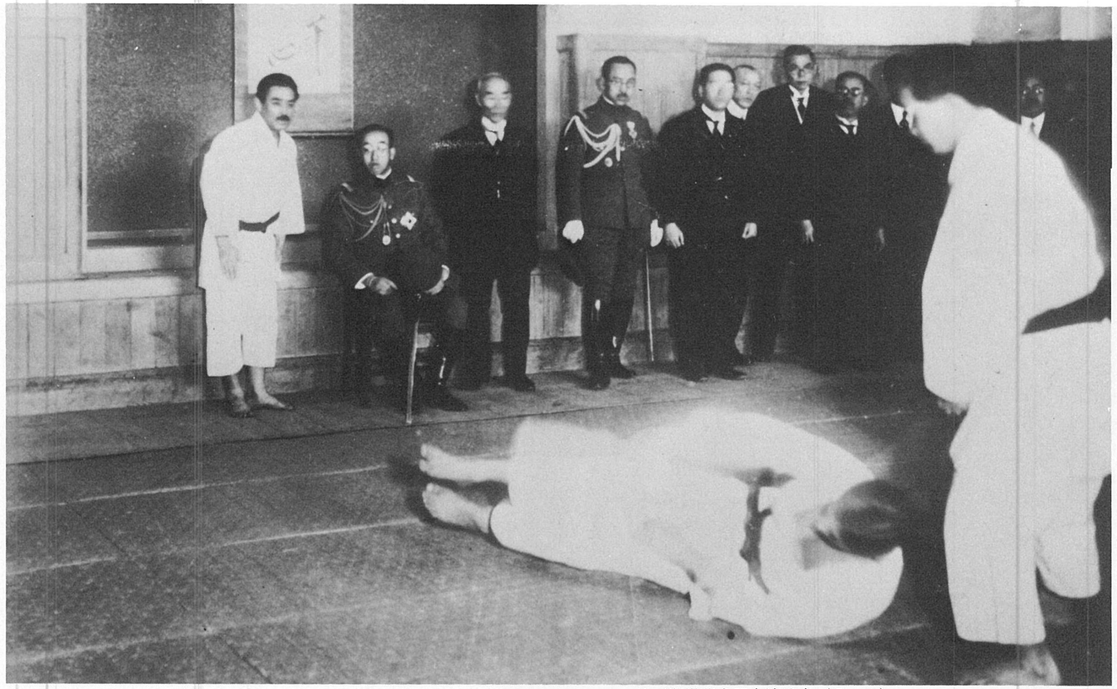
学内紅白試合（S．9）







○レスリング部創設にも尽力した松田（S・9）右、三船師範
○予科道場の練習（S・17）



地下道場落成記念演武会（S．5）

思い出の一枚



北海道遠征（S．27）



大会の開かれた国技館前（S．30）

昭和53	佐藤	英彦
53	桜田	裕
53	入江	秀明
53	米田	守
53	山内	鉄生
54	松村（旧下瀬）	孝明
54	栗原	三千男
54	谷口	淳
54	田中	和美
54	清崎	威朗
54	滝沢	良
54	中尾	保裕
54	佐藤	忠司
54	河田	恵吾
55	藤原	敬生
55	薦田	文明
55	広瀬	徳和
55	鈴木	正
55	安川	寛道
55	栗田	勝治
56	一沢	秀明
56	古川	誠也
56	中川	隆之
56	田原	聖也
56	金子	泰夫
56	植田	茂
56	加藤	良人
56	山田	章弘
56	滝本	英之



那覇空港にて（S39）

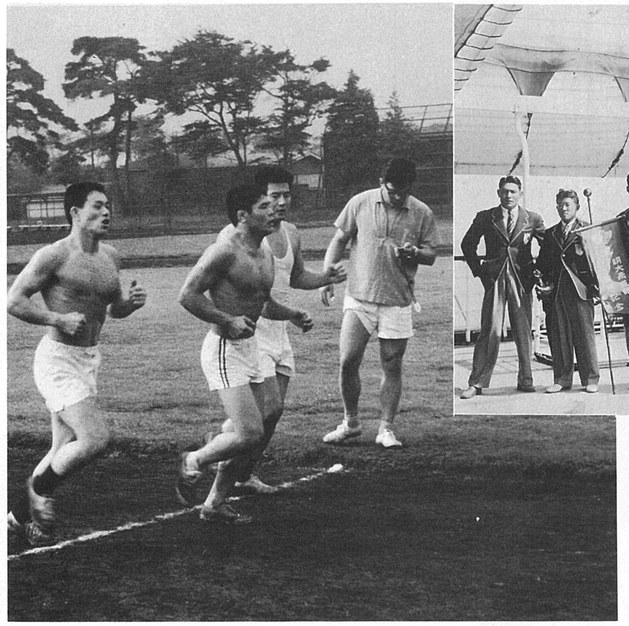


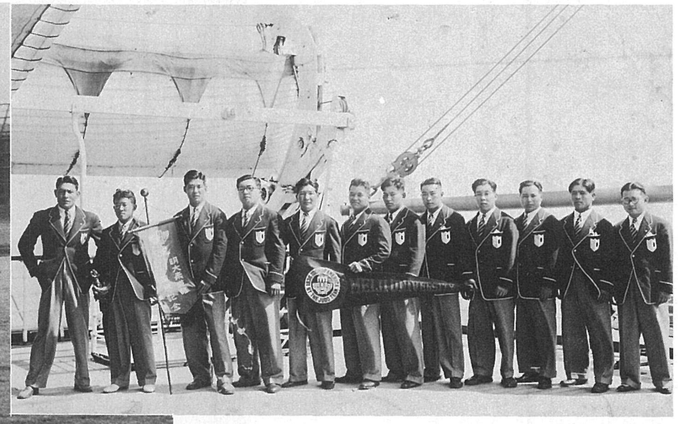
▲学生食堂にて（S.33）



▼全日本選手権大会出場の明大勢（S.40）

アメリカ遠征（S11.）



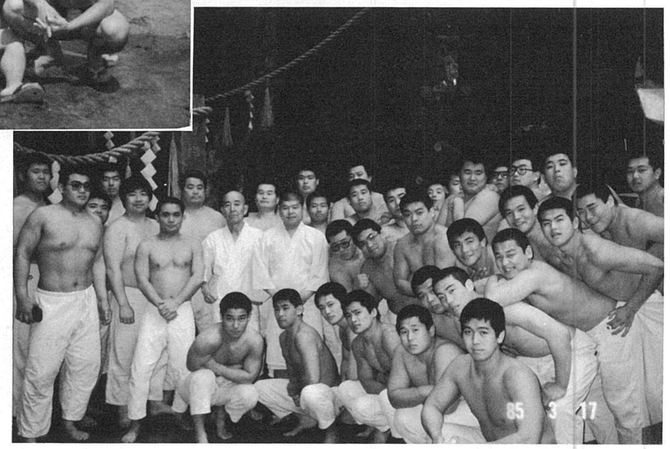




トレーニング（S.38）



安房の海にて（S.54）



高尾山にて（S.60）

熊本自衛隊合同練習（S.53）



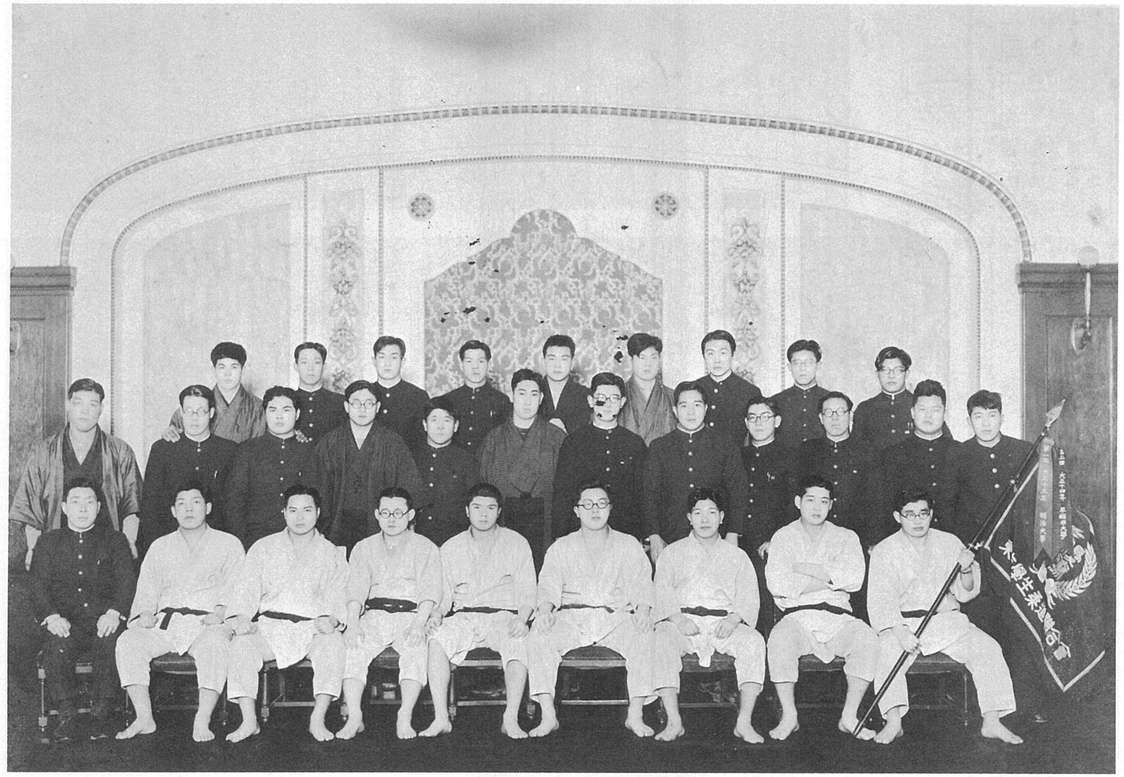


姿寮にて（S.43）



小平仮合宿所にて（S.52）

東京大学リーグ戦優勝（S10.）



歴代のマネージャー（近影）1


神田和夫（26年度）


菅原雄二（27年度）


工藤欣一（28年度）


押切義春（29年度）

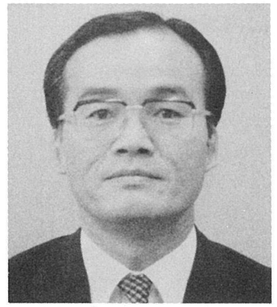

高田喜之（30年度）


五島　光（31年度）


永井佑治（32年度）


小川登志雄（33年度）


立花敏明（34年度）


松本順吉（36年度）


堤　　繁（37年度）


大村勝利（38年度）


中島今朝光（40年度）

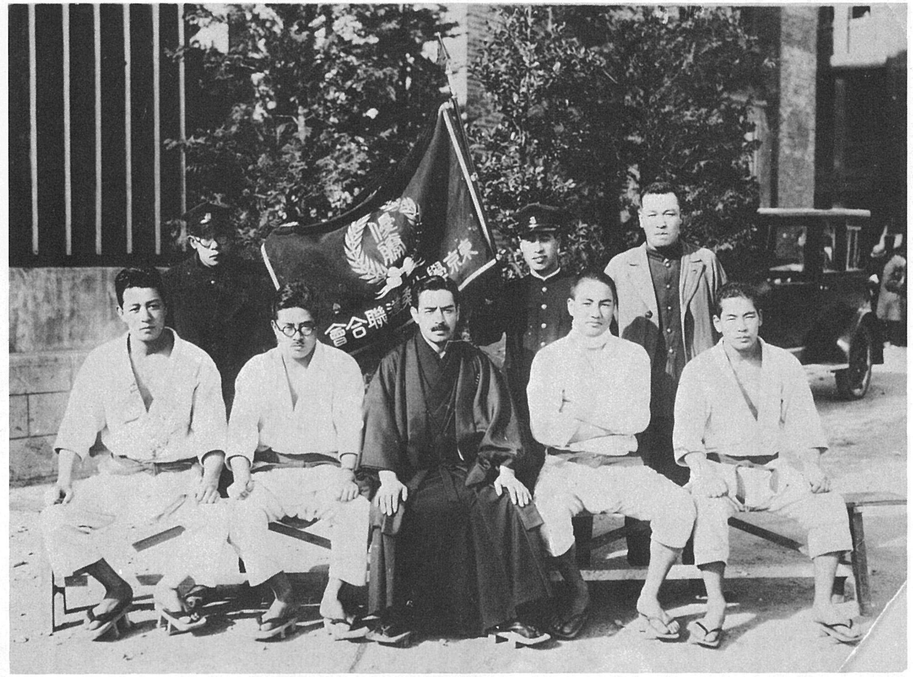

渡辺公雄（41年度）


高木将光（42年度）

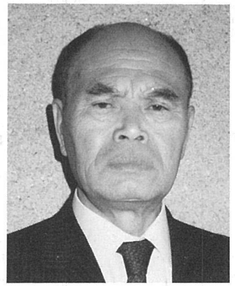

佐藤康夫（44年度）

昭和57	藤戸	優治
57	斉藤	剛生
57	藤本	一博
57	山内	秀人
57	森園	文成
57	小山	賢司
57	亀村	泰司
57	木下	剛至
57	重松	裕之
57	吉田	尚生
57	佐藤	恵生
57	正司	直樹
58	藤鷹浩一郎	
58	神山	浩之
58	松村	栄治
58	加藤龍一郎	
58	榊原	昭成
58	中村	正浩
58	熊谷	雅之
58	野中	英司
58	太田	昌貴
58	清崎	優
58	千葉	宏之
59	朝飛	大
59	今堀	浩之
59	大嶋	貴志
59	矢作	和久
59	斉藤	峰章
59	青野	浩三
59	富士井	義文
59	日田	孝志
59	古賀	智
59	早坂	久永
59	木村	忠光
59	三石	秀司


（S．39 道場）


第１回明治神宮大会（学生選手権大会）優勝（大正13年）

表紙／渡辺政雄（29年度）の大内刈



主催者を代表して

明柔会々長　姿　節雄

我が明治大学柔道部が本年めでたく創立、八〇周年を迎えた。

伝統を誇る駿台体育会にあって最も早期に創設された部の一つであるときく。黎明の時代にいち早く嘉納師範の理想にふれ、その探究に情熱をかたむけた先達の気概がいまあらためてしのばれる。

又、はげしい社会変革の中で創部期から今日まで一貫してその精神を伝えて来られた各時代の先輩諸氏に対し衷心の敬意を表し、同時に今日ある我々のこの誇りを未来につなぐべく努力する事を誓う次第である。

思えば私自身、明大柔道部との絆を得て五十年を経た、良き時代、苦難の時、数々の思いがその時々に登場した人々の面影と共に脳裏をかすめる。

例えば戦後をふり返っただけでも終戦からしばらく続いた経済上の困難、それをのり越えて握った勝利の喜び、又不振にあえぐ現在のきびしさ等々感慨はつきることがない。

本日、全国ＯＢの尽力によって盛大に記念の式典が催される事になった。明柔会の結束と協力はこれまで多くの力を学生にあたえて来た。

しかしその期待に背き続けている昨今を思えば指導陣の一人として内心忸怩たるものがある。

間もなく私も古稀を迎える年となった、もはや若くはないのだが「冬来たりなば春遠からじ」の言葉を当面の銘として今後も明大柔道部の復活に執念を燃す所存である。

ＯＢ諸兄に於れては日頃歯がゆい思いをされている事であろうが学生に対して今後も変らぬ御支援と鞭撻を願う次第である。

尚、会報編集部が部史整理の一環としてこの機会に御覧の様な写真集を刊行した。戦中、戦前の写真が系統的に集らないため二六年の学生柔道復活以後が編集の中心になったとの事、戦前派の私にとっては多少不満ではあるが先ずはやむを得ぬ事であろう。

改めて全国明柔会員諸兄の部員に対する日頃の御支援に感謝を申し上げ、挨拶とする。

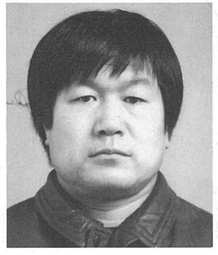
会報編集部スタッフ



西村良之　45年度卒（事務局兼）



代田正俊　44年度卒（事務局兼）



小林敏邦　33年度卒



神永昭夫　33年度卒



渡辺欣嗣　29年度卒（事務局兼）



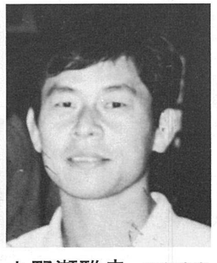
神田和夫　26年度卒（発行人）



河田恵吾　54年度卒



入江秀明　53年度卒（事務局兼）



小野瀬雅幸　50年度卒

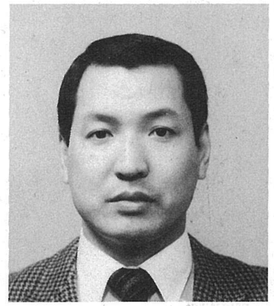


吉井敬吉　47年度卒

歴代のマネージャー（近影）2



西村良之（45年度）



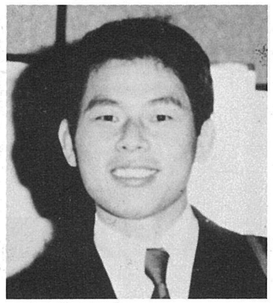
鈴木　強（46年度）



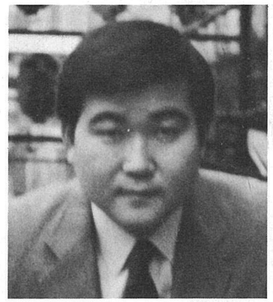
鳥海又八郎（47・48年度）



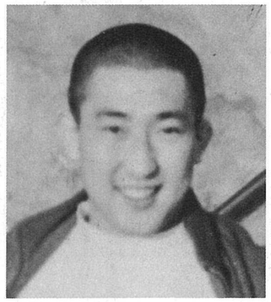
菊地毅司（49年度）



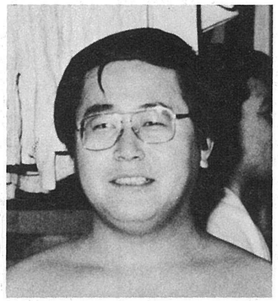
小野瀬雅幸（50年度）



浜本義典（51年度）



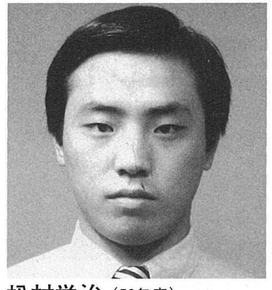
山内鉄生（52・53年度）



河田恵吾（54年度）



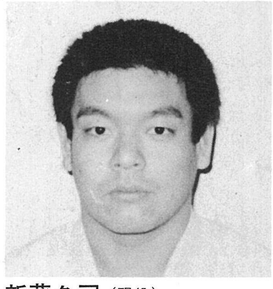
佐藤恵生（57年度）



松村栄治（58年度）



富士井義文（59年度）



新藤久司（現役）

須藤重男（27年度）
榎本　正（35年度）
高武登志満（39年度）
葉山義光（43年度）
栗田勝治（55年度）
の諸氏は写真未着でした。